Syllabus
シラバス

２０２６年度

Nagasaki
University
School
of
Dentistry

長崎大学歯学部

歯学部の授業内容は歯科大学学長・歯学部長会議で定めた「歯科医学教授要綱」にそって行われており、さらに授業方法は担当教員一人ひとりの創意、工夫に委ねられている。したがって、それぞれの科目の授業の特色を知って出席することが、授業を実り多いものにするのに欠かせない。

「シラバス」syllabus（授業計画書）とは、学生諸君が初めて出会う授業に戸惑わないよう、その内容や方法をあらかじめ伝え、一方通行ではない、大学らしい授業を行うために各担当者により執筆されたガイドブックである。

ここに盛られているのは、授業の概要及び位置づけ、授業の到達目標、授業の方法、教科書と参考書、成績評価の方法、注意事項、それに順を追った授業計画である。「シラバス」に目を通すことによって、担当教員がこの授業によって何を伝えようとしているのか、どういう進め方をするのか、学生に何を準備して授業に参加してほしいと期待しているかがわかるはずである。授業を受ける前に熟読すれば、効果的な予習の役に立ち、また復習や試験勉強の格好のガイドにもなる。教員の要求する準備をして授業に臨めば、共通のベースに立脚した質疑応答が活発に行われ、双方向的な授業の展開が可能になるだろう。

さらに、全学的な授業評価アンケートも実施しているので、学生側からの意思表示もより明確にできると考える。

なお、臨床実習を開始するに十分な知識の有無を問う共用試験（CBT・OSCE）は、教育ガイドラインである歯学教育モデル・コア・カリキュラムに対応し実施されている。

臨床実習に関しては、別に用意した詳細な「臨床開始前実習の手引」及び「臨床実習の手引」が「シラバス」に相当するので、本冊子には含まれていない。

授業を受けるにあたって、該当科目の「シラバス」を十分に活用し、下記の歯学部の理念を念頭に、教育目標を達成してほしい。

歯学部の理念

基本的教養と幅広い歯科口腔医学専門知識を修得し、今後の歯科口腔医学、歯科口腔医療を切り拓くとともに社会に信頼される歯科医師および研究者を養成する。

歯学部の教育目標

(1)　責任感、社会性を持ち、歯科医師としての倫理観と豊かな人間性を身につけている。
(2)　コミュニケーション能力と協調性を身につけている。
(3)　生命科学へのリサーチマインドを身につけている。
(4)　離島等の地域歯科医療について、保健・医療・福祉の側面から総合的に考えることができる。
(5)　先進的な歯科口腔医療に対応できる幅広い知識と基本的技能を身につけている。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、各授業の担当教員または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談ください。

アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先

（TEL）095-819-2006　（E-MAIL）support@ml.nagasaki-u.ac.jp

歯学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版） 概要

〇学生が卒業時までに身に付けておくべき、必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）を、「ねらい」と「学修目標」として明確化
〇学生の学修時間数の6割程度を目安としたもの
〇「歯科医師として求められる基本的な資質・能力」として、ミニマム・エッセンスである項目を記載

【各大学のアドミッション・ポリシー】　【各大学のカリキュラム・ポリシー】　【各大学のディプロマ・ポリシー】

多様なニーズに対応できる歯科医師の養成

A 歯科医師として求められる基本的な資質・能力

- 医学知識と問題対応能力
- 診療技能と患者ケア
- コミュニケーション能力
- チーム医療の実践
- プロフェッショナリズム
- 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
- 科学的探究
- 社会における医療の実践
- 医療の質と安全の管理

B 社会と歯学

- 健康の概念
- 予防と健康管理
- 健康と社会、環境
- 疫学・保健医療統計

C 生命科学

- 基礎自然科学
- 生命の分子的基盤
- 人体の構造と機能
- 感染と免疫
- 病因と病態
- 生体と薬物

D 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）

- 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途
- 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法

E 臨床歯学

- 診療の基本
- 口腔・顎顔面領域の常態と疾患
- 歯と歯周組織の常態と疾患
- 矯正歯科・小児歯科治療
- 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患
- 医師と連携するために必要な医学的知識

F シミュレーション実習（模型実習・相互演習（実習））

- 診療の基本
- 基本的診察法
- 基本的臨床技能

G 診療参加型臨床実習

- 診療の基本
- 基本的診察法
- 基本的臨床技能
- チーム医療・地域医療
- 患者中心の医療
- （別表）臨床実習の内容と分類

診療参加型臨床実習開始前の「共用試験」CBT（知識）及びOSCE（技能・態度）

診療参加型臨床実習終了時の技能・態度評価

歯科医師法に基づく歯科医師国家試験（知識）

各大学の特色ある独自のカリキュラム（学生の学修時間数の4割程度）
※ 各大学が教育理念に基づいて設置する独自の教育内容（学生が自主的に選択できるプログラムを含む）

医学/歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

- 各大学が策定する「カリキュラム」のうち、全大学で共通して取り組むべき「コア」の部分を抽出し、「モデル」として体系的に整理したもの。
- 初版は平成13年3月に策定。医療を取り囲む環境変化に伴い改訂（平成19年度、22年度、28年度）。
- 学生が**卒業時までに身に付けておくべき必須の実践的診療能力（知識・技能・態度）**に関する学修目標を**明確化**。
- 学生の学修時間数の**医学:3分の2程度、歯学:6割程度**を目安としたもの （残りは各大学の特色ある独自のカリキュラムを実施）。

キャッチフレーズ

「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」



人口減地域の増加



新興感染症・災害リスクの増大





高齢化率の上昇

新規科学技術の台頭



「医師/歯科医師に求められる基本的な資質・能力」を共通化（赤字は新設）

PR. プロフェッショナリズム	**IT. 情報・科学技術を活かす能力**
GE. 総合的に患者・生活者をみる姿勢	CS. 患者ケアのための診療技能
LL. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢	CM. コミュニケーション能力
RE. 科学的探究	IP. 多職種連携能力
PS. 専門知識に基づいた問題解決能力	SO. 社会における医療の役割の理解



令和８年度歯学部行事予定表

― 前　期 ―

学年開始	４月　１日（水）
授業開始（２～６年）	４月　１日（水）
入学式	４月　２日（木）
新入生学部オリエンテーション（１年）	４月　３日（金）
入学時ワークショップ（１年）	４月　４日（土）
授業開始（１年）	４月　６日（月）
臨床開始前実習（５年）	５月　７日（木）～１０月２日（金）
ＣＢＴ（５年）	６月１６日（火）
ＯＳＣＥ（５年）	７月２５日（土）
前期定期試験時間割発表	７月　９日（木）
授業終了（１～４年）	７月２８日（火）
授業終了（５年）	７月２４日（金）
定期試験期間（１年）	８月　３日（月）～　４日（火）
定期試験期間（２～４年）	７月２３日（木）～３１日（金）
定期試験期間（５年）	８月１７日（月）～２１日（金）
夏季休業（１年）	８月　５日（水）～　９月２５日（金）
夏季休業（２～４年）	８月　３日（月）～　９月２５日（金）
夏季休業（５年）	７月２７日（月）～　８月１４日（金）、 ８月２４日（月）～　９月１８日（金）
ＣＢＴ追再試験（５年）	８月　４日（火）
ＯＳＣＥ追再試験（５年）	８月２２日（土）
臨床知識理解度試験（６年）	８月１７日（月）～１８日（火）
臨床知識理解度試験追試験（６年）	８月１９日（水）～２０日（木）
追・再試験時間割発表（１～４年）	８月　７日（金）
追・再試験時間割発表（５年）	８月２４日（月）
追試験期間（１～４年）	８月１７日（月）～１８日（火）
追試験期間（５年）	８月２５日（火）～２６日（水）
再試験期間（１年）	８月２４日（月）～２５日（火）
再試験期間（２～４年）	８月２４日（月）～２６日（水）
再試験期間（５年）	８月３１日（月）～　２日（水）
ＣＳＸ（６年）	９月１０日（木）
ＣＳＸ追試験（６年）	９月２４日（木）
臨床知識理解度試験再試験（６年）	９月１４日（月）～１５日（火）
前期成績発表	９月の指定する日

― 後　期 ―

授業開始	９月２８日（月）
臨床実習（５年）	１０月　５日（月）～翌年度９月末
卒業認定試験（６年）	１０月２２日（木）～２３日（金）
解剖体慰霊祭	１０月２２日（木）
歯学部祭	１０月中旬～１１月下旬頃
卒業認定試験追再試験（６年）	１１月１２日（木）～１３日（金）
冬季休業（１～４年）	１２月２４日（木）～１２月３１日（木）
後期定期試験時間割発表	１月１９日（火）
授業終了（１～４年）	２月　１日（月）
定期試験期間（１年）	２月　２日（火）、８日（月）
定期試験期間（２～４年）	２月　２日（火）～８日（月）
追・再試験時間割発表（１～４年）	２月１０日（水）
追試験期間（１年）	２月１５日（月）
追試験期間（２～４年）	２月１２日（金）
再試験期間（１年）	２月２２日（月）
再試験期間（２～４年）	２月１７日（水）～１９日（金）
卒業式	３月２５日（木）
学年終了	３月３１日（水）
後期成績発表	３月の指定する日

令和8年度歯学部カレンダー（2～4年次）

前期：4月1日（水）～7月31日（金）
1Q：4月1日～6月3日（5月28日～29日を除く）
2Q：5月28日～7月31日（6月1日～3日を除く）

	日	月	火	水	木	金	土
R8年4月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
5月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
6月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
7月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
8月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
9月	30	31	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	後期28	後期29	後期30			
回数	－	15	15	15	15	15	－

後期：9月28日（月）～2月8日（月）
3Q：9月28日～11月30日（11月25日～27日を除く）
4Q：11月25日～2月8日（11月30日を除く）

	日	月	火	水	木	金	土
9月	27	28	29	30	1	2	3
10月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
11月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
12月	29	30	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
R9年1月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
2月	31	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
3月	28	1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
回数	－	15	15	15	15	15	－

注：9月28日（月）は後期の授業開始日

休業日等（1/19(火)は共通テスト試験監督等振替、1/22(金)は学校推薦型選抜Ⅱ当日）

授業日

補講日（補講を実施しない場合は定期試験日として利用可能）

定期試験日

追試験日

再試験日

（令和8年度）歯学部授業時間割

（ 前 期 ）（ 1Q・2Q ）

曜日		校時	I 8:50–10:20	II 10:30–12:00	III 13:00–14:30	IV 14:40–16:10	V 16:20–17:50
		年次	1 8:50–9:50	2 10:00–11:00	3 11:10–12:10	4 13:00–14:00	5 14:10–15:10	6 15:20–16:20	7 16:30–17:30	8 17:40–18:40
月	1		歯科学のための物理科学（講3B）	細胞生物学入門Ⅰ（講3B）	歯学展望（講3B）	骨学及び同実習（歯解実・講3B・医2講・医1実）			教養教育：初年次セミナー（坂本）	
	2		教養教育							
	3			微生物学・口腔微生物学（講3A）		薬理学及び同実習（講3A・実5C）				
	4		歯科矯正学及び同実習（講6A・臨4B）			予防歯科学及び同実習（講6A・臨4B）			基礎歯学研究	
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習						基礎歯学輪講（講3A）	
火	1		（1Q）学内・学外早期体験実習 ／（2Q）歯科医師のコンピテンシーⅠ（講3B）			細胞生物学プラクシス（講3B）			教養教育：初年次セミナー（坂本）	
	2		教養教育							
	3		薬理学及び同実習（講3A・実5C）	（1Q）微生物学・口腔微生物学（講3A）／ （2Q）病理学総論及び同実習（講3A・実5B）		病理学総論及び同実習（講3A・実5B）				
	4		歯科矯正学及び同実習（講6A）		保存修復学（講6A）	保存修復学実習（臨4B）				
	5		統合科目（講6B）						歯学研究	
	6		臨床実習							
水	1		教養教育							
	2		生理学（講3B）／生理学実習（実5C）			（1Q）教養教育：歯科学のための生物科学（講3B）		（1Q）教養教育：歯科学のための化学（講3B）		
	3		歯科理工学Ⅰ／歯科理工学Ⅱ／歯科理工学Ⅲ（講3A）			口腔組織学及び同実習（講3A・実5B）				
	4		（1Q）災害口腔医学 ／（2Q）小児歯科学・小児歯科学実習（講6A）		歯内治療学（講6A）	歯内治療学実習（臨4B）				
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習						歯学研究	
木	1		教養教育							
	2		解剖学及び同実習（講3B・歯解実）				歯科医師のコンピテンシーⅡ（講3B）			
	3		内科学総論（講3A）		歯科東洋医学（講3A）／Scientific and Practical English（講3A）					
	4		障害者歯科学（講6A）		歯科医師のコンピテンシーⅣ（講5A）	冠橋義歯学及び同実習（講6A・臨4B）				
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習							
金	1		教養教育							
	2		生化学（講3B）		発生学（講3B）	生理学（講3B）／生理学実験（実5C）				
	3		外科学総論（講3A）	口腔解剖学及び同実習（歯解実・講3A）		コミュニティー教育・実習（講3A）		（1Q）基礎歯学研究概論（講3A）／（2Q）基礎歯学研究		
	4		歯科麻酔学及び同実習（講6A）			有床義歯補綴学及び同実習（講6A・臨4B）				
	5		統合科目（講6B）							
	6		臨床実習						基礎歯学輪講（講3A）	

※ 教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A・・・講義室3A（C棟3階）
講3B・・・講義室3B（C棟3階）
講6A・・・講義室6A（C棟6階）
講6B・・・講義室6B（C棟6階）
実5A・・・実習室5A（C棟5階）
実5B・・・実習室5B（C棟5階）
実5C・・・実習室5C（C棟5階）
歯解実・・・歯学部解剖実習室（A棟7階）
臨4B・・・臨床実習室4B（C棟4階）
医2講・・・医学部第2講義室
医1実・・・医学部第1実習室

時間割

90分授業	60分授業
1校時 8:50–10:20	1校時 8:50–9:50
2校時 10:30–12:00	2校時 10:00–11:00
3校時 13:00–14:30	3校時 11:10–12:10
4校時 14:40–16:10	4校時 13:00–14:00
5校時 16:20–17:50	5校時 14:10–15:10
	6校時 15:20–16:20
	7校時 16:30–17:30
	8校時 17:40–18:40

（令和8年度）歯学部授業時間割

（　後　期　）（ 3Q･4Q ）

曜日	校時	Ⅰ 8:50–10:20	Ⅱ 10:30–12:00	Ⅲ 13:00–14:30	Ⅳ 14:40–16:10	Ⅴ 16:20–17:50
	年次	1 8:50–9:50	2 10:00–11:00	3 11:10–12:10	4 13:00–14:00	5 14:10–15:10	6 15:20–16:20	7 16:30–17:30	8 17:40–18:40
月	1		細胞生物学入門Ⅱ（講3B）	歯学展望（講3B）					
	2	長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（講6B）			長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（オンライン自主学習）				
	3	内科学各論（講3A）		微生物学・口腔微生物学（講3A）	外科学各論（講3A）		隣接医学Ⅱ（講3A）		
	4	歯周病学（講6A）		統合科目（スポーツ歯学）／統合科目（総合歯科学Ⅰ）（講6A）	歯周病学実習（臨4B）			基礎歯学研究	
	5	臨床実習							
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3A）	
火	1		学内・学外早期体験実習（講3B）						
	2	長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（講6B）			生化学実験（実5A）				
	3	(3Q)医学統計学／(4Q)コンピテンシーⅢ（講3A）	口腔病理学及び同実習(講3A ・実5B)						
	4	統合科目（臨床解剖学）（講6A・歯解実・医解実）			口腔外科学Ⅰ及び同実習（講6A・臨4B）			実践臨床歯科英会話（講6A）	
	5	臨床実習						(3Q)コンピテンシーⅤ／臨床歯学セミナー（講6B）	
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3A）	
水	1	教養教育							
	2	(3Q)長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム(講6B)			(3Q)長崎大学グローカルインターンシップ・プログラム（オンライン自主学習）				
		(4Q)解剖学及び同実習（講6B・歯解実・医解実）							
	3	隣接医学Ⅰ・Ⅱ（講3A）			(3Q)歯科理工学実験（講3A・実5C）			(4Q)隣接医学Ⅱ（講3A）	
	4	高齢者歯科学（講6A）		小児歯科学／小児歯科学実習（講6A・臨4B）					
	5	臨床実習						歯学研究	
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3B）	
木	1	教養教育							
	2	解剖学及び同実習（講6B・歯解実・医解実）							
	3	(3Q)隣接医学Ⅲ（講3A）	(3Q)口腔微生物学実習（講3A・実5A）						
		(4Q)隣接医学Ⅰ・Ⅱ（講3A）	(4Q)衛生学及び同実習（講3A・実5A）						
	4	歯科放射線学及び同実習（講6A）		冠橋義歯学及び同実習（講6A・臨4B）					臨床歯学研究概論（講6A）
	5	臨床実習							
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3B）	
金	1	教養教育							
	2	組織学及び同実習（講6B・実5B）							
	3	歯科薬理学（講3A）／口腔生理学（講3A）		口腔生化学（講3A）			基礎歯学研究		
	4	口腔外科学Ⅱ及び同実習（講6A・臨4B）		有床義歯補綴学及び同実習（講6A・臨4B）					
	5	臨床実習／医哲学・医療倫理（医学部記念講堂）（10月の2日間）							
	6	臨床実習／高次口腔医療学						(3Q) 歯科医療管理学（講3B）	

※　教室名と略語の対応は以下のとおり。

講3A･･･講義室3A（C棟3階）
講3B･･･講義室3B（C棟3階）
講6A･･･講義室6A（C棟6階）
講6B･･･講義室6B（C棟6階）
実5A･･･実習室5A（C棟5階）
実5B･･･実習室5B（C棟5階）
実5C･･･実習室5C（C棟5階）
歯解実･･･歯学部解剖実習室（A棟7階）
臨4B･･･臨床実習室4B（C棟4階）
医解実･･･医学部解剖実習室
医講4･･･医学部第4講義室（病院2階）

時間割

90分授業		60分授業	
1校時	8:50–10:20	1校時	8:50–9:50
2校時	10:30–12:00	2校時	10:00–11:00
3校時	13:00–14:30	3校時	11:10–12:10
4校時	14:40–16:10	4校時	13:00–14:00
5校時	16:20–17:50	5校時	14:10–15:10
		6校時	15:20–16:20
		7校時	16:30–17:30
		8校時	17:40–18:40

総合科目（1年次生～5年次生）

（1）学内・学外早期体験実習　（1年）・・・・・・・・・・・・2
（2）学内・学外早期体験実習　（1年）・・・・・・・・・・・・5
（3）歯学展望　（1年）・・・・・・・・・・・・8
（4）コミュニティー教育・実習　（3年）・・・・・・・・・・・・12
（5）歯科東洋医学　（3年）・・・・・・・・・・・・15
（6）Scientific and Practical English　（3年）・・・・・・・・・・・・18
（7）歯科医師のコンピテンシーⅠ　（1年）・・・・・・・・・・・・21
（8）歯科医師のコンピテンシーⅡ　（2年）・・・・・・・・・・・・23
（9）歯科医師のコンピテンシーⅢ　（3年）・・・・・・・・・・・・25
（10）歯科医師のコンピテンシーⅣ　（4年）・・・・・・・・・・・・28
（11）歯科医師のコンピテンシーⅤ　（5年）・・・・・・・・・・・・31

年度 2026　学期 前期	曜日・校時　金 4～5(一部5～6)	必修選択　必修	単位数　0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064408 DNGD11041098 コミュニティー教育・実習/(Community education・practice)		
対象年次　3年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	非常勤講師(岡幸江、西川研、山口和浩、片山健太、岩本諭)		

授業の概要及び位置づけ

本授業が提案するのは現代において分断された仕事と価値意識を「つなぐ」知であり、それによる「全体的視野の獲得」です。他の歯学部授業のなかでは経験できない、みなさんの経験に基づく思考と学びの時間の提供を、意識していきます。

授業到達目標

一般目標 GIO:
コミュニティにおける多様な人々との対話の重要性を理解し、対話に臨みその力量を
形成していく構えを身に着ける

【令和 4 年度モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs
1　多様な価値観を持つ人で形成される、コミュニティとは何かを提起する
2　異なる経験を持つ人の生きざまを想起し、その社会的位置にへの新たな認識
　を獲得する
3　コミュニティのかかわりの中に生きる自己を新たに認識する
4　スキル的に獲得する知にとどまらない、対話と経験から獲得する知を理解する
5　対話への新たな経験と、さらなる対話への構えを獲得する
6　市民としての歯科医師のありようについて考える

対応するディプロマポリシー
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。
DP8:患者に信頼感と安心感を与えることができる高いコミュニケーション能力を身につけている。
DP9:多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)

本講義では、みなさん自身の日々の生活のなかから「暮らしのまなざし」や暮らしをなりたたせる「関わりのまなざし」をほりおこしていくことからスタートします。そのうえで、実社会において困難をかかえる人・困難をかかえる地域とむきあうとりくみ、こうした「実践」の底に流れる「もうひとつの知」について提示していきます。授業のなかでは、そうした提示をどう受け止め合うのかをお互いに交し合うための工夫にも、皆さんとの対話を通して、可能なかぎりとりくんでいきます。

授業内容
第 1 回目　5 月 8 日 4-5 時限目:オリエンテーション　ー社会を感じる・隣人を感じる(担当:岡幸江(九州大学))
第 2 回目　5 月 8 日 5-6 時限目:暮らしとしてのボランティア　ー山本いま子さんの姿から(担当:岡)
第 3 回目　5月 15 日 4-5 時限目:対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い
(担当:西川研(長崎県聴覚障害者情報センター))
第 4 回目　5月 22 日 4-5 時限目:生と死にむきあう(担当:山口和浩(NPO 法人自死遺族支援ネットワーク Re 代表)
第 5 回目　5 月 29 日 4-5 時限目:かっちぇてという場と子どもたち　(担当:片山健太(自然と暮らしの学校「手つなぐ」))
第 6 回目　6 月 5 日 4-5 時限目:仲間とともに「日常」をつくる(担当:岩本諭(斜面地・空き家活用団体つくる代表))
第 7 回目　6 月 12 日 4-5 時限目:未来への地域のつながりの変化を考える(担当:岡、片山)
第 8 回目　6 月 12 日 5-6 時限目:振り返りとシェア(担当:岡、片山、岩本)

キーワード	実践における「もうひとつの知」
教科書・教材・参考書	教科書　なし

成績評価の方法・基準等	出席、レポートで評価する。(レポートの評価は教務委員長が行う。)
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・西川 研(第 3 回)／手話通訳士としての活動／手話通訳士としての活動経験や体験をもとに講義を実施する。 ・山口 和浩(第4回)／NPO 法人における自殺対策、遺族支援等の活動／NPO 補人での活動経験や体験を基に講義を実施する。 ・片山 健太(第 5,7,8 回)／NPO法人等における子ども・大人の場づくり活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する。 ・岩本 論(第 6,8 回)／NPO 法人におけるまちづくり支援活動／支援活動の経験を基に“ひと”との関わり合いについて教授する

日程表(コミュニティー教育・実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	8	金	4-5	オリエンテーション　ー社会を感じる・隣人を感じる	岡	講義室3A
2回	5	8	金	5-6	暮らしとしてのボランティア　ー山本いま子さんの姿から	岡	講義室3A
3回	5	15	金	4-5	対人援助とコミュニケーションー聞こえない人々との出会い	西川	講義室3A
4回	5	22	金	4-5	生と死に向き合う	山口	講義室3A
5回	5	29	金	4-5	かっちぇてという場と子どもたち	片山	講義室3A
6回	6	5	金	4-5	仲間とともに「日常」をつくる	岩本	講義室3A
7回	6	12	金	4-5	未来への地域のつながりの変化を考える	岡、片山	講義室3A
8回	6	12	金	5-6	振り返りとシェア	岡、片山、岩本	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時　木・3－7(時間割を参照)	必修選択　必修	単位数　1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064409 DNGD11051941 歯科東洋医学/(Oriental Dental Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類　総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 角　忠輝/sumi@nagasaki-u.ac.jp/総合歯科臨床教育学教授室/095-819-7750(内 7750)/随時　※来室前に確認のこと			
担当教員(オムニバス科目等)	角　忠輝, 亀山敦史(非常勤講師), 多田浩晃, 前川靖裕(非常勤講師), 林　眞実(非常勤講師), 戸田一雄(非常勤講師), 田頭澄人(非常勤講師), 坂井詠子, 筑波隆幸, 池田裕明(腫瘍医学), 最上祥子(非常勤講師)		

授業の概要

東洋医学では, 人は大自然(大宇宙)のなかの一つで, 自然界のすべてのものと, お互いに関連し, 影響しあっているとみなしている。西洋医学では, 組織, 器官はそれぞれ独立して異なるものとするが, 東洋医学では, 異なった機能を持ちながらも全体として有機的につながりをもった共有体とされている。その根底となる思想が陰陽論と五行論である。このような東洋医学の理論的背景を認識しつつ実際の東洋医学的治療法の主な方法を, 座学および体験を通して学習する。

授業到達目標

一般目標 GIO: 患者満足度の高い良質な歯科医療を提供するために, 東洋医学の概念を西洋医学に対比して理解し, 統合医療を実践するために必要な基本的知識, および態度を修得する。

個別行動目標 SBOs:

1. 東洋医学体系の基礎理論と診断法を説明できる。
2. 各種東洋医学的治療法(鍼灸・漢方)のメカニズムを説明できる。
3. エイジングや免疫に及ぼす東洋医学的治療法の役割を説明できる。
4. 経絡および歯科領域で重要な経穴の部位を列挙し, 説明できる。
5. 漢方の歴史的背景に関心を持つ。
6. 各種代替医療を列挙し, その概要を説明できる。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-6 生体と薬物
A-6-2 薬理作用の基本
A-6-4 薬物の副作用と有害事象を考慮した薬物治療の基本原理

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP2:歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

輪講形式。スライド, ビデオ等を用いて講義する。必要に応じて実地学習を取り入れる。プリント等は必要な時に配布する。アクティブラーニングにおいては, グループ学習の他, 発表討論を行う。

授業内容

1 回目　統合医療学総論
2 回目　漢方最前線
3 回目　補完代替医学1
4 回目　補完代替医学2
5 回目　先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)1
6 回目　日本人は何故冷え性になったのか？1
7回目　日本人は何故冷え性になったのか？2
8 回目　先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)2
9 回目　先人から学ぶ漢方の知恵(アクティブラーニング)3
10 回目薬膳料理1
11 回目　薬膳料理2
12 回目　耳鍼法, アロマセラピー
13 回目　鍼鎮痛のメカニズム
14 回目　歯科鍼灸
15 回目　鍼灸の実際
16 回目　漢方薬理
17 回目　抗加齢科学
18 目目　がん免疫治療の最前線

キーワード	東洋医学, 伝統医学, 代替医学, 統合医療, 鍼, 灸, 漢方, 薬膳, アロマセラピー, EBM
教科書・教材・参考書	参考書: 歯科漢方医学, 歯科漢方医学教育協議会監修, 永末書店 続今日からあなたも口腔漢方医, 王宝禮・王龍三編, 医歯薬出版 入門歯科東洋医学(第 2 版), 日本歯科東洋医学会編
成績評価の方法・基準等	出席率, 講義内の小テスト, アクティブラーニングへの参加態度, および筆記試験またはレポートにより総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。
備考(学生へのメッセージ)	東洋医学関係の一般書に目を通しておくことが望ましい。学外講師による講義は日頃接することのできない貴重な機会であり, 礼を失することが無いように心がけること。
実務経験のある教員による授業科目	・角　忠輝(第 1 回)/大学病院における歯科診療行為/自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている ・亀山　敦史(第 2・3 回)/大学病院における歯科診療行為/大学病院における診療行為を元に統合医療の概念と実際について講義形式の授業を行っている ・多田　浩晃(第 4・7・8 回)/大学病院等における診療行為/大学病院における歯科診療行為自らの診療経験を元に, 統合医療の概念について講義およびアクティブラーニング形式の授業を行っている ・前川　靖裕(第 5・6 回)/診療所における診療行為/自らの診療経験を元に, 漢方の概念について講義形式の授業を行っている ・田頭　澄人(第 14 回)/歯科診療所における歯科診療行為/鍼灸師の資格を持つ当該教員が, 鍼灸理論・実際の歯科医療への応用について実習形式で授業を行っている。 ・池田　裕明(第 17 回)/大学病院等における診療行為/自らの診療経験を元に, がん免疫治療についての講義を行っている。 ・最上祥子(第 18 回)/研究職/製薬会社での研究職の経験を活かし, 漢方薬理の基本について講義形式の授業を行っている。

日程表(歯科東洋医学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	5	7	木	3	統合医療学総論	角　忠輝	講義室3A
2回	5	14	木	3	漢方最前線	最上祥子	講義室3A
3回	5	14	木	4	補完代替医学1	亀山敦史	講義室3A
4回	5	14	木	5	補完代替医学2	亀山敦史	講義室3A
5回	5	14	木	6	先人から学ぶ漢方の知恵1	多田浩晃	講義室3A
6回	5	20	水	5	日本人は何故冷え性になったのか？1	前川靖裕	講義室3A
7回	5	20	水	6	日本人は何故冷え性になったのか？2	前川靖裕	講義室3A
8回	5	28	木	4	先人から学ぶ漢方の知恵2	多田浩晃	講義室3A
9回	5	28	木	5	先人から学ぶ漢方の知恵3	多田浩晃	講義室3A
10回	6	4	木	4	薬膳料理1	林　眞実	講義室3A
11回	6	4	木	5	薬膳料理2	林　眞実	講義室3A
12回	6	25	木	4	耳鍼法、アロマセラピー	戸田一雄	講義室3A
13回	6	25	木	5	鍼鎮痛のメカニズム	戸田一雄	講義室3A
14回	6	25	木	6	歯科鍼灸	戸田一雄	講義室3A
15回	6	25	木	7	鍼灸の実際	田頭澄人	講義室3A
16回	7	2	木	3	漢方薬理	坂井詠子	講義室3A
17回	7	2	木	4	抗加齢科学	筑波隆幸	講義室3A
18回	7	9	木	3	がん免疫治療の最前線	池田裕明	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 木・3 ～7	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064417 DNGD11031098 Scientific and Practical English		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科目		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/授業後に当日の担当者に質問すること。			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド・アリレザ、David Atwood (非常勤講師)、		

授業の概要及び位置づけ

本科目で学ぶのは、英語のリテラシーである。専門知識を学習するうえで不可欠な基礎的語学力を自己点検する。その上で、基本的な英語のリテラシーを学ぶ。

授業到達目標

一般目標 GIO:
国際化に対応した歯科医師養成を目指す。
【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs:
基本的な英語の知識・技能を習得し、国際コミュニケーション英語能力を身に付ける　該当なし

対応するディプロマポリシー
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。

授業方法(学習指導法)

3 年次に再受験が必須の TOEIC 試験について、試験内容の概要説明や試験対策(Listening and Reading)を行う。

授業内容

1 回目 TOEIC試験内容の概要
2 回目 TOEIC対策①
3 回目 TOEIC対策②
4 回目 TOEIC対策③
5 回目 TOEIC対策④
6 回目 TOEIC対策⑤
7 回目 TOEIC対策⑥
8 回目 TOEIC対策⑦
9 回目 TOEIC対策⑧
10 回目 TOEIC対策⑨
11 回目 TOEIC対策⑩
12 回目 TOEIC対策⑪
13 回目 TOEIC対策⑫
14 回目 TOEIC対策⑬
15 回目 TOEIC対策⑭
16 回目 TOEIC対策⑮
17 回目 TOEIC対策⑯
18 回目 TOEIC対策⑰
19 回目 TOEIC対策⑱
20 回目 TOEIC対策⑲
21 回目 TOEIC対策⑳
22 回目 TOEIC対策㉑
23 回目 TOEIC対策㉒
24 回目 TOEIC対策㉓
25 回目 TOEIC対策㉔
26 回目 TOEIC対策㉕
27 回目 TOEIC対策㉖
28 回目 TOEIC対策㉗
29 回目 TOEIC対策㉘
30 回目 TOEIC対策㉙(アンケートなど)

キーワード	実践英語
教科書・教材・参考書	TOEIC 新公式問題集3, 4, 5, 6
成績評価の方法・基準等	TOIEC本試験にて評価する。 ※TOEIC 本試験は 10 月 10 日(土)、追再試験は 12 月 5 日(土)実施予定
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	TOEIC 対策は Web Class と併用したハイブリッド型クラスとする。各自課題など期限までに On-line で提出を済ませること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表(Scientific and Practical English)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室6B
2回	4	2	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室6B
3回	4	2	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室6B
4回	4	9	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
5回	4	9	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
6回	4	9	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
7回	4	16	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
8回	4	16	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
9回	4	16	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
10回	4	23	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
11回	4	23	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
12回	4	23	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
13回	4	30	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
14回	4	30	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
15回	4	30	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A

日程表(Scientific and Practical English)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	7	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
17回	5	7	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
18回	5	7	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
19回	6	4	木	3	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
20回	6	4	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
21回	6	4	木	7	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
22回	6	11	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
23回	6	11	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
24回	6	11	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
25回	7	2	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
26回	7	2	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
27回	7	2	木	7	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
28回	7	9	木	4	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
29回	7	9	木	5	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A
30回	7	9	木	6	TOEIC 練習問題	David Atwood	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時　火・1	必修選択　必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25064420 DNGD11091098 歯科医師のコンピテンシーⅢ/(Competence for Dentist III)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類　総合科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山田朋弘/t-yamada@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔顎顔面外科学分野教授室/095-819-7698(内 7698)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	山田朋弘		

授業の概要
歯科医師として求められる基本的な資質と能力を身につけるために，各学年においてスパイラル形式で授業を積み重ねる

一般目標 GIO:
1 科学や社会の中で歯科医学・医療だけでなく様々な情報を客観的・批判的に取捨選択して統合 整理し、表現する基本的能力(知識、技能、態度・習慣)・リベラルアーツを身に付ける。

2 患者および医療者にとって、良質で安全な医療を提供する事，とくに院内感染対策について理解する
個別行動目標 SBOs:
右記参照

【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-4　感染と免疫
A-4-1-7 細菌の薬剤耐性機序を理解している。
A-4-1-8 滅菌と消毒の意義、方法及び原理を理解している。
A-4-1-9 院内感染でみられる感染機構及び問題となる微生物を理解している。
C-2 探求と解決能力
C-2-1 講義、国内外の教科書や文献、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出、統 合し、客観的、批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
C-2-4 課題の解決にあたり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出し、自ら課題を解決できる。
C-3-3 医療従事者等 の健康と安全の確保
C-3-3-1 医療従事者の健康管理(予防接種、被曝線量管理を含む)の重要性を理解している。
C-3-3-2 針刺し事故等に遭遇した際の対処の仕方を理解している。
C-3-3-3 廃棄物の処理及び清掃に関する法律に則った廃棄物処理を理解している。
E-1-1 患者安全対策、感染予防策
歯科診療を実施するために必要な患者安全・感染対策についての知識、技能及び態度を身に付ける。

対応するディプロマポリシー
DP2：歯科口腔医学に関する臨床的知識を身につけている。
DP3：歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。
DP9：多職種との間で協調性を持ってチーム医療を実践できる。

授業方法(学習指導法)
講義，グループ討議，など

1. イントロダクション、課題提示
2. 講義 院内感染対策、医療関連感染とは
3. グループワーク
4. グループワーク
5. プレゼンテーション
6. プレゼンテーション
7. 予備
8. 予備

キーワード	学術論文，EMB，院内感染，スタンダードプレコーション，AMR
教科書・教材・参考書	**参考書：**エビデンスに基づく歯科診療における 医療関連感染対策（永末書店） 歯科医療安全管理マニュアル （医歯薬出版） 抗微生物薬適正使用の手引き 第四版 歯科編，新たな感染症を踏まえた歯科診療ガイドライン第 5 版，WHO Multi-professional Patient Safety Curriculum Guide

	http://apps.who.int/iris/bitstream/10665/44641/3/9789241501958_jpn.pdf?ua=1://&ua=1
成績評価の方法・基準等	出席，グループ学習への参加態度，プレゼンテーション等を中心に評価する。
受講要件(履修条件)	**自身の健康管理も歯科医師として必須事項である．したがって，学生健康診断未受験の学生には単位を与えない**
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・山田　朋弘／長崎大学病院にて臨床業務に従事／臨床経験に基づいた院内感染対策/医療安全について教授する。

日程表(歯科医師のコンピテンシーⅢ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	1	火	1	イントロダクション, 課題提示	山田	講義室3A
2回	12	8	火	1	講義　院内感染対策、医療関連感染とは	山田	講義室3A
3回	12	15	火	1	グループワーク	山田	講義室3A
4回	12	22	火	1	グループワーク	山田	講義室3A
5回	1	5	火	1	プレゼンテーション	山田	講義室3A
6回	1	12	火	1	プレゼンテーション	山田	講義室3A
7回	1	26	火	1	予備	山田	講義室3A
8回	1	27	水	1	予備	山田	講義室3A

口腔生命科学総論（1年次生、2年次生、3年次生）

（1）骨学及び同実習 (1年)・・・・・・・・・・・・34
（2）解剖学及び同実習 (2年)・・・・・・・・・・・・36
（3）発生学 (2年)・・・・・・・・・・・・42
（4）組織学及び同実習 (2年)・・・・・・・・・・・・45
（5）生理学 (2年)・・・・・・・・・・・・48
（6）生理学実習 (2年)・・・・・・・・・・・・51
（7）生化学 (2年)・・・・・・・・・・・・54
（8）生化学実験 (2年)・・・・・・・・・・・・56
（9）歯科理工学Ⅰ (3年)・・・・・・・・・・・・58
(10) 歯科理工学Ⅱ (3年)・・・・・・・・・・・・60
(11) 歯科理工学Ⅲ (3年)・・・・・・・・・・・・62
(12) 病理学総論及び同実習 (3年)・・・・・・・・・・・・64
(13) 微生物学・口腔微生物学 (3年)・・・・・・・・・・・・69
(14) 薬理学及び同実習 (3年)・・・・・・・・・・・・73
(15) 歯科学のための生物科学 (1年)・・・・・・・・・・・・77
(16) 歯科学のための物理科学 (1年)・・・・・・・・・・・・80
(17) 細胞生物学プラクシス (1年)・・・・・・・・・・・・83
(18) 細胞生物学入門Ⅰ (1年)・・・・・・・・・・・・85
(19) 細胞生物学入門Ⅱ (1年)・・・・・・・・・・・・87

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 水・1	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014108 DNGD22101985 歯科理工学Ⅰ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅰ)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド有礼左		

授業の概要

歯科材料の組成，構造，特性を通して材料選択の指針を理解させるとともに，歯科材料ならびに器械・器具類の適切な取り扱い方法に関する正しい知識を身につけさせる。これにより，臨床家としての材料選択や使用方法に関する価値判断ができるようになるものであり，患者ならびに医療スタッフへの説得力ある説明が可能になる。
様々な修復物の作製工程で必要になる各種の歯科材料，器械・器具類に関する基本的知識を習得する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科理工学という歯科医療における材料および器機・器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:
- ○ 材料(生体組織を含む)の物理的、機械的性質を説明できる。 B-1-1
- ○ 材料の化学的性質を理解している。 B-1-2
- ○ 材料の生物学的性質(生体活性、安全性)を説明できる。 B-1-3

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
授業中に配付するプリントと教科書に基づいて講義する。課題を与えてレポートの提出を求めることがある。

授業内容
1 回目:歯科材料の物理的性質について説明する。①
2 回目:歯科材料の機械的性質について説明する。②(1)
3 回目:歯科材料の機械的性質について説明する。③(2)
4 回目:歯科材料の化学的性質について説明する。④
5 回目:歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。
6 回目:接着の機構，接着強さの測定法，および接着部材の破壊様式を解説する。
7 回目:模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。①
8 回目:模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。②
9 回目:歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。①
10 回目:歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。②
11 回目:歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。③
12 回目:特殊な歯科用材料について解説する。
13 回目:特殊な歯科用材料について解説する。
14 回目:歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。①
15 回目:歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。②

キーワード	歯科材料，状態図，接着，模型用材料，埋没材，レジン，陶材
教科書・教材・参考書	○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○スキンナー歯科材料学(上，中，下)，医歯薬出版 ○歯科材料学事典，山根正次監修，学建書院 ○コア歯科理工学，医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法・基準等	筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配付するプリントと教科書を中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で参考書等を準備すること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表(歯科理工学Ⅰ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	1	歯科材料の一般的性質① 歯科材料の物理的性質について説明する。	バラネザハド	講義室3A
2回	4	8	水	1	歯科材料の一般的性質② 歯科材料の機械的性質について説明する。(1)	バラネザハド	講義室3A
3回	4	15	水	1	歯科材料の一般的性質③ 歯科材料の機械的性質について説明する。(2)	バラネザハド	講義室3A
4回	4	22	水	1	歯科材料の一般的性質④ 歯科材料の化学的性質について説明する。	バラネザハド	講義室3A
5回	5	13	水	1	合金の状態図 歯科用合金の性質を考察する上で重要な二元合金の状態図を解説する。	バラネザハド	講義室3A
6回	5	20	水	1	材料の接着 接着の機構，接着強さの測定法，および接着部材の破壊様式を解説する。	バラネザハド	講義室3A
7回	5	27	水	1	模型用材料① 模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。	バラネザハド	講義室3A
8回	6	3	水	1	模型用材料② 模型用材料の種類，所要性質，硬化機構，性質を説明する。	バラネザハド	講義室3A
9回	6	10	水	1	埋没材① 歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。	バラネザハド	講義室3A
10回	6	17	水	1	埋没材② 歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。	バラネザハド	講義室3A
11回	6	24	水	1	埋没材③ 歯科用埋没材の種類，所要性質，組成，硬化機構，取扱方法を説明する。	バラネザハド	講義室3A
12回	7	1	水	1	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	講義室3A
13回	7	8	水	1	特殊な歯科用材料 特殊な歯科用材料について解説する。	バラネザハド	講義室3A
14回	7	15	水	1	歯科用陶材① 歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。①	バラネザハド	講義室3A
15回	7	22	水	1	歯科用陶材② 歯科用陶材の分類，組成，物性，成形技術を解説する。②	バラネザハド	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 水・2	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014109 DNGD22091985 歯科理工学Ⅱ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅱ)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド有礼左		

授業の概要
種々の歯科材料の機械的，物理的，化学的性質を正しく理解するために必要な基礎的知識を身につける。また，歯科精密鋳造法と鋳造関連諸材料の特性を理解する。
口腔内や口腔外で使用される種々の歯科材料の性質を正しく理解し，優れた性質を引き出すために必要な基礎知識を習得する。／種々の歯科材料や生体材料の組成，構造，性質を説明できる。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科理工学という歯科医療における材料および器機・器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する

個別行動目標 SBOs:

	【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
○ 成形修復・歯冠修復用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。	B-2-1
○ 義歯用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法をを説明できる。	B-2-2
○ 接着用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。	B-2-3
○ 口腔インプラント、口腔外科、歯周治療用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。	B-2-6

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
授業中に配付するプリントに基づいて講義する。理解を深めるため，OHP や液晶プロジェクターなどを適宜利用する。授業中に質問したり，課題を与えてレポート提出を求める場合がある。

授業内容
1 回目:歯科材料と生体材料について概説し，歯科材料の所要性質を解説する。
2 回目:印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。①
3 回目:印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。②
4 回目:歯科用ワックスの種類，所要性質，取扱方法を説明する。
5 回目:歯科精密鋳造の工程と種々の鋳造法について説明する。
6 回目:合金の融解方法と鋳造収縮の要因を説明するとともに，鋳造収縮を補償するための具体的方法を解説する。
7 回目:鋳造欠陥の種類，成因，およびその防止策を解説する。
8 回目:成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。①
9 回目:成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。②
10 回目:予防歯科材料と歯冠補綴用材料の概要，種類，所要性質，取扱い方法を説明する。
11 回目:人工歯根，骨補填材料の種類と所要性質について説明する。
12 回目:合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途，所要性質を説明する。①
13 回目:合着・接着用材料(歯科用セメント)の種類と用途，所要性質を説明する。②
14 回目:義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。①
15 回目:義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。②

キーワード	歯科材料，生体材料，接着，陶材，骨補填材料，歯科精密鋳造
教科書・教材・参考書	○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○スキンナー歯科材料学(上，中，下)，医歯薬出版 ○歯科材料学事典，山根正次監修，学建書院 ○コア歯科理工学，医歯薬出版 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法・基準等	筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表(歯科理工学Ⅱ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	2	歯科材料概論 歯科材料と生体材料について概説し，歯科材料の所要性質を解説する。	渡邊	講義室3A
2回	4	8	水	2	印象材① 印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
3回	4	15	水	2	印象材② 印象材の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
4回	4	22	水	2	歯科用ワックス 歯科用ワックスの種類，所要性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
5回	5	13	水	2	歯科精密鋳造法 歯科精密鋳造の工程と種々の鋳造法について説明する。	渡邊	講義室3A
6回	5	20	水	2	合金の融解・鋳造収縮 合金の融解方法と鋳造法について説明する。鋳造収縮の要因を説明するとともに、鋳造収縮を補償するための具体的方法を解説する。	渡邊	講義室3A
7回	5	27	水	2	鋳造欠陥 鋳造欠陥の種類，成因，およびその防止策を解説する。	渡邊	講義室3A
8回	6	3	水	2	成形修復材料① 成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
9回	6	10	水	2	成形修復材料② 成形修復材料の種類，組成，硬化機構，性質，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
10回	6	17	水	2	予防歯科材料と歯冠補綴用レジン材料 予防歯科材料の概要，種類，所要性質について説明する。 歯科用レジン材料の種類，所要性質，硬化機構，取扱方法を説明する。	渡邊	講義室3A
11回	6	24	水	2	人工歯根と骨補填材料 人工歯根，骨補填材料の種類と所要性質について説明する。	渡邊	講義室3A
12回	7	1	水	2	合着・接着用材料・歯科用セメント① 合着・接着用材料（歯科用セメント）の種類と用途，所要性質を説明する。	渡邊	講義室3A
13回	7	8	水	2	合着・接着用材料・歯科用セメント② 合着・接着用材料（歯科用セメント）の種類と用途，所要性質を説明する。	渡邊	講義室3A
14回	7	15	水	2	義歯用材料① 義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。	渡邊	講義室3A
15回	7	22	水	2	義歯用材料② 義歯用材料の概要，種類，所要性質，取扱方法について解説する。	渡邊	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 水・3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014110 DNGD22111985 歯科理工学Ⅲ/ (Dental Materials Science and Engineering Ⅲ)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド有礼左		

授業の概要

日進月歩する歯科材料，機械・器具ならびに技工技術について，科学的な判断力と応用能力を高めることを目標とする。
金合金，金銀パラジウム合金，チタンなどの各種修復用合金の諸性質と，優れた性能を引き出すための正しい取り扱い方について学ぶ。さらに，技工技術の点で重要なろう付けや研磨方法を理解するための基礎知識を身につける。／各種歯科用合金の組成，性質，用途，利点・欠点，熱処理法等が説明できる。ろう付けや研磨作業を行う上で注意すべき点を説明できる。

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科理工学という歯科医療における材料および器機・器具についての基礎科学と応用科学に関する学問を習得する

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

○歯科矯正用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。	B-2-4
○歯内療法用材料の種類、成分、特性、用途及び操作方法を説明できる。	B-2-5
○歯科用材料の成形、加工の原理を説明できる。	B-3-1
○歯科用機器，歯科用検査装置，成形・加工用機器の種類、使用方法を説明できる。	B-3-2, B-3-3, B-3-4

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

授業中に配布するプリントと教科書を中心に講義を進める。課題を与えてレポートを提出させることがある。

授業内容

1 回目:金属の接合方法の種類とそれぞれの原理，特徴を説明する。①
2 回目:金属の接合方法の種類とそれぞれの原理，特徴を説明する。②
3 回目:切削と研磨の理論を説明し，研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。
4 回目:歯科用純チタンとチタン合金の用途，特徴，性質を説明する。
5 回目:鋳造用金合金の分類，性質，用途を説明するとともに，各種添加元素の効果を説明する。
6 回目:鋳造用金合金の熱処理法と，熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。
7 回目:歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに，耐硫化性の改善法を説明する。
8 回目:金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質，取り扱い上の注意点を説明する。
9 回目:陶材焼付用合金の分類，所要性質，陶材／合金間の接合機構を説明する。
10 回目:歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。①
11 回目:歯科用磁性材料の分類、用途，特徴，性質を説明する。
12 回目:歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。②
13 回目:歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。
14 回目:歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。
15 回目:歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。

キーワード	金属材料，ろう付け，研磨，摩耗
教科書・教材・参考書	○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○R.W. Phillips, Skinner's Science of Dental Materials, W.B. Saunders Company ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典，学建書院 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法・基準等	筆記試験(100%)で評価する。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3 以上の出席を受験資格とする。
備考(学生へのメッセージ)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが，理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。

日程表(歯科理工学Ⅲ)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	3	金属の接合① 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室3A
2回	4	8	水	3	金属の接合② 金属の接合方法を説明する。	渡邊	講義室3A
3回	4	15	水	3	切削と研磨 切削と研磨の理論を説明し，研磨材の種類と補綴物の研磨法を説明する。	渡邊	講義室3A
4回	4	22	水	3	チタンとチタン合金 歯科用純チタンとチタン合金の用途，特徴，性質を説明する。	渡邊	講義室3A
5回	5	13	水	3	金合金① 鋳造用金合金の分類，性質，用途を説明するとともに，各種添加元素の効果を説明する。	渡邊	講義室3A
6回	5	20	水	3	金合金② 鋳造用金合金の熱処理法と，熱処理に伴う機械的性質の変化を説明する。	渡邊	講義室3A
7回	5	27	水	3	銀合金 歯科用金属材料としての銀の特徴を説明するとともに，耐硫化性の改善法を説明する。	渡邊	講義室3A
8回	6	3	水	3	金銀パラジウム合金と低融銀合金 金銀パラジウム合金と低融銀合金の種類と性質，取り扱い上の注意点を説明する。	渡邊	講義室3A
9回	6	10	水	3	陶材焼付用合金 陶材焼付用合金の分類，所要性質，陶材／合金間の接合機構を説明する。	渡邊	講義室3A
10回	6	17	水	3	非貴金属合金① 歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。	渡邊	講義室3A
11回	6	24	水	3	歯科用磁性材料 歯科用磁性材料の分類、用途，特徴，性質を説明する。	渡邊	講義室3A
12回	7	1	水	3	非貴金属合金② 歯科用非貴金属合金の分類，用途，組成，性質などを説明する。	渡邊	講義室3A
13回	7	8	水	3	歯内療法関連材料 歯内療法関連材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A
14回	7	15	水	3	歯科矯正用材料 歯科矯正用材料の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A
15回	7	22	水	3	歯科用器械 歯科用器械の種類、所要性質、取り扱い方法を説明する。	渡邊	講義室3A

年度 2025 学期 1・2Q	曜日・校時 火・1Q: 4～6, 2Q: 2～6	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014117 DNGD22121909 病理学総論及び同実習/(General Pathology Lecture and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 片瀬 直樹/katase@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野准教授室/095-819-7645(内 7645)/17:00～18:30			
担当教員(オムニバス科目等)	片瀬直樹、永野健一、藤田修一		

授業の概要及び位置づけ

歯科を含めた医療の従事者または研究者になるためには、「病気」を十分に理解することが必要である。病理学は病気の原因、異常が生じる機構、機能・構造上の変化、病気の経過を解明する学問である。病理学総論の講義では、顎口腔領域に限定せず、代表的な全身での疾患を取り上げながら、基本的な病理変化を解説する。実習では講義した種々の疾患の病理組織標本の顕微鏡像の観察を通して、組織・細胞レベルでその成り立ちを理解する。講義と実習は互いにリンクしており、講義内容を実習の組織標本で確かめ、理解を深める。この授業で示す全身でみられる疾患の基本的病理変化は、口腔領域での疾患でも起こっている。従って本授業は後期で学ぶ「口腔病理学及び同実習」で学習する疾患の理解にも必要である。

授業到達目標

一般目標 GIO:
病理学総論の講義では、疾病の原因・発生機構・病態・予後を理解する。実習では各種疾病の組織学的変化を病理学的に解釈する。 【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1. 染色体、遺伝子及び発生の異常を理解している。	A-5-1-1～A-5-1-1-2
2. 細胞傷害と組織傷害、壊死とアポトーシス、代謝障害と関連疾患の病態を理解している。	A-5-2-1,～A-5-2-5
3. 修復と再生の機序、肥大、過形成、化生、創傷治癒を理解している。	A-5-3-1～A-5-3-5
4. 虚血、充血及びうっ血、出血、血栓と塞栓、梗塞、浮腫、ショックを理解している。	A-5-4-1～A-5-3-6
5. 炎症の定義と機序、滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的変化を理解している。	A-5-5-1～A-5-3-6
6. 腫瘍の定義、病因及び発生機序、増殖、浸潤、再発及び転移、細胞異型と構造異型、腫瘍の組織学的分類、良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を理解している。	A-5-6-1～A-5-6-6
7. 病理組織検査の種類と適応を理解している。	D-2-6-1

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

病理学総論として、基本的病態の概念を講義し、各種疾患の原因・成り立ち・病態を解説する。実習標本の観察を通して疾患の成り立ちや臨床病態などについて総合的に考えさせる。講義、実習によって学生が授業で得た知識を深め、将来の臨床医学で役立てることができるように指導する。講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは授業前に LACS に提示するので各自、印刷して授業に持参すること。実習はバーチャルスライドの学生間に差異のない画像によって行う。バーチャルスライドが使用不可の場合は、配布された標本の顕微鏡観察を行う。いずれもスケッチをとり、その所見を記載する。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本を解説する。学生は資料を LACS から印刷して持参し、不明な点は随時教員に質問すること。実習中にそれまでに終了した講義分の小テストを行うことがある。

授業内容

講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照
L (Lecture): 講義(講義室 3A 及び 3B)、P (Practice): 実習(実習室5B)

1 週	L1 病理学序論	L2-3 病因論
2 週	L4-5 染色体・遺伝子及び発生の異常	L6 細胞・組織傷害
3 週	L7 修復と再生	L8,9 代謝異常
4 週	L10, 11 循環障害	L12 炎症
5 週	L13 炎症	L14,15 免疫異常
6 週	L16,17 感染症	L18 腫瘍
7 週	L19,20 腫瘍	L21 老化と個体死
8 週	P1～4 実習方法説明、細胞・組織傷害	
9 週	P5～9 細胞・組織障害、修復と再生	
10 週	P10～14 循環障害	
11 週	P15～19 炎症	
12 週	P20～24 炎症	
13 週	P25～29 腫瘍	
14 週	L30～34 腫瘍	
15 週	L22 病理組織検査の実際	P35～38 腫瘍

キーワード	病因、染色体・遺伝子異常、発生異常、細胞・組織傷害、代謝障害、修復と再生、循環障害、炎症、感染症、免疫異常、腫瘍、老化と個体死、病理検査、病理組織標本作製法
教科書・教材・参考書	1. 標準病理学 第 7 版 (医学書院) 2. ロビンス基礎病理学 原著 10 版 (エルセビア・ジャパン) 3. カラー ルービン病理学 (西村書店) 4. 組織病理アトラス(文光堂) など一般的な病理組織学アトラス 授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能
成績評価の方法・基準等	主に定期試験(筆記試験)の得点で評価する。必要に応じて小テストを実施し、その成績も考慮する。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の 3/4 以上の出席
備考(学生へのメッセージ)	病理学を理解する上で、「正常」を対象とする解剖学、組織学などの基礎知識が必要となります。
実務経験のある教員による授業科目	・片瀬 直樹/長崎大学病院での病理診断実務経験/長崎大学病院での病理診断業務の勤務経験をもとに、臨床病理診断学上重要なポイントを踏まえて病理学の解説を行うとともに、医療人としてふさわしい態度を習得させる。 ・永野健一／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務経験を元に、疾患による組織学的変化の解説を行い、医療者として必要な知識、学習態度を習得させる。 ・藤田 修一/長崎大学熱帯医学研究所での病理解剖業務と長崎大学病院での病理業務(組織診断・細胞診)/病理解剖並びに病理診断科・病理部での組織診断・細胞診の実務経験をもとに、疾患の基本的病理変化を解説する。

日程表実習（病理学総論及び同実習）

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～4回	6	2	火	3～6	病理学実習説明、細胞・組織傷害 ・ 黄疸、アミロイドーシス、異所性石灰化、過角化症 ・ 褐色萎縮、前立腺肥大	永野	実習室5B
5～9回	6	9	火	2～6	細胞・組織障害、修復と再生、循環障害 ・ 扁平上皮化生、異物性肉芽腫、石綿症 ・ 肝うっ血、肺うっ血・水腫・出血	永野	実習室5B
10～14回	6	16	火	2～6	循環障害 ・ 食道静脈瘤、大動脈粥状硬化症、血栓症、新鮮心筋梗塞 ・ 陳旧性心筋梗塞、腎梗塞、肺出血性梗塞	永野	実習室5B
15～19回	6	23	火	2～6	炎症 ・ 気管支肺炎、間質性肺炎、胃消化性潰瘍、急性肝炎 ・ 線維素性心外膜炎、皮膚膿瘍、虫垂炎、肝硬変	永野	実習室5B
20～24回	6	30	火	2～6	炎症、免疫異常、感染症 ・ 肝硬変、肺結核 ・ サルコイドーシス、橋本病、腎カンジダ症、肺巨細胞性封入体症	永野	実習室5B
25～29回	7	7	火	2～6	腫瘍 ・ 大腸腺腫症、大腸腺癌、食道扁平上皮癌、胃低分化腺癌 ・ 胃印環細胞癌、肝細胞癌、	永野	実習室5B
30～34回	7	14	火	2～6	腫瘍 ・ 腺癌肝転移、甲状腺乳頭癌リンパ節転移 ・ 神経鞘腫、乳腺線維腺腫、骨肉腫	永野	実習室5B
35～38回	7	21	火	3～6	腫瘍 ・ 平滑筋腫、平滑筋肉腫、悪性黒色腫、多発性骨髄腫、 悪性リンパ腫	永野	実習室5B

日程表　講義(病理学総論及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	7	火	4	病理学序論、臨床医学としての病理診断学 ・ 病理学とは ・ 人体病理学と実験病理学	片瀬	講義室3A
2回	4	7	火	5	病因論 ・ 病気の原因	片瀬	講義室3A
3回	4	7	火	6	病因論 ・ 病気の原因	片瀬	講義室3A
4回	4	14	火	4	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 染色体異常とその関連疾患 ・ 常染色体の異常、性染色体の異常	片瀬	講義室3A
5回	4	14	火	5	染色体・遺伝子および発生の異常 ・ 遺伝子異常とその関連疾患 ・ 常染色体顕性遺伝病、常染色体潜性遺伝病	片瀬	講義室3A
6回	4	14	火	6	細胞・組織障害 ・ 細胞・組織障害の概念 ・ 退行性病変	片瀬	講義室3A
7回	4	21	火	4	修復と再生 ・ 修復と再生の概念、肥大と過形成 ・ 進行性病変	片瀬	講義室3A
8回	4	21	火	5	代謝異常 ・ 糖質代謝障害、蛋白質代謝障害、核酸代謝障害、脂質代謝障害	片瀬	講義室3A
9回	4	21	火	6	代謝異常 ・ 無機質代謝障害、生体内色素代謝障害	片瀬	講義室3A
10回	4	28	火	4	循環障害 ・ 出血、血栓症、塞栓症、梗塞 ・ 水腫(浮腫)、傍側循環(側副循環)	片瀬	講義室3A
11回	4	28	火	5	循環障害 ・ ショック、播種性血管内凝固症候群、高血圧症	片瀬	講義室3A
12回	4	28	火	6	炎症 ・ 定義と5大徴候 ・ 炎症性滲出とケミカルメディエータ	片瀬	講義室3A
13回	5	12	火	4	炎症 ・ 炎症での組織学的変化 ・ 急性炎と慢性炎、分類	片瀬	講義室3A
14回	5	12	火	5	免疫異常 ・ 免疫の概要 ・ アレルギー	片瀬	講義室3A
15回	5	12	火	6	免疫異常 ・ 自己免疫疾患 ・ 後天性免疫不全症候群	片瀬	講義室3A
16回	5	19	火	4	感染症 ・ 感染症とは ・ 感染防御機構	片瀬	講義室3A
17回	5	19	火	5	感染症 ・ 感染症各論	片瀬	講義室3A
18回	5	19	火	6	腫瘍 ・ 腫瘍の定義 ・ 腫瘍の形態と動態	片瀬	講義室3A
19回	5	26	火	4	腫瘍 ・ がん遺伝子とがん抑制遺伝子 ・ 悪性腫瘍の進行度分類	片瀬	講義室3A
20回	5	26	火	5	腫瘍 ・ 腫瘍の組織学的分類 ・ 腫瘍の各組織型	片瀬	講義室3A
21回	5	26	火	6	老化と個体死 ・ フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア ・ 心臓死、脳死、死後変化	片瀬	講義室3A
22回	7	21	火	2	病理組織検査の実際 ・ 病理組織標本作製法	藤田	講義室3A

年度 2026　学期 通年(1･2Q)	曜日･校時 1Q 月火･2～3, 2Q　月･2～3	必修選択　必修	単位数 4(通年)
科目番号 科目ナンバリング･コード 授業科目名/(英語名)	25014116 DNGD22131981 微生物学･口腔微生物学/ (Microbiology･Oral Microbiology)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類　口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子, 哲翁ふみ		

授業の概要

1)微生物の種類と特性を理解する。2)寄生･感染と生体の防御機構を理解する。3)防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

病原微生物の特徴と宿主の防御反応を理解する。また感染症対策の手技と抗生物質を含む化学療法薬の作用機序を理解する。

個別行動目標 SBOs:

【令和 4 年度歯学教育モデル･コア･カリキュラム】

(感染)1.	細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状、さらにヒトに対する感染機構と病原性を説明する。	A-4-1 C-4-2-6 C-5-1
2.	感染症の種類、予防、診断及び治療を説明する。	A-4-1 C-4-2-6 E-1-1 C-5-4
3.	滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。	A-4-1 C-3-3-3
4.	化学療法の原理、化学療法薬の作用機序、薬剤耐性機序を説明する。	A-4-1 C-4-2-4 E-1-1-8
(免疫)1.	自然免疫と獲得免疫の機構とその異同、さらに粘膜免疫を説明する。	A-4-2
2.	免疫担当細胞の種類と働き、抗原提示機能と免疫寛容を説明する。	A-4-2
3.	アレルギー疾患の種類、発症機序及び病態を説明する。	A-4-2
4.	免疫不全症･自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明する。	A-4-1
5.	ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明する。	A-4-2 C-4-2-6

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクター及び板書を中心とした講義を行う。毎回、重要語句を空欄にしたプリントを配布、講義内容を書き込んでいくことで各々が要点整理を行う。また、各自の理解度の確認を兼ねた LACS テストと学生による発表会を行う。

授業内容

1- 4 回目　生物の歴史と発展、微生物の基礎、微生物の分類と性状(基本構造)について説明する。
5- 8 回目　微生物の遺伝学:　微生物遺伝子の進化と変化、微生物遺伝子の応用について説明する。
感染制御:　感染症の検出と診断、感染と発病のメカニズム、感染の免疫について説明する。
9-10 回目　発表会1:歴史的に重要な感染症について発表、説明する。
11-14 回目　滅菌と消毒:物理的方法、科学的方法、薬剤による消毒について説明する。
15-18 回目　感染症の治療:　化学療法と化学療法薬　化学療法薬の作用機序について説明する。
薬剤耐性:　薬剤耐性化の仕組みと化学療法薬の臨床的使用について説明する。
19-20 回目　発表会 2:免疫の種類と免疫関連疾患について発表、説明する。
21-24 回目　免疫の基礎:　自然免疫、微生物の認識と排除機構について補体系を含めて説明する。
25-28 回目　体液性免疫、細胞性免疫、粘膜免疫、過敏症(アレルギー)、について説明する。
29-30 回目　発表会 3:主要な感染症について(細菌性疾患)について発表、説明する。
31-33 回目　免疫不全、自己免疫疾患、ワクチンによる感染予防について説明する。
34-37 回目　各論:グラム陽性球菌:　レンサ球菌属、ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。
38-39 回目　各論:グラム陽性桿菌とグラム陰性球菌、グラム陰性桿菌に含まれる病原細菌について説明する。
特に非芽胞形成性の病原菌について説明する。
40-41 回目　発表会 4:主要な感染症について(ウイルス性疾患)について発表、説明する。
42-45 回目　各論:グラム陰性桿菌、らせん菌に属する病原菌とその感染症について説明する。

キーワード	感染･微生物･免疫
教科書･教材･参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学･免疫学
成績評価の方法･基準等	微生物学･口腔微生物学･免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題発表等の評価を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	前期での講義への出席が 2/3 以上
備考(事前･事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に教科書を用いて予習をすること。また知識の定着の為に受講時に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。
実務経験のある教員による授業科目	哲翁ふみ / 診療所での臨床経験 / 臨床経験を踏まえた滅菌消毒方法の教授を行う。

日程表(微生物学・口腔微生物学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1,2回	4	6	月	2、3	微生物の歴史と発展、微生物の基礎について説明する。 微生物の分類と性状: 細菌の基本構造、物質代謝について説明する。	内藤	講義室3A
3,4回	4	7	火	2、3	微生物の分類と性状: ウイルス、真菌、原虫について説明する。	内藤	講義室3A
5,6回	4	13	月	2、3	微生物の遺伝学: 微生物遺伝子の進化と変化、微生物遺伝子の応用について説明する。	内藤	講義室3A
7,8回	4	14	火	2、3	感染制御: 感染と発病のメカニズム、感染の免疫について説明する。	内藤	講義室3A
9,10回	4	20	月	2、3	発表会1:歴史的に重要な感染症	内藤	講義室3A
11,12回	4	21	火	2、3	感染症の検出と診断、感染における病原因子について説明する。	内藤	講義室3A
13,14回	4	27	月	2、3	感染症の治療: 化学療法と化学療法薬 化学療法薬の作用機序について説明する。	内藤	講義室3A
15,16回	4	28	火	2、3	薬剤耐性: 薬剤耐性化の仕組みと化学療法薬の臨床的使用について説明する。	内藤	講義室3A
17,18回	5	11	月	2、3	免疫の基礎: 自然免疫、微生物の認識と排除機構について補体系を含めて説明する。	内藤	講義室3A
19,20回	5	12	火	2、3	発表会2:免疫の種類と免疫関連疾患	内藤	講義室3A
21,22回	5	18	月	2、3	自然免疫から獲得免疫: 抗原処理と提示、免疫担当細胞について説明する。	内藤	講義室3A
23,24回	5	19	火	2、3	体液性免疫について説明する。 細胞性免疫、粘膜免疫について説明する。	内藤	講義室3A
25,26回	5	25	月	2、3	過敏症(アレルギー)について説明する。	内藤	講義室3A
27,28回	5	26	火	2、3	ワクチンによる感染予防について説明する。 ワクチンの問題点と副反応、抗原非特異的免疫療法について説明する。	内藤	講義室3A
29,30回	6	1	月	2、3	発表会3:主要な感染症について(細菌性疾患1)	内藤	講義室3A
31回	6	2	火	2	免疫不全、自己免疫疾患について説明する。	哲翁	講義室3A
32,33回	6	8	月	2、3	滅菌と消毒: 物理的方法、科学的方法、薬剤による消毒について説明する。	哲翁	講義室3A
34,35回	6	15	月	2、3	各論:グラム陽性球菌: レンサ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	内藤	講義室3A
36,37回	6	22	月	2、3	各論:グラム陽性球菌: ブドウ球菌属に含まれる病原細菌とその感染症について説明する。	内藤	講義室3A
38,39回	6	29	月	2、3	発表会4:主要な感染症について(ウイルス性疾患)	内藤	講義室3A
40,41回	7	6	月	2、3	各論:グラム陽性桿菌とグラム陰性球菌: 非芽胞形成性グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌に含まれる病原細菌について説明する。	内藤	講義室3A
42,43回	7	13	月	2、3	各論:グラム陰性桿菌: 腸内細菌科に含まれる菌について説明する。また含まれる病原微生物(大腸菌、コレラ菌等)について説明する。	内藤	講義室3A
44,45回	7	27	月	4、5	各論:グラム陰性桿菌、らせん菌 らせん菌、緑膿菌、百日咳菌、レジオネラ等の病原菌にについて説明する。	内藤	講義室3A

年度 2026 学期 通年(3・4Q)	曜日・校時 月・3	必修選択 必修	単位数 4(通年)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014116 DNGD22131981 微生物学・口腔微生物学/ (Microbiology・Oral Microbiology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学総論		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、哲翁ふみ、小松澤均(非常勤講師) 、大原直也(非常勤講師)		

授業の概要

1)微生物の種類と特性を理解する。2)寄生・感染と生体の防御機構を理解する。3)防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

病原微生物の特徴と宿主の防御反応を理解する。またワクチンを含めた感染症対策の手技と抗生物質を含む化学療法薬の作用機序を理解する。

個別行動目標 SBOs:	【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(感染)1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状、さらにヒトに対する感染機構と病原性を説明する。	A-4-1 C-4-2-6 C-5-1
2. 感染症の種類、予防、診断及び治療を説明する。	A-4-1 C-4-2-6 E-1-1 C-5-4
3. 滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。	A-4-1 C-3-3-3
4. 化学療法の原理、化学療法薬の作用機序、薬剤耐性機序を説明する。	A-4-1 C-4-2-4 E-1-1-8
5. 歯周病、う蝕の発症機序を説明する。	A-4-1
(免疫)1. ワクチンの意義と種類、特徴及び副反応を説明する。	A-4-2 C-4-2-6

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクター及び板書を中心とした講義を行う。毎回、重要語句を空欄にしたプリントを配布、講義内容を書き込んでいくことで各々が要点整理を行う。また、出席と各自の理解度の確認を兼ねた LACS テストも行う。

授業内容

46 回目 有芽胞細菌とその感染症について説明する。特産生する毒素の作用機序について説明する・

47 回目 各論:主要な抗酸菌感染症について、説明する。また免疫反応についての総括を行う。

48 回目 う蝕における微生物の役割について説明する。とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。

49 回目 性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。

50 回目 口腔の常在微生物叢; 人体の正常フローラ、特に口腔内微生物、口腔免疫について説明する。

51 回目 デンタルプラーク:形成と機能、特徴について説明する。

52 回目 歯周病における微生物の役割について説明する。特に red complex について説明する。

53 回目 う蝕、歯周病の免疫学、病因論に基づいた予防と治療について説明する。

54 回目 マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、による感染症と病原真菌、原虫について説明する。

55 回目 ウイルスの特性、構造、分類について説明する。

56 回目 ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。

57 回目 ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。

58 回目 カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。

59 回目 がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。

60 回目 口腔関連感染症、口腔微生物と全身疾患について説明する。

キーワード	感染・微生物・免疫
教科書・教材・参考書	戸田新細菌学、口腔微生物学・免疫学
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、課題発表等の評価を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	後期での講義への出席が 2/3 以上
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に教科書を用いて予習をすること。また知識の定着の為に受講時に配布された資料を用い、内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患の中で齲蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修して頂きたい。
実務経験のある教員による授業科目	大原 直也/国立感染症研究所にて結核対策および研究に従事した経験あり/日本の結核の対策および研究に携わった経験をもとに、微生物学の各論として結核についての解説を行う

日程表(微生物学・口腔微生物学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
46回	9	28	月	3	有芽胞細菌とその感染症について説明する。とくに破傷風菌とボツリヌス菌についてはその産生毒素の作用機構について説明する。	内藤	講義室3A
47回	10	5	月	3	抗酸菌の特徴とその感染症： 結核菌とらい菌について説明する。	大原	講義室3A
48回	10	19	月	3	性感染症を引き起こす細菌についてその病態を含めて説明する。	内藤	講義室3A
49回	10	26	月	3	マイコプラズマ、クラミジア、リケッチア、による感染症と病原真菌、原虫について説明する。	内藤	講義室3A
50回	11	2	月	3	う蝕における微生物の役割について説明する。 とくにミュータンスレンサ球菌のう蝕原性について説明する。	小松澤	講義室3A
51回	11	9	月	3	口腔の常在微生物叢 人体の正常フローラ、特に口腔内微生物について説明する。 また口腔における免疫についても説明する。	内藤	講義室3A
52回	11	16	月	3	デンタルプラーク:形成と機能、特徴について説明する。	哲翁	講義室3A
53回	11	30	月	3	歯周病における微生物の役割について説明する。 歯周病関連細菌について、とくに*P. gingivalis, A. actinomycetemcomitans, T. forsythia*について説明する。	哲翁	講義室3A
54回	12	7	月	3	う蝕、歯周病の免疫学、病因論に基づいた予防と治療について説明する。	内藤	講義室1C
55回	12	14	月	3	ウイルスの特性、構造、分類について説明する。	内藤	講義室1C
56回	12	21	月	3	ウイルスの増殖機構、抗ウイルス剤、インターフェロンについて説明する。	内藤	講義室3A
57回	1	4	月	3	ヘルペスウイルス科、ピコルナウイルス科、オルトミクソウイルス科、パラミクソウイルス科、レオウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	内藤	講義室3A
58回	1	18	月	3	カリシウイルス科に含まれるウイルスおよび肝炎ウイルスについて説明する。	哲翁	講義室3A
59回	1	25	月	3	がんウイルスについてとくにパピローマウイルス科、レトロウイルス科に含まれるウイルスについて説明する。	哲翁	講義室3A
60回	2	1	月	3	口腔関連感染症、口腔微生物と全身疾患について説明する。	内藤	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 月・4～6 火・1	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25014118 DNGD22141904 薬理学及び同実習/ (Pharmacology and it's experiments)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5C	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学総論	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 5 階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	筑波隆幸、山口 優、佐藤友昭 (鹿児島大学教授)

授業の概要
薬物を生体に投与した時の生体の反応、すなわち薬理作用を学び、その作用の発現や機序を論理的に理解することを目標にする。これらの知識は将来、医療における薬物治療の基盤となる。

授業到達目標:
一般目標 GIO:
薬物の生体に対する作用(薬力学)と薬物を分解、排泄する現象(薬物動態学)を理解し、病気の治療に役立てる知識を得ることを目標とする 【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
個別行動目標 SBOs: A-6-1
1.医薬品の分類ならびに薬物と医薬品との関係を理解し説明できる。 A-6-2
2.薬物の作用に関する基本的事項を理解し説明できる。 A-6-3
3.種々の方法で適用された薬物の生体内運命を理解し説明できる。 A-6-4
4.薬物の副作用・有害作用の種類とその予防対策を理解し説明できる。
5.小児, 妊婦, 高齢者への薬物適用上の注意を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行なう。教科書を用いるので, 該当する項目に関して予習をしてもらいたい。

授業内容 **(講義)**

1 回目 【総論】薬理学序論	19 回目 薬物と医薬品(2)	59 回目 腎臓・泌尿系薬理(2)
2 回目 薬理作用の機序	20 回目 【各論】末梢神経薬理(1)	60 回目 まとめ及び問題演習
3 回目 用量と薬理作用	21 回目 末梢神経薬理(2)	
4 回目 生理活性物質	22 回目 末梢神経薬理(3)	**(実習)**
5 回目 細胞内情報伝達(1)	23 回目 末梢神経薬理(4)	29-31 回目 生物学的検定法(1－3)
6 回目 細胞内情報伝達(2)	24 回目中枢神経薬理(1)	33-35 回目中枢神経興奮薬・抑制薬(1－3)
7 回目 受容体と薬物(1)	25 回目 中枢神経薬理(2)	37-39 回目神経筋接合部の薬物(1－3)
8 回目 受容体と薬物(2)	26 回目 中枢神経薬理(3)	41-43 回目自律神経薬理(1－3)
9 回目 イオンチャネルと薬物	27 回目 中枢神経薬理(4)	45-47 回目 薬物による疼痛除去(1－3)
10 回目 酵素と薬物	28 回目 局所麻酔薬	49-51 回目 防腐薬・腐食薬(1－3)
11 回目 トランスポーターと薬物	32 回目 内分泌系薬理	52 回目 発表会の準備と注意点
12 回目 薬物動態(1)	36 回目 消化器系薬理	53-55 回目実習発表会(1－3)
13 回目 薬物動態(2)	40 回目 循環器系薬理	
14 回目 薬物動態(3)	44 回目 オータコイド	
15 回目 薬物の作用因子	48 回目 平滑筋薬理	
16 回目 薬物の連用と併用、相互作用	56 回目 ビタミン	
17 回目 副作用と有害作用	57 回目 救急薬理	
18 回目 薬物と医薬品(1)	58 回目 腎臓・泌尿系薬理(1)	

キーワード	薬物, 薬理作用, 作用機序
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第 7 版):医歯薬出版 実習書:配布する
成績評価の方法	3 年前期末の定期試験で, 筆記試験を行ない, 60 点以上得点すれば合格である。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。実習は特別な理由がない限り、欠席をしないこと
備考(学生へのメッセージ)	授業は原則的にシラバスに沿って行う。講義で受けた知識を、薬理学実験において, 君たちの手で確認する。講義の邪魔になると判断したときには, 厳格に対応します。お互い気持ちの良い講義・実習になるように, 協力をお願いします。
実務経験のある教員による授業科目	なし

日程表(薬理学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	月	4	【総論】薬理学序論 薬理学の歴史、薬理学の概念、薬理学はどういう学問であるのか	筑波	講義室3A
2回	4	6	月	5	薬理作用の機序 薬理作用の様式、薬理作用の分類について	筑波	講義室3A
3回	4	6	月	6	用量と薬理作用 用量―反応曲線、有効量、中毒量、致死量、ED50、LD50,治療係数	筑波	講義室3A
4回	4	7	火	1	生理活性物質 神経伝達物質・オータコイド・ホルモン・サイトカイン・成長因子について	筑波	講義室3A
5回	4	13	月	4	細胞内情報伝達(1)	筑波	講義室3A
6回	4	13	月	5	細胞内情報伝達(2)	筑波	講義室3A
7回	4	13	月	6	受容体と薬物(1) 薬物と受容体の概念およびその情報伝達について	筑波	講義室3A
8回	4	14	火	1	受容体と薬物(2) 薬物と受容体の概念およびその情報伝達について	筑波	講義室3A
9回	4	20	月	4	イオンチャネルと薬物 イオンチャネルに作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
10回	4	20	月	5	酵素と薬物 酵素に作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
11回	4	20	月	6	トランスポーターと薬物 トランスポーターに作用する薬物とその機構について	筑波	講義室3A
12回	4	21	火	1	薬物動態(1) 薬物動態学の概念、生体膜通過機構、薬物トランスポーター、	筑波	講義室3A
13回	4	27	月	4	薬物動態(2) 薬物の適用について	筑波	講義室3A
14回	4	27	月	5	薬物動態(3) 体内における薬物の動きを吸収、分布、代謝、排泄の各段階について	筑波	講義室3A
15回	4	27	月	6	薬物の作用因子 薬物耐性、脱感作、薬物依存、薬物の蓄積について	筑波	講義室3A
16回	4	28	火	1	薬物の連用と併用、相互作用 協力作用、拮抗作用、薬物の相互作用、薬力学的相互作用、 薬物動態学的相互作用について	筑波	講義室3A
17回	5	11	月	4	副作用と有害作用 一般的有害作用、歯科領域における副作用と有害作用、 副作用の予知と回避	筑波	講義室3A
18回	5	11	月	5	薬物と医薬品(1) 医薬品の適応、開発および薬害について	筑波	講義室3A
19回	5	11	月	6	薬物と医薬品(2) 医薬品の適応、開発および薬害について	筑波	講義室3A
20回	5	12	火	1	【各論】末梢神経系薬理(1) 末梢神経系の分類	筑波	講義室3A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
21回	5	18	月	4	末梢神経系薬理(2) 神経節、神経筋接合部に作用する薬物について	筑波	講義室3A
22回	5	18	月	5	末梢神経系薬理(3) コリン作動性神経、コリン作動性薬物、コリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室3A
23回	5	18	月	6	末梢神経系薬理(4) アドレナリン作動性神経、アドレナリン作動性薬物、 アドレナリン作動性効果遮断薬について	筑波	講義室3A
24回	5	19	火	1	中枢神経薬理(1) 全身麻酔薬、アルコール、催眠薬および鎮静薬について	筑波	講義室3A
25回	5	25	月	4	中枢神経薬理(2) 麻薬性鎮痛薬、向精神薬について	筑波	講義室3A
26回	5	25	月	5	中枢神経薬理(3) 中枢神経興奮薬、パーキンソン病治療薬について	筑波	講義室3A
27回	5	25	月	6	中枢神経薬理(4) 脳循環代謝改善薬、抗痴呆薬について	筑波	講義室3A
28回	5	26	火	1	局所麻酔薬 局所麻酔薬の作用機序と臨床応用、使用時の注意点について 実習の注意点	山口	講義室3A
29回	6	1	月	4	生物学的検定法(1) 全身麻酔薬投与によるアップアンドダウン法の実験	全教員	実習室5C
30回	6	1	月	5	生物学的検定法(2) ED50、LD50の計算、副作用の予知と回避	全教員	実習室5C
31回	6	1	月	6	生物学的検定法(3) 薬物の併用効果、相乗作用、相加作用についての実験	全教員	実習室5C
32回	6	2	火	1	内分泌系薬理 代表的なホルモンと，それらの過剰症および欠乏症， ホルモン製剤 について	筑波	講義室3A
33回	6	8	月	4	中枢神経興奮薬・抑制薬(1) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
34回	6	8	月	5	中枢神経興奮薬・抑制薬(2) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
35回	6	8	月	6	中枢神経興奮薬・抑制薬(3) 中枢神経抑制薬(全身麻酔薬)を作用させた時の効果を観察する	全教員	実習室5C
36回	6	9	火	1	消化器系薬理 消化ホルモン、健胃薬、消化薬、潰瘍治療薬、下痢薬	筑波	講義室3A
37回	6	15	月	4	神経筋接合部の薬物(1) 骨格筋を用いて、アセチルコリンによる収縮作用を観察する。	全教員	実習室5C
38回	6	15	月	5	神経筋接合部の薬物(2) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
39回	6	15	月	6	神経筋接合部の薬物(3) 骨格筋を用いて、アセチルコリン阻害薬による抑制効果を観察する。	全教員	実習室5C
40回	6	16	火	1	循環系薬理 心不全治療薬、不整脈治療薬、狭心症治療薬、高血圧薬治療薬について	筑波	講義室3A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
41回	6	22	月	4	自律神経薬理(1) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋収縮作用を観察する	全教員	実習室5C
42回	6	22	月	5	自律神経薬理(2) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
43回	6	22	月	6	自律神経薬理(3) マグヌス法を用いて、平滑筋に自律神経系に作用する 平滑筋弛緩作用を観察する	全教員	実習室5C
44回	6	23	火	1	オータコイド オータコイドとは何か、化学反応、生合成、生体内の役割について 生体アミン、エイコサノイド、ポリペプチド類について	筑波	講義室3A
45回	6	29	月	4	薬物による疼痛除去(1) 動物を用いて、麻薬性鎮痛薬、解熱性鎮痛薬の違いを観察する	全教員	実習室5C
46回	6	29	月	5	薬物による疼痛除去(2) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
47回	6	29	月	6	薬物による疼痛除去(3) 動物を用いて、局所麻酔薬とその相乗作用を観察する	全教員	実習室5C
48回	6	30	火	1	平滑筋・呼吸筋薬理 平滑筋に作用する生理活性物質と薬理、呼吸興奮薬、 呼吸鎮静薬について	筑波	講義室3A
49回	7	6	月	4	防腐薬・腐食薬(1) 酸、アルカリ、重金属、フェノール類、アルデヒド類、 ハロゲン等の消毒薬の粘膜に対する作用を観察する	全教員	実習室5C
50回	7	6	月	5	防腐薬・腐食薬(2) 大腿骨からのカルシュウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
51回	7	6	月	6	防腐薬・腐食薬(3) 大腿骨からのカルシュウム溶出とフッ化物による抑制を観察する	全教員	実習室5C
52回	7	7	火	1	薬理学実習まとめ 発表会の準備と注意点・グループ分け　進行係、発表の順番等をきめる	山口	講義室3A
53回	7	13	月	4	実習発表会(1) 生物学的検定法、中枢神経興奮薬に関する発表と質疑応答	全教員	講義室3A
54回	7	13	月	5	実習発表会(2) 中枢神経抑制薬、自律神経薬理に関する発表と質疑応答 発表と質疑応答	全教員	講義室3A
55回	7	13	月	6	実習発表会(3) 薬物による疼痛除去、防腐薬および腐食薬に関する発表と質疑応答	全教員	講義室3A
56回	7	14	火	1	ビタミン ビタミンの概説、脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンについて	筑波	講義室3A
57回	7	21	火	1	救急薬理 救急時に使用する薬物、救急用薬物と適応症	筑波	講義室3A
58回	7	27	月	2	腎臓・泌尿系薬理　(1) 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	佐藤	講義室3A
59回	7	27	月	3	腎臓・泌尿系薬理　(2) 腎臓、体液に関する薬理、泌尿器系で使用する薬物について	佐藤	講義室3A
60回	7	27	月	6	まとめ及び問題演習	筑波	講義室3A

口腔生命科学各論Ⅰ（3年次生）

（1）口腔解剖学及び同実習　（3年）・・・・・・・・・・・・ 90
（2）口腔組織学及び同実習　（3年）・・・・・・・・・・・・ 92
（3）口腔生理学　（3年）・・・・・・・・・・・・ 95
（4）口腔生化学　（3年）・・・・・・・・・・・・ 97
（5）歯科理工学実験　（3年）・・・・・・・・・・・・100
（6）口腔病理学及び同実習　（3年）・・・・・・・・・・・・102
（7）口腔微生物学実習　（3年）・・・・・・・・・・・・106
（8）歯科薬理学　（3年）・・・・・・・・・・・・108
（9）医学統計学　（3年）・・・・・・・・・・・・110
（10）歯科法医学　（3年）・・・・・・・・・・・・112

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 金・2～3	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024201 DNGD22151981 口腔解剖学及び同実習/ (Oral Anatomy and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 歯学部 解剖実習室、講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 小山田常一 /oyamada@nagasaki-u.ac.jp /顎顔面解剖学分野セミナー室/095-819-7627/火、金 16:30～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一 oyamada@		

授業の概要

口腔領域の基本構造並びに諸器官の相互位置関係を解剖学的に学習する。あわせて、病態や機能と関連付けて思考することができる応用力を養う。また、天然歯の鑑別を通して歯の形態や咬合などの理解を深める。ヒトの歯の一般的な形態を理解し、各歯種の特徴、各歯種間の相違点及び歯種内で各歯を識別する能力を養う。

授業到達目標

一般目標 GIO:

ヒトの歯の形態について、歯列、歯種間、歯種内における各歯の解剖学的特徴を理解したうえで、さらに歯の配列と咬合、歯の異常と年齢的変化について理解する。

個別行動目標 SBOs:	【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
(1) 歯の構造と機能を説明できる。	A-3-4-2, A-3-4-4
(2) 各歯の特徴を説明できる。	A-3-4-2, A-3-4-4
(3) 歯種を鑑別できる。	A-3-4-2, A-3-4-4
(4) 歯と顎骨の進化について説明できる。	A-3-4-2, A-3-4-4
(5) 乳歯と永久歯の違いを説明できる。	A-3-4-2, A-3-4-4
(6) 咬合の定義を説明できる。	A-3-4-2, A-3-4-4
(7) 歯の退化について説明できる。	A-3-4-2, A-3-4-4

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

義及び歯の鑑別を行う。適宜、プリント、模型、スライド等を使用する。原則として標本または模型を提示しながら行う。

授業内容

1-2 回目 歯の解剖学総論 (1)
3-4 回目 歯の解剖学総論 (2)
5-6 回目 永久歯(切歯)の形態
7-8 回目 永久歯(犬歯)の形態
9-10 回目 永久歯(小臼歯)の形態 (1)
11-12 回目 永久歯(小臼歯)の形態 (2)
13-14 回目 永久歯(大臼歯)の形態 (1)
15-16 回目 永久歯(大臼歯)の形態 (2)
17-18 回目 乳歯の形態 (1)
19-20 回目 乳歯の形態 (2)
21-22 回目 歯の配列と咬合
23-24 回目 歯の異常と歯の年齢的変化
25-27 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (1)
28-30 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (2)
31-33 回目 天然歯の観察と歯種の鑑別実習 (3)
34-36 回目 口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験

教科書・教材・参考書	教科書:歯の解剖学(藤田恒太郎著、金原出版) 参考書:歯の解剖学入門(赤井三千男ら著、医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	3年次前期試験期間中に筆記試験、歯の鑑別試験を行い、成績が100点満点で60点以上の者を合格とする。
受講要件(履修条件)	講義には毎回出席し、ノートを取ること。質問は随時受け付けるが、オフィスアワーでも受け付ける。面談の際はあらかじめメールで時間調整を行うこと。
備考(学生へのメッセージ)	教科書、参考書などで充分予習を行っておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・小山田 常一／歯科医師として歯科医院での実務経験／歯科医院での実務経験を基に講義・実習指導を行う。

日程表(口腔解剖学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～2回	4	3	金	2～3	歯の解剖学総論(1) 歯とは何か、歯の保持、歯の機能、外形、内部構造、歯周組織など	小山田常一	解剖実習室(歯)
3～4回	4	10	金	2～3	歯の解剖学総論(2) 歯の種類と名称、歯の記号、歯式、方向用語、各部の名称、歯に共通する特徴など	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
5～6回	4	17	金	2～3	永久歯(切歯)の形態	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
7～8回	4	24	金	2～3	永久歯(犬歯)の形態	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
9～10回	5	1	金	2～3	永久歯(小臼歯)の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
11～12回	5	8	金	2～3	永久歯(小臼歯)の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
13～14回	5	15	金	2～3	永久歯(大臼歯)の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
15～16回	5	22	金	2～3	永久歯(大臼歯)の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
17～18回	5	29	金	2～3	乳歯の形態(1)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
19～20回	6	5	金	2～3	乳歯の形態(2)	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
21～22回	6	12	金	2～3	歯の配列と咬合	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
23～24回	6	19	金	2～3	歯の異常と歯の年齢的変化	小山田常一	講義室3A または 解剖実習室(歯)
25～27回	6	26	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(1)	小山田常一	解剖実習室(歯)
28～30回	7	3	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(2)	小山田常一	解剖実習室(歯)
31～33回	7	10	金	1～3	天然歯の観察と歯種の鑑別実習(3)	小山田常一	解剖実習室(歯)
34～36回	7	31	金	1～3	口腔解剖学のまとめ及び筆記・鑑別試験	小山田常一	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 水・4～7	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024202 DNGD22161981 口腔組織学及び同実習/ (Oral Histology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 松下祐樹/yukimatsushita@nagasaki-u.ac.jp /教授室 /095-819-7630(内 7632)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	講義:松下祐樹、森石武史、野口東美、新井祐貴(非常勤講師) 実習:松下祐樹、森石武史、野口東美		

授業の概要

組織学とは、顕微鏡を用いて正常組織の構造と機能を解析する学問である。口腔組織学では、将来歯科医師として病理変化を正確に判断できるように、口腔内組織と口腔周囲組織の正常な構造と機能に関する知識の習得を目指す。

授業到達目標

一般目標 GIO:

頭頸部、口腔、及び隣接領域、消化管の基本的な構造と機能を理解する。

歯と歯周組織の常態を理解する。

個別行動目標 SBOs:

	【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 消化管の基本構造、消化機能及び調節機構を説明できる。	A3-1-7-1
2. 扁桃の構造、分布及び機能を説明できる。	A3-2-16
3. 口唇と口腔粘膜の分類と特徴を説明できる。	A3-3-1, 2
4. 舌の構造と機能を説明できる。	A3-3-3
5. 唾液腺の構造、機能及び分泌調節機序を説明できる。	A3-3-6
6. 味覚器の構造と分布、味覚の受容と伝達機構を説明できる。	A3-3-3, 6
7. 歯の発生、発育及び交換の過程と変化を説明できる。	A3-4-1
8. 歯(乳歯、根未完成歯、幼若永久歯を含む)の硬組織の構造、機能及び構成成分を説明できる。	A3-4-4
9. 歯髄の構造と機能を説明できる。	A3-4-5
10. 歯周組織の発生、構造及び機能を説明できる。	A3-4-7

対応するディプロマポリシー

ＤＰ１:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

パワーポイントとプリントを用いた講義、および組織標本の観察とスケッチを行う。

授業内容

1 回目 消化管①－食道・胃(講義・実習)
講義:消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴
実習:ヒト食道・噴門・胃底・幽門の標本の顕微鏡観察

2 回目 消化管②－小腸・大腸(講義・実習)
講義:小腸と大腸の構造的、機能的特徴
実習:ヒト十二指腸・回腸・空腸・虫垂・結腸の標本の顕微鏡観察

3 回目 口腔諸器官①－口腔粘膜・舌・扁桃(講義・実習)
講義:口腔粘膜、舌(味蕾)、扁桃の構造的、機能的特徴
実習:ヒト口唇・頬・舌・硬口蓋、モルモット舌の標本の顕微鏡観察

4 回目 口腔諸器官②－唾液腺(講義・実習)
講義:唾液腺の基本構造、大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴・機能的相違点
実習:ヒト大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の標本の顕微鏡観察

5 回目 消化管・口腔諸器官の総括①:消化管・口腔諸器官のまとめ

6 回目 消化管・口腔諸器官の総括②:消化管・口腔諸器官についての知識の確認

7 回目 歯の発生①(講義・実習)
講義:歯の発生の概略、歯牙組織の起源、歯胚発生段階の分類、歯胚発生における上皮間葉相互作用と分子調節
実習:ヒト8週胎児歯胚およびマウス歯胚の標本の顕微鏡観察

8 回目 歯の発生②(講義・実習)
講義:歯冠形成過程における象牙質・エナメル質の形成過程
実習:ヒト4ヶ月および 6 ヶ月胎児の歯胚脱灰標本の顕微鏡観察

9 回目 歯の発生③(講義・実習)
講義:歯根と歯周組織の発生、歯根・歯周組織形成におけるヘルトヴィッヒの上皮鞘と歯小嚢の役割
実習:ヒト6ヶ月胎児歯胚脱灰標本およびマウス歯胚脱灰標本の顕微鏡観察

10 回目 エナメル質(講義・実習)
講義:エナメル小柱の組織学的特徴、エネメル質に特徴的な構造(エナメル紡錘・エナメル叢等)、成長線(横紋等)
実習:ヒト歯牙研磨標本の顕微鏡観察

11 回目 象牙質・歯髄(講義)
象牙細管と基質からなる象牙質の基本構造、場所による象牙質の分類、石灰化に起因する構造・成長線

歯髄の組織学的特徴(象牙質形成層と固有歯髄) 12回目　象牙質・歯髄(実習) ヒト歯牙研磨標本および脱灰標本の顕微鏡観察 13回目　歯周組織・顎関節(講義) 歯周組織の組織学的特徴、歯根膜を介した歯と歯槽骨の結合様式の構造的理解、顎関節の組織学的特徴 14回目　歯周組織(実習) ヒト歯牙脱灰標本の顕微鏡観察 15回目　歯・歯周組織・顎関節の総括:歯・歯周組織・顎関節の発生および組織学的特徴のまとめ	
キーワード	口腔軟組織、消化管、歯胚、歯牙組織、顕微鏡
教科書・教材・参考書	教科書:入門組織学 改訂第2版(牛木辰男著、南江堂)、口腔の発生と組織(田畑純著、南山堂) 参考書:カラーアトラス口腔組織発生学(磯川桂太郎ら編、わかば出版) 口腔組織・発生学 第2版(脇田稔ら編、医歯薬出版) バーチャルスライド口腔組織学(田畑純ら著、羊土社) 教材:授業プリント、ヒトおよび各種動物の組織標本
成績評価の方法・基準等	筆記試験と実習試験を、それぞれ中間試験と定期試験に分けて行う。また、実習のミニテストやスケッチの評価も行い、総合的に評価する。詳細は講義開始時、およびLACSで提示する。実習試験はパワーポイントによる出題形式で行う。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	2年次の組織学をよく復習しておきましょう。
実務経験のある教員による授業科目	・松下　祐樹／神戸大学医学部附属病院歯科口腔外科、東京医科歯科大学歯学部附属病院顎顔面外科、長崎大学病院口腔外科における歯科・口腔外科診療の実務経験／歯科・口腔外科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。 ・新井　祐貴／東京医科歯科大学歯学部附属病院義歯外来における歯科診療の実務経験／歯科診療の実務経験を踏まえ、口腔組織・発生学に関する講義を行う。

日程表(口腔組織学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	1	水	4～7	消化管①－食道・胃 講義:消化管の基本構造と食道および胃の構造的、機能的特徴 実習:ヒト食道・噴門・胃底・幽門の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
2回	4	8	水	4～7	消化管②－小腸・大腸 講義:小腸と大腸の構造的、機能的特徴 実習:ヒト十二指腸・回腸・空腸・虫垂・結腸の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
3回	4	15	水	4～7	口腔諸器官①－口腔粘膜・舌・扁桃 講義:口腔粘膜、舌(味蕾)、扁桃の構造的、機能的特徴 実習:ヒト口唇・頬・舌・硬口蓋、モルモット舌の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
4回	4	22	水	4～7	口腔諸器官②－唾液腺 講義:唾液腺の基本構造と大唾液腺と小唾液腺の組織学的特徴 実習:ヒト大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)の標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
5回	5	13	水	4～7	消化管・口腔諸器官の総括① 消化管(食道・胃・小腸・大腸)についてのまとめ 口腔諸器官(口腔粘膜・舌・扁桃・唾液腺)についてのまとめ	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
6回	5	21	木	4～7	消化管・口腔諸器官の総括② 消化管および口腔諸器官に関する知識の確認	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
7回	5	27	水	4～7	歯の発生① 講義:歯の発生の概略、歯牙組織の起源、歯胚の初期発生 実習:ヒト8週胎児歯胚およびマウス歯胚の標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
8回	6	3	水	4～7	歯の発生② 講義:歯冠形成過程 実習:ヒト4ヶ月および6ヶ月胎児の歯胚脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
9回	6	10	水	4～7	歯の発生③ 講義:歯根形成過程 実習:ヒト6ヶ月胎児歯胚脱灰標本およびマウス歯胚脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・新井	講義室3A・実習室5B
10回	6	17	水	4～7	エナメル質 講義:エナメル質の組織学的特徴 実習:ヒト歯牙研磨標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B
11回	6	24	水	4～7	象牙質・歯髄(講義) 講義:象牙質と歯髄の組織学的特徴	松下・森石・野口	講義室3A
12回	7	1	水	4～7	象牙質・歯髄(実習) 実習:ヒト歯牙研磨標本および脱灰標本の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
13回	7	8	水	4～7	歯周組織・顎関節(講義) 講義:歯周組織(セメント質・歯根膜・歯槽骨・歯肉)、顎関節の組織学的特徴	松下・森石・野口	講義室3A
14回	7	15	水	4～7	歯周組織(実習) 実習:ヒト歯牙脱灰標本における歯周組織の顕微鏡観察	松下・森石・野口	実習室5B
15回	7	22	水	4～7	歯・歯周組織・顎関節の総括 歯・歯周組織・顎関節の発生および組織学的特徴のまとめ	松下・森石・野口	講義室3A・実習室5B

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 金・2～3	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024203 DNGD22171982 口腔生理学/ (Oral physiology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 中村渉/wataru_nakamura@nagasaki-u.ac.jp /A 棟 4 階 401 号室/095-819-7638(内 7636)/16:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	中村 渉、内田仁司、田原優(広島大学) 上野尚雄 (国立がん研究センター中央病院)、小柳 悟 (九州大学薬学部)、柏﨑晴彦 (九大歯学部)、大島昇平(北大歯学部)、三嶋博之 (原爆後障害医療研究所) 金山健夫 (国立がん研究センター中央病院)		

授業の概要

口腔顔面部位の組織と器官の正常な機能を理解し，これらを生体として統合的に理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

歯科口腔医学において、口腔領域の正常な機能を知り、疾患の予防・診断を適切に行い、機能維持を図れるようになるために、生体の特性を理解する。 【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1. 生命科学者としの探求心を養成する。	1. A-8-1)
2. 能動的な学びへの鍛錬を行う。	2. A-9-1)
3. 顎顔面口腔領域を構成する細胞、組織と器官の機能を理解する。	3. C-3-3), C-3-4), E-2-1), E-2-2)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクターや板書で授業を進め，必要に応じてプリントを配布する。

授業内容

1 回目	１０月 ２日 (金)	加齢口腔生理学序論
2 回目	１０月 ９日 (金)	唾液腺と唾液
3 回目	１０月１６日 (金)	時間栄養学
4 回目	１０月２３日 (金)	発声・言語
5 回目	１０月３０日 (金)	臨床加齢口腔管理
6 回目	１１月 ６日 (金)	高齢者の生理学的特徴
7 回目	１１月１３日 (金)	味覚
8 回目	１１月２０日 (金)	咀嚼・嚥下
9 回目	１１月２７日 (金)	顎位・顎運動
10 回目	１２月 ４日 (金)	口腔機能と時間生理学
11 回目	１２月１１日 (金)	痛覚
12 回目	１２月１８日 (金)	口腔生理学から生涯歯科学へ
13 回目	１月 ８日 (金)	人類遺伝学と口腔生理
14 回目	１月１５日 (金)	口腔生理学問題演習
15 回目	１月２９日 (金)	加齢口腔生理学まとめ

キーワード	嚥下, 唾液, 消化酵素, 栄養素, 嗅覚, 味覚, 歯痛, 発声, 顎運動
教科書・教材・参考書	教科書 : 基礎歯科生理学 第 7 版, 岩田・井上・舩橋・加藤編, 医歯薬出版 参考書1: Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 13th Edition 参考書2: 標準生理学 第 9 版, 本間研一監修, 医学書院
成績評価の方法・基準等	期末試験の成績により評価する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	生理学を復習しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・中村 渉/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ・上野 尚雄/国立がん研究センターでの歯科臨床実務経験/国立がん研究センター歯科医長の立場より、臨床加齢口腔生理学の講義を担当している。 ・三嶋 博之/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ・柏﨑 晴彦/九州大学病院高齢者歯科における歯科臨床実務経験/高齢者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学講義を担当する。 ・大島 昇平/北海道大学病院歯科診療センターにおける歯科臨床実務経験/小児障がい者歯科臨床実務経験に基づき口腔生理学の講義を担当する。

日程表(口腔生理学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	金	2～3 (II)	口腔生理学序論	中村渉	講義室3A
2回	10	9	金	2～3 (II)	唾液の生理的機能/唾液の分泌機序	内田　仁司	講義室1B
3回	10	16	金	2～3 (II)	時間栄養学	田原優 (広島大学)	講義室3A
4回	10	23	金	2～3 (II)	発声の機序、共鳴と構音について	徳田　功 (立命館大)	講義室6B
5回	10	30	金	2～3 (II)	口腔機能の臨床的加齢変容と口腔管理	上野尚雄 (国立がんセンター中央病院)	講義室3A
6回	11	6	金	2～3 (II)	口腔機能の加齢変化と全身管理	柏﨑　晴彦 (九大歯学部)	講義室3A
7回	11	13	金	2～3 (II)	味覚:味の受容機構と情報伝達	内田　仁司	講義室1C
8回	11	20	金	2～3 (II)	咀嚼・嚥下の概念, 咀嚼・嚥下運動のメカニズムと調節	大島昇平 (北大歯学部)	講義室3A
9回	11	27	金	2～3 (II)	顎位・顎運動・顎反射の生理機構	金山健夫 (国立がんセンター中央病院)	講義室6B
10回	12	4	金	2～3 (II)	口腔機能と時間生理学	中村孝博 (明治大学農学部)	講義室3A
11回	12	11	金	2～3 (II)	痛覚の生理メカニズム	小柳悟 (九大薬学部)	講義室3A
12回	12	18	金	2～3 (II)	加齢口腔生理学(成長と発達から機能変容)	中村渉	講義室1C
13回	1	8	金	2～3 (II)	口腔生理を制御する分子遺伝学	三嶋博之 (長崎大原研)	講義室3A
14回	1	15	金	2～3 (II)	口腔生理学問題演習	中村渉	講義室3A
15回	1	29	金	2～3 (II)	口腔生理学まとめ	中村渉 /内田仁司	講義室6A

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 金・4～5	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024204 DNGD22181982 口腔生化学/(Oral Biochemistry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 門脇知子/tomokok@nagasaki-u.ac.jp / A 棟 2 階フロンティア口腔科学分野教授室/095-819-8504(内 8504)/月-金曜 13:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	門脇知子、佐藤啓子、小野寺貴恵、岡元邦彰(非常勤講師/岡山大・教授)、武部克希(非常勤講師/岡山大・助教)		

授業の概要

細胞生物学入門、生化学で学んだ知識を元に、口腔領域、結合組織、硬組織に関する生化学を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO: 口腔生化学の知識を習得するとともに、科学的論理的な考え方の重要性を理解する。 【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	分子の構造の特徴と、その結果発揮しうる機能の関係を説明できる。	A-1-1), A-1-2), A-1-3), A-1-4), A-1-5)
2.	硬組織の発生と進化を説明できる。	A-2-1), A-2-2), A-3-1), A-3-2), A-3-4))
3.	結合組織の構造、機能、成分、及びそれらの特徴を説明できる。	A-3-1), A-3-2), A-3-3), A-3-4)
4.	硬組織の構造、石灰化と吸収のメカニズムを説明できる。	A-3-1), A-3-2), A-3-3), A-3-4)
5.	血清カルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。	A-1-1), A-1-2), A-3-1), A-3-4)
6.	唾液成分の働きと齲蝕のメカニズムを説明できる。	A-3-2), A-3-3), A-3-4), D-3-1), D-3-2)
7.	炎症と免疫を説明できる。	A-4-2), A-5-1), A-5-2), A-5-3), A-5-5)
8.	発がん機構と分子標的薬を説明できる。	A-1-3), A-5-1), A-5-6)

対応するディプロマポリシー

DP1: 歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

教科書の内容を中心に、プロジェクターや板書を用いた講義を行う。必要に応じてプリントを配布する。予習、復習に LACS を活用する場合もある。

授業内容

1 回目	1 章	口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	門脇 知子
2 回目	4 章	結合組織と上皮組織の生化学 1	門脇 知子
3 回目	4 章	結合組織と上皮組織の生化学 2	門脇 知子
4 回目	6 章	骨と歯の無機成分と石灰化の機構	小野寺貴恵
5 回目	5 章	骨、歯と歯周組織の有機成分とその代謝	門脇 知子
6 回目	8 章 3 章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構 1 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子
7 回目	8 章 3 章	血清カルシウムの恒常性とその調節機構2 骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子
8 回目	7 章	硬組織の形成と吸収のしくみ	岡元 邦彰
9 回目	9 章	唾液の生化学	門脇 知子
10 回目	10 章	プラークの生化学	佐藤 啓子
11 回目	11 章	齲蝕の生化学	佐藤 啓子
12 回目	12 章	炎症と免疫	門脇 知子
13 回目	2 章	がんはどうしてできるか	門脇 知子
14 回目	特別講義	タンパク質の構造と機能	武部 克希
15 回目	総括	口腔生化学演習	門脇・佐藤

キーワード	結合組織、硬組織、コラーゲン、カルシウム、ヒドロキシアパタイト、酵素反応、齲蝕、免疫、発がん
教科書・教材・参考書	教科書:口腔生化学 第6版 早川太郎他 著 (医歯薬出版) (2018 年発行) 参考書:唾液 歯と口腔の健康 (医歯薬出版)
成績評価の方法・基準等	定期試験および講義前後に提出する課題レポート、小テストを総合的に評価する。
受講要件(履修条件)	なし

備考(学生へのメッセージ)	重要な事項は小テストが実施される。必要に応じてレポートを提出する。 教科書での予習復習が必須。
実務経験のある教員による授業科目	門脇知子/ 九州大学病院における歯科臨床実務経験/歯周病科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 佐藤啓子/ 九州大学病院および開業医における歯科臨床実務経験/義歯補綴科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 岡元邦彰/ 宮崎大学医学部付属病院における歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。 武部克希/ 大阪大学歯学部付属病院における歯科臨床実務経験/口腔外科臨床実務経験に基づき口腔生化学講義を担当する。

日程表(口腔生化学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	金	4～5	1章 口腔機能の分子・細胞生物学的理解のために	門脇 知子	講義室3A
2回	10	9	金	4～5	4章 結合組織と上皮組織の生化学 1	門脇 知子	講義室1B
3回	10	16	金	4～5	4章 結合組織と上皮組織の生化学 2	門脇 知子	講義室3A
4回	10	23	金	4～5	6章 骨と歯の無機成分と石灰化の機構	小野寺貴恵	講義室3A
5回	10	30	金	4～5	5章 骨，歯と歯周組織の有機成分とその代謝	門脇 知子	講義室3A
6回	11	6	金	4～5	8章　血清カルシウムの恒常性とその調節機構 1 3章　骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子	講義室3A
7回	11	13	金	4～5	8章　血清カルシウムの恒常性とその調節機構 2 3章　骨と歯の進化と形づくりの分子メカニズム	門脇 知子	講義室1C
8回	11	20	金	4～5	7章 硬組織の形成と吸収のしくみ	岡元 邦彰	講義室3A
9回	11	27	金	4～5	9章 唾液の生化学	門脇 知子	講義室6B
10回	12	4	金	4～5	10章 プラークの生化学	佐藤 啓子	講義室3A
11回	12	11	金	4～5	11章 齲蝕の生化学	佐藤 啓子	講義室3A
12回	12	18	金	4～5	12章 炎症と免疫	門脇 知子	講義室6A
13回	1	8	金	4～5	2章 がんはどうしてできるか	門脇 知子	講義室3A
14回	1	15	金	4～5	特別講義 「タンパク質の構造と機能」	武部 克希	講義室3A
15回	1	29	金	4～5	総括 口腔生化学演習	門脇 知子 佐藤 啓子	講義室6A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 水・4～7	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024205 DNGD22191985 歯科理工学実験/ (Laboratory Works of Dental Materials Science)		
対象年次 3 年次	講義形態 実験形式	教室 実習室 5C・講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 渡邊郁哉/ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階生体材料学分野教授室/095-819-7656(内 7656)/金曜 15:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	渡邊郁哉、バラネザハド有礼左、岩沼健児(非常勤講師)		

授業の概要
各種歯科材料の成分，構造，特性，硬化反応などを理解するとともに，材料の適切な選択基準や取り扱い方法を身につける。歯科診療のチームリーダーとしての歯科医師が把握していなければならない種々の歯科材料について実習し，知識を確実に自分のものとするための実験科目である。
歯科材料の性質をよく理解し，その特性を活かした使用が出来るようになるための技能を確実に身につける。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科医療における材料ついての各種実験を行い、歯科材料の基礎科学と応用科学に関する学問を習得する
個別行動目標 SBOs: 【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
○各種の歯科材料の成分，硬化反応，特性などを説明できる。 B-2-1, B-2-3
○歯科材料の使用上ならびに保管上の注意点を説明できる。 B-2-1, B-2-3
○修復物作製に必要な器械・器具類を正しく取り扱うことが出来る。 B-2-1, B-2-2, B-2-3

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
クラス全体を5班に分け，週ごとに実験テーマをローテーションする。担当教員の指導のもとに，主として修復物の作製工程で用いられる種々の歯科材料の硬化過程および加熱過程における物性変化を測定し，各自でレポートを作成する。

授業内容
五つの実験テーマを各担当教員が同時に開設しており，各グループは毎週それぞれのテーマの実験を行う。
1回目:
歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し，実験に対する心構えを喚起する。さらに実験データのまとめ方，ならびにレポートの作成方法について解説する。
2回目～6 回目:グループ別実験
テーマ①:歯科用レジンの餅状化時間と重合反応
テーマ②:アルジネート印象材のゲル化時間，弾性印象材の弾性比較と硬化挙動
テーマ③:歯科用石膏の硬化時間
テーマ④:歯科用石膏系埋没材の硬化膨張，吸水膨張，歯科用石膏の水和反応の観察
テーマ⑤:歯科用埋没材の熱膨張
7 回目:
グループごとに選択した実験テーマについて，得られた実験結果や考察等をクラス全体に対して液晶プロジェクターなどを用いて発表し，質疑応答する。

キーワード	歯科材料，石膏，埋没材，印象材，レジン，ワックス
教科書・教材・参考書	○歯科理工学実験書，長崎大学・生体材料学分野 ○スタンダード歯科理工学，学建書院 ○Craig's Restorative Dental Materials, Mosby Elsevier ○歯科材料学事典，学建書院 ○歯科理工学教育用語集，医歯薬出版
成績評価の方法・基準等	それぞれの実験テーマに対してレポートを提出させ，採点評価する(90%)。また，グループ別発表会を別個に評価する(10%)。レポートは実験内容の理解度ならびに測定データが十分に議論されているかなどを中心に評価する。
受講要件(履修条件)	実験を実施しなければレポートを作成できないため，必ず出席すること。正当な理由がある場合は，再実験を認める。
備考	配布する歯科理工学実験書を必ず予習しておくことが重要である。
実務経験のある教員による授業科目	岩沼 健児／現役歯科医師が歯科医院における実務経験／自身の診療経験を活かし歯科材料の適切な選択基準や取り扱いについて指導する

日程表(歯科理工学実験)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	水	4～7	オリエンテーション 歯科理工学実験の内容ならびに実施要領を説明し，実験への心構えを喚起する。実験データのまとめ方ならびにレポートの作成方法について解説する。	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
2回	10	7	水	4～7	歯科材料の性質① 五つの実験テーマを同時開設しており，5班に分けた各班が週ごとに実験テーマを順番に回り，消化する。テーマ①：歯科用レジンの餅状化時間と重合反応	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
3回	10	14	水	4～7	歯科材料の性質② テーマ②：アルジネート印象材のゲル化時間，弾性印象材の弾性比較と硬化挙動	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
4回	10	21	水	4～7	歯科材料の性質③ テーマ③：歯科用石膏の硬化時間	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
5回	10	28	水	4～7	歯科材料の性質④ テーマ④：歯科用石膏系埋没材の硬化膨張，吸水膨張，歯科用石膏の水和反応の観察	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
6回	11	4	水	4～7	歯科材料の性質⑤ テーマ⑤：歯科用埋没材の熱膨張	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
7回	11	11	水	4～7	歯科材料の性質①～⑤ まとめ	渡邊・バラ・岩沼	実習室5C
8回	11	18	水	4～7	歯科材料の性質①～⑤ 実験結果と考察について各グループで液晶プロジェクターを用いてプレゼンテーションする。	渡邊・バラ・岩沼	講義室3A

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 火・2～5	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024212 DNGD22201981 口腔病理学及び同実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義・実習形式	教室 講義室 3A、実習室 5B	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー

永野 健一/k-nagano@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 A 棟 1 階口腔病理学分野 2 研/095-819-7646(内 7646)/17:00～18:30

担当教員(オムニバス科目等)	永野健一、藤田修一(非常勤講師)

授業の概要及び位置づけ

前期の「病理学総論及び同実習」で学習した、病因、病理発生、病態、予後の基本的知識をもとに、病理学各論として顎口腔領域の疾患を解説する。4 年次以降に学ぶ臨床科目に直接関係しており、実際の歯科医療で遭遇する顎口腔領域の疾患の知識を習得することは極めて重要である。講義の進行にあわせて病理組織実習を行うが、実習は単に病理診断をつけることではなく、各疾患の講義内容を標本で確かめ、理解を深めることを目的とする。顎口腔病変の病理組織像は CBT や国家試験で視覚素材として用いられるので、十分に学修すること。本授業は基礎歯科医学と臨床歯科医学の橋渡しと位置づけられる。

授業到達目標

一般目標 GIO:

口腔病理学の講義では、歯科医療に関係する顎口腔領域の疾病の原因・発生機構・病態・予後を理解する。実習では各種顎・口腔疾病の組織学的変化を病理学的に解釈する。

【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.	口腔、顎顔面領域に症状を現す感染症の種類と症状を理解している。	D-3-1-10-2
2.	口腔、顎顔面領域に症状を現す全身的な腫瘍と腫瘍類似疾患及びその症状を理解している。	D-3-1-10-4
3.	口腔、顎顔面領域に症状を現す症候群の種類と症状を理解している。	D-3-1-10-5
4.	口腔、顎顔面領域に症状を現す薬物の副作用を理解している。	D-3-1-10-7
5.	齲蝕とその他の歯の硬組織疾患、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症、歯の亀裂・破折、歯の形成不全、歯の形態異常)の病因と病態を理解している。	D-3-2-1
6.	歯髄・根尖性歯周疾患の病因と病態、歯周疾患の病因と病態を理解している。	D-3-2-2, D-3-2-3
7.	歯周疾患の症状と全身疾患との関連を理解している。	D-5-2-3-1
8.	口腔、顎顔面に症状を示す先天異常、口唇裂、口蓋裂の病態を理解している。	D-3-1-1-1, D-3-1-1-2
9.	主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髄炎、骨壊死、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎)の症状と治療法を理解している。	D-3-1-3-6
10.	口腔粘膜疾患の種類と特徴を理解している。	D-3-1-4-1
11.	口腔、顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を理解している。	D-3-1-5-1
12.	口腔、顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を理解している。	D-3-1-6-1, D-3-1-6-2, D-3-1-6-3
13.	腫瘍類似疾患の種類と特徴を理解している。	D-3-1-6-4
14.	口腔潜在的悪性疾患の概念及び特徴を列挙できる。	D-3-1-6-5
15.	唾石症、唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を理解している。	D-3-1-8-2, D-3-1-8-3
16.	唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を理解している。	D-3-1-8-4
17.	病理組織検査の種類と適応を理解している。	D-2-6-1

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義ではプリント、液晶プロジェクター、板書を併用し、口頭で授業を進める。プリントは授業前に LACS に提示するので各自ダウンロードの上、必要に応じて印刷し講義に持参すること。実習はバーチャルスライドを用いた学生間に差異のない画像によって行う。バーチャルスライドが使用不可の場合は、配布された標本の顕微鏡観察を行う。いずれもスケッチをとり、その所見を記載する。スタッフは実習に先立ちその日の実習標本を解説する。学生は資料を LACS からダウンロードの上、必要に応じて印刷、持参し、不明な点は随時教員に質問すること。実習中にそれまでに終了した講義分の小テストを行うことがある。

授業内容

講義の内容のサブテーマ、実習標本は次ページからの日程別シラバスを参照
L (Lecture): 講義(講義室 3A)、P (Practice): 実習(実習室5B)

1 週	L1 口腔病理学序論	L2 歯の発育異常	L3 歯の損傷、沈着物	L4 齲蝕
2 週	L5 象牙質とセメント質の増生、歯髄の病変	P1～3 齲蝕、歯髄炎		
3 週	L6 根尖部歯周組織の病変	P4～6 根尖性歯周炎と関連疾患		
4 週	L7,8 辺縁部歯周組織の病変		P7,8 辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症	
5 週	L9 顎口腔領域の加齢変化	L10 顎骨・顎関節の病変	P9,10 顎骨・顎関節の非腫瘍性病変	
6 週	L11,12 口腔領域の嚢胞		P11,12 口腔領域の嚢胞	
7 週	L13,14 口腔の奇形・発育異常		P13,14 口腔領域の嚢胞	
8 週	L15～17 口腔粘膜疾患			L18 唾液腺疾患
9 週	L19 唾液腺疾患	P15～17 口腔粘膜疾患		
10 週	L20 唾液腺疾患	P18～20 唾液腺疾患		
11 週	L21 歯原性腫瘍	P21～23 唾液腺腫瘍		
12 週	L22 歯原性腫瘍	P24～26 歯原性腫瘍		
13 週	L23 非歯原性腫瘍	P27～29 歯原性腫瘍		
14 週	L24 非歯原性腫瘍	P30～32 非歯原性腫瘍		
15 週	L25 非歯原性腫瘍	L26 細胞診と口腔病変の細胞像	P33,34 非歯原性腫瘍	

キーワード	歯の発育異常、歯の機械的・化学的損傷、齲蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎、顎骨・顎関節病変、口腔領域の奇形、粘膜疾患、唾液腺疾患、嚢胞、腫瘍、老化、細胞診
教科書・教材・参考書	1. 新口腔病理学 第 3 版 下野正基、高田隆編 (医歯薬出版) 2. Oral and Maxillofacial Pathology. 3rd ed. Neville BW, et al., eds. (Saunders, Elsevier) 3. 口腔病理アトラス 第 2 版 高木實 編 (医歯薬出版) 4. 口腔病理カラーアトラス 第 2 版 石川梧郎 編 (文光堂) 授業で配布するプリント及び実習標本画像とその解説は事前に LACS に公開するため、予習・復習に適宜利用することが可能
成績評価の方法・基準等	主に定期試験(筆記試験)の得点で評価するが、小テストの成績も考慮する。
受講要件(履修条件)	定期試験の受験資格:授業回数の 3/4 以上の出席
備考(学生へのメッセージ)	病理学総論の授業内容を理解しておくこと。
実務経験のある教員による授業科目	・永野健一／長崎大学病院での病理診断実務経験／長崎大学病院での病理診断業務経験を元に、疾患による組織学的変化の解説を行い、医療者として必要な知識、学習態度を習得させる。 ・藤田 修一／長崎大学病院での病理診断実務経験／病理診断科・病理部での病理診断経験をもとに口腔疾患の組織学的変化を解説する。

日程表　講義(口腔病理学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	火	2	口腔病理学序論 ・ 口腔病理学の病院業務 ・ 口腔病理学の学修方法	藤田	講義室6B
2回	9	29	火	3	歯の発育異常 ・ 大きさ、形、構造、数、萌出、位置、咬合の異常	藤田	講義室6B
3回	9	29	火	4	歯の損傷、歯の沈着物と着色 ・ 咬耗、摩耗、アブフラクション、歯折、侵蝕症 ・ ペリクル、プラーク、歯石、着色	藤田	講義室6B
4回	9	29	火	5	齲蝕 ・ 病因、誘因、分類 ・ エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕	藤田	講義室6B
5回	10	6	火	2	齲蝕、象牙質とセメント質の増生、歯髄の石灰化、歯髄の病変 ・ セメント質齲蝕、第二・第三象牙質、象牙質粒、セメント質粒 ・ 歯髄病変の原因、退行性病変、歯髄充血、歯髄炎、歯髄壊疽	藤田	講義室3A
6回	10	13	火	2	根尖部歯周組織の病変、抜歯創の治癒、抜歯の合併症 ・ 根尖部膿瘍の進展、根尖性歯周炎の原因、分類、各型 ・ 抜歯創の治癒過程、抜歯の合併症、歯性病巣感染	藤田	講義室3A
7回	10	20	火	2	辺縁部歯周組織の病変 ・ 歯周組織の構造・ 歯周炎の原因 ・ 辺縁部歯周組織病変の分類、歯肉炎	永野	講義室3A
8回	10	20	火	3	辺縁部歯周組織の病変 ・ 慢性歯周炎の進行過程・ 慢性歯周炎と全身疾患の関連 ・ エプーリス、薬物性歯肉増殖症、慢性歯周炎の治療	永野	講義室3A
9回	10	27	火	2	顎口腔領域の加齢変化 ・ 老化のメカニズム、サルコペニアとフレイル ・ 歯牙、歯周組織、顎骨、粘膜、唾液腺の変化	永野	講義室3A
10回	10	27	火	3	顎骨・顎関節の病変 ・ 顎骨の骨折、骨髄炎、放射線骨壊死、MRONJ ・ 顎関節の病変、線維性異形成症、骨腫と外骨症	永野	講義室3A
11回	11	10	火	2	口腔領域の嚢胞 ・ 嚢胞の分類 ・ 歯原性嚢胞	永野	講義室3A
12回	11	10	火	3	口腔領域の嚢胞 ・ 非歯原性嚢胞 ・ 顎骨内偽嚢胞	永野	講義室3A
13回	11	17	火	2	口腔の発育異常 ・ 口腔顎顔面領域の発生と口唇裂、口蓋裂 ・ 口腔顎顔面に異常をきたす症候群	永野	講義室3A
14回	11	17	火	3	口腔の発育異常 ・ 口唇、舌、頬粘膜の奇形、フォーダイス顆粒	永野	講義室3A
15回	11	24	火	2	口腔粘膜疾患 ・ 色素沈着、感染症、アフタ性口内炎	藤田	講義室3A
16回	11	24	火	3	口腔粘膜疾患 ・ 角化性病変、皮膚科的疾患、歯科治療に関連した口内炎	藤田	講義室3A
17回	11	24	火	4	口腔粘膜疾患 ・ 肉芽腫性病変、舌の病変、移植片対宿主病	藤田	講義室3A
18回	11	24	火	5	唾液腺病変 ・ 唾液腺の正常構造	藤田	講義室3A
19回	12	1	火	2	唾液腺病変 ・ 唾液腺の非腫瘍性疾患	藤田	講義室3A
20回	12	8	火	2	唾液腺病変 ・ 唾液腺の腫瘍性疾患	藤田	講義室3A
21回	12	15	火	2	歯原性腫瘍 ・ 歯原性腫瘍の特徴と分類 ・ 良性腫瘍	藤田	講義室3A
22回	12	22	火	2	歯原性腫瘍 ・ 悪性腫瘍 ・ 線維-骨病変 (fibro-osseous lesions)	藤田	講義室3A
23回	1	5	火	2	非歯原性腫瘍 ・ 顎・口腔領域の非歯原性腫瘍の由来と分類 ・ 良性腫瘍と腫瘍様病変	藤田	講義室3A

日程表　実習(口腔病理学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1～3回	10	6	火	3～5	齲蝕、歯髄炎、象牙質・セメント質の増生 ・ 齲蝕、急性化膿性歯髄炎、慢性潰瘍性歯髄炎、 象牙質粒、びまん性石灰化、セメント質増生、セメント質粒	永野 藤田	実習室 5B
4～6回	10	13	火	3～5	根尖性歯周炎と関連疾患 ・ 慢性根尖性化膿性歯周炎、歯肉膿瘍、歯性上顎洞炎、 歯根肉芽腫、歯根嚢胞	永野 藤田	実習室 5B
7～8回	10	20	火	4～5	辺縁性歯周炎、エプーリス、歯肉増殖症 ・ 辺縁性歯周炎、肉芽腫性エプーリス、骨形成性エプーリス、 フェニトイン歯肉増殖症	永野 藤田	実習室 5B
9～10回	10	27	火	4～5	顎骨・顎関節の病変 ・ 骨髄炎、骨腫、線維性異形成症、セメント質骨性異形成症	永野 藤田	実習室 5B
11～12回	11	10	火	4～5	口腔領域の嚢胞 ・ 含歯性嚢胞、歯原性角化嚢胞、石灰化歯原性嚢胞、鼻口蓋管嚢胞	永野 藤田	実習室 5B
13～14回	11	17	火	4～5	口腔領域の嚢胞 ・ 術後性上顎嚢胞、類皮嚢胞、甲状舌管嚢胞、鰓嚢胞(リンパ上皮性嚢胞)	永野 藤田	実習室 5B
15～17回	12	1	火	3～5	口腔粘膜疾患 ・ アミロイドーシス、扁平苔癬、天疱瘡、類天疱瘡、カンジダ症、褥瘡性潰瘍	永野 藤田	実習室 5B
18～20回	12	8	火	3～5	非腫瘍性唾液腺疾患、唾液腺腫瘍 ・ 急性耳下腺炎、慢性顎下腺炎、唾石症、粘液嚢胞 ・ 多形腺腫、ワルチン腫瘍	永野 藤田	実習室 5B
21～23回	12	15	火	3～5	唾液腺腫瘍 ・ 基底細胞腺腫、オンコサイト腫瘍、 腺房細胞癌、粘表皮癌、腺様嚢胞癌、多形腺腫由来癌	永野 藤田	実習室 5B
24～26回	12	22	火	3～5	歯原性腫瘍 ・ エナメル上皮腫、腺腫様歯原性腫瘍、石灰化上皮性歯原性腫瘍、 エナメル上皮線維腫、セメント芽細胞腫	永野 藤田	実習室 5B
27～29回	1	5	火	3～5	歯原性腫瘍 ・ 歯牙腫(複雑型・集合型)、セメント質骨形成線維腫、歯原性粘液腫、 エナメル上皮線維肉腫	永野 藤田	実習室 5B
30～32回	1	12	火	3～5	非歯原性腫瘍 ・ 扁平上皮乳頭腫、顆粒細胞腫、神経線維腫、脂肪腫、 疣贅型黄色腫、血管腫	永野 藤田	実習室 5B
33～34回	1	26	火	4～5	非歯原性腫瘍 ・ 中心性巨細胞肉芽腫、 上皮性異形成、扁平上皮癌、扁平上皮癌リンパ節転移	永野 藤田	実習室 5B

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 木・2～6	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024209 DNGD22211981 口腔微生物学実習/ (Oral Pathology and Practice)		
対象年次 3 年次	講義形態 実習形式	教室 実習室 5A 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	

担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー
内藤真理子/mnaito@nagasaki-u.ac.jp /歯学部 5 階口腔病原微生物学分野/095-819-7649(内 7649)/17:00～18:00

担当教員(オムニバス科目等)	内藤真理子、哲翁ふみ

授業の概要

1.微生物の種類と特性を理解する。
2.寄生・感染と生体の防御機構を理解する。
3.防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。

授業到達目標
一般目標 GIO:
歯科口腔疾患のなか大きな位置を占める感染症の原因となる微生物について、その特徴を理解し、それらの取扱いを習得する。さらに感染予防の基本手技を身に着ける。

個別行動目標 SBOs:	【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
1. 細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明する。	A-4-1-1
2. 代表的な病原菌、および口腔内細菌、真菌を分離培養、染色、観察する。	A-4-1-1
3. 清潔と不潔の区別及び滅菌と消毒の意義、種類及び原理を説明する。さらに病原菌の取り扱い、培養ができる。これらの基本的な手技を実施する。	A-4-1-8, C-3-3-3, E-1-1-1, 2, 4, 5
5. 化学療法の目的と原理及び化学療法薬の作用機序並びに薬剤耐性機序を説明する。また自己の菌を分離培養、薬剤耐性を検査する。	A-4-1-6, 7

対応するディプロマポリシー
DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
教員の指導のもとで、実際に微生物(病原微生物を含む)を培養、各種の検査を実施する。また顕微鏡を用いた形態観察などの実習を行う。また各自の理解度を確認する為にレポートを課す。

授業内容
1 回目 細菌の染色法(1):Staphylococcus aureus (グラム陽性菌)と Escherichia coli(グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。
2 回目 細菌の染色法(2):枯草菌で芽胞染色、BCG 菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌を陰性染色にて観察する。
菌数測定法:唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。
手洗い実習:医療従事者として必修の手洗い方法を習得させる。蛍光クリームを用いて、各自手洗い後の洗い残しを観察、各自の問題点を認識させる。そのうえで正しい手洗い方法を習得させる。
3 回目 鼻腔からのブドウ球菌分離:鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。
オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。
4 回目 口腔レンサ球菌:口腔からの歯垢等のサンプルをから口腔レンサ球菌を分離、生化学的性状から菌種を同定する。
5 回目 歯周病原菌の培養:口腔内の歯周病原菌として特に重要な P. gingivalis, A.actinomycetemcomitans, F. nucleatum を用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。
6 回目 真菌の培養:口腔内の真菌としてとくに重要な C. albicans について口腔から分離、厚膜胞子を観察する。
7 回目 実習テスト (染色、観察実技)

キーワード	感染・微生物・免疫
教科書・教材・参考書	実習書を配布する。
成績評価の方法・基準等	微生物学・口腔微生物学・免疫学についての試験、同実習におけるレポート、実習実技テスト等の評価を総合して評価する。
受講要件(履修条件)	白衣を各自で準備すること。すべての課題レポートを期限内に提出すること。
備考(事前・事後学習の内容、学生へのメッセージ)	必ず受講前に実習書を用いて予習をすること。またあらかじめレポート課題の資料収集をおこなっておくこと。また知識の定着の為に返却されたレポートを用いて内容の復習を行うこと。歯科口腔疾患のなかでう蝕、歯周病などの感染症は大きな位置を占めている。その原因となる微生物についてしっかりと学修していただきたい。
実務経験のある教員による授業科目	哲翁ふみ / 診療所での臨床経験/ / 臨床経験を踏まえた感染予防方法の指導を行う。

日程表(口腔微生物学実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	木	2～6	細菌の染色法(1):Staphylococcus aureus (グラム陽性菌)とEscherichia coli (グラム陰性菌)を材料として使用し、細菌染色の基本となるグラム染色を行う。また墨汁による歯垢の陰影染色を行い各自の歯垢の構成細菌を観察する。	内藤・哲翁	実習室5A
2回	10	8	木	2～6	細菌の染色法(2):枯草菌で芽胞染色、BCG菌で抗酸染色を行う。歯垢細菌陰性染色にて観察する。菌数測定法:唾液を用いて段階希釈を行い、培養後にコロニー数をカウントすることで生菌数を測定する。	内藤・哲翁	実習室5A
3回	10	15	木	2～6	鼻腔からのブドウ球菌分離:鼻腔からのサンプルをブドウ球菌選択培地に塗抹し、ブドウ球菌を選択培養する。オキサシリンディスクを使用し、MRSAかどうかを鑑別する。	内藤・哲翁	実習室5A
4回	10	29	木	2～6	口腔レンサ球菌分離同定:口腔からの歯垢等のサンプルをMitis-Salivarius培地に塗抹し、口腔レンサ球菌を分離し、生化学的性状から菌種を同定する。	内藤・哲翁	実習室5A
5回	11	5	木	2～6	歯周病原菌の培養:口腔内の歯周病原菌として特に重要なP. gingivalis, A.actinomycetemcomitans, F. nucleatumを用い血液寒天培地での嫌気培養を行う。グラム染色で菌の形態を観察する。	内藤・哲翁	実習室5A
6回	11	12	木	2～6	真菌の培養:口腔内の真菌としてとくに重要なC. albicansについて口腔からのサンプルをカンジダGE培地に塗抹し、分離する。コーンミール培地を用いて培養し、厚膜胞子を観察する。	内藤・哲翁	実習室5A
7回	11	19	木	2～6	実習テスト(染色、観察実技試験を含む) 10:30開始	内藤・哲翁	講義室3A

年度 2026 学期 3・4Q	曜日・校時 金・1～2	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024210 DNGD22221982 歯科薬理学/ (Dental Pharmacology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A(一部3B)	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 筑波隆幸/tsuta@nagasaki-u.ac.jp/A 棟5階歯科薬理学分野教授室/095-819-7652(内 7652)/17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	筑波 隆幸、山口 優、兼松 隆(非常勤講師・九州大学・教授)		

授業の概要

薬理学の講義と連続性を持つが，痛みを止める薬物，抗感染症薬，止血薬，各種消毒薬，歯科専用薬物などを臨床との関連性を持たせながら講義する。登院前教育の一環として重視し、歯科臨床において使用頻度の高い薬物について，薬理作用と作用機序を論理的に理解することをねらいとする。

授業到達目標

一般目標 GIO:

薬物の生体に対する作用(薬力学)と薬物を分解、排泄する現象(薬物動態学)を理解し、病気の治療に役立てる知識を得ることを目標とする

個別行動目標 SBOs:

1.化学療法の目的，原理および作用機序を理解し説明できる。
2.血液の凝固機序および止血薬について理解し説明できる。
3.滅菌と消毒の意義，原理および代表的な薬物を理解し説明できる。
4.歯科治療時に留意すべき服用薬物を説明できる。
5.歯内療法，歯周治療および、う蝕予防に用いる薬物を説明できる。

【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-6-1
A-6-2
A-6-3
A-6-4

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP3:歯科口腔医療を行える基本的臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので，該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し，プリントを配布して，新しく確実になった情報の追加を行う。

授業内容

1 回目 化学療法薬(1):総論、作用機序、副作用と副現象
2 回目 化学療法薬(2):抗感染症薬、抗結核薬，抗真菌薬，抗ウイルス薬
3 回目 化学療法薬(3):抗悪性腫瘍薬
4 回目 炎症総論、ステロイド性抗炎症薬，非ステロイド性抗炎症薬、消炎酵素剤
5 回目 免疫機能に影響する薬物、免疫抑制薬
6 回目 血液凝固:血液凝固機構概論、血栓症とその治療法
7 回目 止血薬と抗凝固薬:止血法および全身性止血薬と局所性止血薬
8 回目 特別講義 兼松 隆 先生 (九州大学・教授)
9 回目 硬組織の薬理:歯と骨の病態薬理学，Ca ホメオスタシス，Ca 摂取と骨吸収，骨粗鬆症の予防と治療
10 回目 消毒薬:フェノール類，アルコール類，アルデヒド類，ハロゲン，及びハロゲン含有化合物，酸化剤
11 回目 口腔粘膜および唾液腺に作用する薬物
12 回目 和漢薬(漢方薬)
13 回目 歯内療法の薬物
14 回目 歯周疾患の薬物、抗う蝕薬，口腔用特殊薬物
15 回目 まとめ

キーワード	薬物，薬理作用，作用機序
教科書・教材・参考書	教科書:現代歯科薬理学(第 7 版):医歯薬出版 参考書:1.講義に際して示すが，なるべく出版年度の新しい各種参考書を利用の事。 2.図書館にも関連参考書を所蔵している。 3.薬理学講座にも所蔵しているので，利用を申し出てください。
成績評価の方法・基準等	3 年後期末の定期試験で，筆記試験を行い，60 点以上得点すれば合格である。本科目は，3年後期中に合格する事が必要である。再試験は 1 回行う。本試験の満点は 100 点，再試験以降の満点は 60 点とする。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。
備考(学生へのメッセージ)	液晶プロジェクターおよび板書を中心とした講義を行う。教科書を用いるので，該当する項目に関して予習をしてもらいたい。古くなった記載は講義時間内に修正し，プリントを配布して，新しく確実になった情報の追加を行う。授業はシラバスに沿って行うが，毎年若干の変更を余儀なくされる。講義の邪魔になると判断したときには，厳格に対応します。気持ちの良い講義になるように、協力をお願いします。
実務経験のある教員による授業科目	山口 優/歯科医院における診療経験／一般歯科において実際に薬剤がどのように使用されているかの実践的な情報提供を行う。

日程表(歯科薬理学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	金	1～2（I）	化学療法薬(1) 総論、作用機序、副作用と副現象、各種抗生物質について	筑波	講義室3A
2回	10	9	金	1～2（I）	化学療法薬(2) 抗感染症薬、ニューキノロン薬、抗結核薬、抗真菌薬、 抗ウイルス薬について	筑波	講義室1B
3回	10	16	金	1～2（I）	化学療法薬(3) 抗悪性腫瘍薬について	筑波	講義室3A
4回	10	23	金	1～2（I）	抗炎症薬 ステロイド性抗炎症薬，非ステロイド性抗炎症薬	筑波	講義室6B
5回	10	30	金	1～2（I）	免疫機能に関する薬物 免疫抑制薬、免疫機能活性化薬	筑波	講義室3A
6回	11	6	金	1～2（I）	血液凝固 血液凝固機構概論、血栓症とその治療法 （血液が血管内で凝固しないのはなぜか。血管外ではなぜ凝固するのか。）	筑波	講義室3A
7回	11	13	金	1～2（I）	止血薬と抗凝血薬 止血法および全身性止血薬と局所性止血薬 （抜歯後の止血をどう考えるのか。薬物はどのように止血に関与するか。）	筑波	講義室1C
8回	11	20	金	1～2（I）	特別講義 細胞内情報伝達と薬理作用	兼松	講義室3A
9回	11	27	金	1～2（I）	硬組織の薬理 歯と骨の病態薬理学，Caホメオスタシス，Ca摂取と骨吸収， 骨粗鬆症の予防と治療	筑波	講義室6B
10回	12	4	金	1～2（I）	消毒薬 消毒薬総論，消毒効果を左右する因子，消毒力の評価 消毒薬各論:フェノール類、アルコール類，アルデヒド類，ハロゲン類等	筑波	講義室3A
11回	12	11	金	1～2（I）	口腔粘膜治療薬、唾液腺作用薬 口腔粘膜疾患に用いられる薬物および唾液腺に作用する薬物	筑波	講義室3A
12回	12	18	金	1～2（I）	和漢薬(漢方薬) 漢方薬総論:漢方医学の診断と治療、証による診断、八綱分類、六病位 漢方薬各論:生薬・方剤、主な漢方薬	筑波	講義室1C
13回	1	8	金	1～2（I）	歯科専用薬物(1) 歯内療法に使用する薬物について	山口	講義室3A
14回	1	15	金	1～2（I）	歯科専用薬物(2) 歯周疾患に用いる薬物，う蝕の予防に用いる薬物，口腔用特殊薬物	山口	講義室3A
15回	1	29	金	1～2（I）	歯科薬理学まとめ 総復習と問題演習	筑波	講義室6A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 火・1	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024211 DNGD22231098 医学統計学/ (Statistics in Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 佐藤 俊太朗/shuntarosato@nagasaki-u.ac.jp/病院臨床研究センター/095-819-7194/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤俊太朗(長崎大学病院)		

授業の概要

医学研究の多くは研究対象から得られたデータに基づいて報告される。履修によってデータから何がわかるのか、どのようにその洞察を得るのかわかるようになり、科学論文を読み、研究をおこなう助けとなる。医学的問題を対象とした統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得を意図する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
統計学と疫学の基礎を学ぶことにより、統計学的思考力や判断力、および疫学研究手法の習得をする。

【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

個別行動目標 SBOs:

1.データの種類とその要約について説明できる。推定と検定を説明できる。 B-4-2)

2. 連続、カテゴリカルデータの群比較を説明できる。相関と回帰分析を説明できる。 B-4-2)

3.母集団と標本との関係が説明できる。疫学研究の手法について説明できる。 B-4-1)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。

授業方法(学習指導法)

スライドを用いた授業形式。理解度の確認のため学生への質問、ならびにレポート課題を課す。

授業内容

1 回目 イントロダクション、データセットの作り方
2 回目 記述統計と推測統計
3 回目 仮説検定の考え方
4 回目 連続データの群間比較
5 回目 二値データの群間比較
6 回目 線形回帰モデル
7 回目 ロジスティック回帰モデル、回帰の解釈
8 回目 診断性能評価

キーワード	推定、仮説検定、群間比較、回帰モデル、疫学研究
教科書・教材・参考書	必要に応じて、講義中に指定する。
成績評価の方法・基準等	毎回の課題とレポートによって総合評価する。
受講要件(履修条件)	講義は 2/3 以上の出席が必要。
備考(学生へのメッセージ)	回数が少ないので出席には要注意
実務経験のある教員による授業科目	・佐藤俊太朗／長崎大病院臨床研究センターにて統計に関する指導・助言を行っている。

日程表(医学統計学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	29	火	1	イントロダクション，データセットの作り方	佐藤	講義室6B
2回	10	6	火	1	記述統計と推測統計	佐藤	講義室3A
3回	10	13	火	1	仮説検定の考え方	佐藤	講義室1C
4回	10	20	火	1	連続データの群間比較	佐藤	講義室3A
5回	10	27	火	1	二値データの群間比較	佐藤	講義室3A
6回	11	10	火	1	線形回帰モデル	佐藤	講義室3A
7回	11	17	火	1	ロジスティック回帰モデル，回帰の解釈	佐藤	講義室3A
8回	11	24	火	1	診断性能評価	佐藤	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 月・5	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25024213 DNGD22241934 歯科法医学/ Dental forensic medicine		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3B	
対象学生(クラス等) 歯学部		科目分類 口腔生命科学各論 I	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 山下 裕美/ hiyamashita@nagasaki-u.ac.jp/歯科法医学分野/095-819-7076(内 7076)/12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	山下 裕美、池松 和哉(医学部法医学)、安倍優樹(医学部法医学)、櫻田 宏一(東京科学大学法歯学)、田中 靖彦(タナカ・デンタル・クリニック)		

授業の概要

法医学及び歯科法医学の基礎知識とその応用例を学び、将来、歯科医師としての社会貢献への関心を深め、また、死亡診断書の記載方法や身元不明者に対する歯科所見を用いた個人識別の方法を学んでいく。

授業到達目標

一般目標 GIO:

法医学及び法歯学に関連する知識、法律を習得し、歯科的立場において社会の治安維持や平時及び災害時における身元の確認に貢献するために法歯学に基づく方法を理解する。

個別行動目標 SBOs:

1. 法医学・歯科法医学に関連する制度や法律を説明する。(知識;解釈)
2. 死因論、死体現象、検案・解剖を説明する。(知識;解釈)
3. 虐待(小児、高齢者)について理解し、歯科医師としての責務を説明する。(知識;想起)
4. 災害時に必要な歯科医師の役割を説明する。(知識;想起)
5. 死亡診断書の記載や症例を用いて身元不明者に対する歯科所見を用いた個人識別を実施する。(知識;技能)

【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
C-4-4-1), C-4-2-1), C-4-2-2)
C-4-4-3)
C-4-4-2), C-4-3-5)

C-4-3-8)
C-4-4-1)

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。
DP7:患者中心の歯科口腔医療を展開するための豊かな人間性と倫理観を身につけている。

授業方法(学習指導法)

プリントとスライドを用いた講義、症例についてはスライドを使用し視覚的に理解を深める。講義内容によっては、学習課題を与え、その都度個人でその課題に取り組んでもらう。死亡診断書や歯科所見を用いた個人識別では、実際に使用している書式を用いて作成方法を習得する。

授業内容

1 回目 総論、各論(1)検案・解剖
2 回目 各論(2)死体現象
3 回目 各論(3)異常環境下の障害
4 回目 各論(4)法医学における物体検査
5 回目 各論(5)児童虐待、損傷
6 回目 地域における嘱託歯科医の社会活動について
7 回目 シミュレーション実習(歯科所見を用いた個人識別)
8 回目 シミュレーション実習(死亡診断書)

キーワード	法医学、歯科法医学、死体現象、死因究明制度、個人識別、虐待
教科書・教材・参考書	教科書: 特に指定しない 参考書:学生のための法医学(南山堂)、法歯科医学(永末書店)、歯科検視マニュアル(生協でのみ販売)
成績評価の方法・基準等	筆記試験、レポート、出席状況等を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	授業に出席した時数が授業を行った時数の 3 分の 2 に達しない場合, 成績評価の対象とならない。
備考 (学生へのメッセージ)	歯科医師として必要な法医学及び歯科法医学の知識を習得し、その社会的役割について理解を深めて下さい。

実務経験のある教員による授業科目	・山下　裕美／剖検、検案及び生体鑑定における実務経験／法医学分野で行われている剖検・検案時の歯科所見採取や歯科治療痕を用いた個人識別、生体鑑定等の実務経験を活かして歯科法医学に必要な知識について解説する。 ・池松　和哉／剖検、検案及び生体鑑定における実務経験／剖検・検案、生体鑑定等の実務経験から歯科医師に必要な法医学的知識について解説する。 ・安倍　優樹／剖検、検案及び生体鑑定における実務経験／剖検・検案、生体鑑定等の実務経験から歯科医師に必要な法医学的知識について解説する。 ・櫻田 宏一／物体検査の実務経験／法医学分野及び警察の捜査で必要とされる物体検査の実務経験を踏まえ、歯科法医学に必要な知識について解説する。 ・田中　靖彦／警察嘱託歯科医活動における実務経験／警察嘱託歯科医活動の実務経験を踏まえて、地域で求められる歯科医師の役割や社会貢献について解説する。

日程表(歯科法医学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	30	月	5	総論 各論(1)検案・解剖	山下裕美	講義室3B
2回	12	7	月	5	各論(2)死体現象	安倍優樹	講義室6A
3回	12	14	月	5	各論(3)異常環境下の障害	池松和哉	講義室6A
4回	12	21	月	5	各論(4)法医学における物体検査 最新の犯罪捜査における物体検査法について	櫻田宏一	講義室3B
5回	1	4	月	5	各論(5)児童虐待、損傷	山下裕美	講義室3B
6回	1	18	月	5	地域における嘱託歯科医の社会活動について	田中靖彦	講義室3B
7回	1	25	月	5	シミュレーション実習(歯科所見を用いた個人識別)	山下裕美	講義室3B
8回	1	25	月	6	シミュレーション実習(死亡診断書)	山下裕美	講義室3B

口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生、5年次生）

（1）衛生学及び同実習　(3年)・・・・・・・・・・・・116
（2）予防歯科学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・120
（3）歯科矯正学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・125
（4）小児歯科学　(4年)・・・・・・・・・・・・129
（5）小児歯科学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・132
（6）保存修復学　(4年)・・・・・・・・・・・・134
（7）保存修復学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・137
（8）歯内治療学　(4年)・・・・・・・・・・・・140
（9）歯内治療学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・143
(10) 歯周病学　(4年)・・・・・・・・・・・・146
(11) 歯周病学実習　(4年)・・・・・・・・・・・・149
(12) 冠橋義歯学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・152
(13) 有床義歯補綴学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・158
(14) 口腔外科学Ⅰ及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・162
(15) 口腔外科学Ⅱ及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・164
(16) 歯科放射線学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・167
(17) 歯科麻酔学及び同実習　(4年)・・・・・・・・・・・・170
(18) 高齢者歯科学　(4年)・・・・・・・・・・・・173
(19) 障害者歯科学　(4年)・・・・・・・・・・・・177
(20) 災害口腔医学　(4年)・・・・・・・・・・・・180
(21) 口腔インプラント学　(5年)・・・・・・・・・・・・183
(22) 摂食嚥下リハビリテーション学　(5年)・・・・・・・・・・・・186
(20) 社会歯科学　(5年)・・・・・・・・・・・・189

年度 2026　学期 4Q	曜日・校時　木・3～6	必修選択　必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034301 DNGD33011990 衛生学及び同実習/(Hygiciology & Public Health)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義・実習形式	教室　講義室 3A、実習室 5A	
対象学生(クラス等)		科目分類　口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 入江浩一郎/iriko@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教員室/095-819-7663(内 7663)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	入江浩一郎、川下由美子、今給黎　明、佐藤美穂(熱帯医学)　高島美和(長崎大学病院)		

授業の概要

環境衛生学、公衆衛生学、口腔衛生学、社会歯科学、予防医学など「疾患の予防」に基づく幅広い分野を学ぶ。
個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識を理解、習得させ且つ問題解決に必要な態度と能力を養う。
健康、疾患と社会の関連、予防医学の重要性を理解する。

授業到達目標

一般目標 GIO:
個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識、態度、および能力を養う。

【令和 4 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

C-4-1), C-4-5)

個別行動目標 SBOs:
1.疾病予防と健康増進の考え方を説明できる。　C-5)
2.衛生学の基本的知識、生活環境と健康、廃棄物とその処理、環境保全と環境対策を説明できる。　C-6-1),　C-6-2)
3.人口問題と疾病統計、高齢者の現状を説明できる。　C-7)
4.医師・歯科医師の責務と医療倫理について説明できる。
5.感染症の疫学と感染予防を説明できる。
6.環境保健について説明できる

対応するディプロマポリシー

DP1:歯科口腔医学に関する基礎的知識を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義及び実習

授業内容

1 回目: 衛生学、社会歯科学概論 (入江)
2 回目: 疫学① (入江)
3 回目: 疫学② (入江)
4 回目: 食中毒(入江)
5 回目: 感染症① (川下)
6 回目: 感染症② (川下)
7 回目: 社会と保健医療の仕組み (入江)
8 回目: 地域保健 (入江)
9 回目: 母子保健 (川下)
10 回目: 学校保健 (川下)
11 回目: 障害者福祉 (今給黎)
12 回目: 成人保健 (入江)
13 回目: 産業保健 (川下)
14－15 回目: 政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計(今給黎)
16 回目: 健康増進法と歯科口腔保健の推進に関する法律(入江)
17-18 回目: 自習
19-20 回目: 環境保健(今給黎)
21 回目: 自習
22 回目: 精神保健医療福祉 (川下)
23 回目: 国際保健 (佐藤美)
24 回目: 高齢者保健 (今給黎)
25 回目: 栄養 (高島美和栄養士)
26 回目: 自習
27-29 回目: 衛生学実習　水質検査 (入江・川下・今給黎)
30 回目: 自習

キーワード	衛生、健康、疾患、予防、栄養、疫学、感染、環境、社会
教科書・教材・参考書	新編　衛生学・公衆衛生学　（医歯薬出版）
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合がある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席することとする。欠席した学生は必ず連絡を取ること。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。
実務経験のある教員による授業科目	・入江　浩一郎／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・川下　由美子／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・今給黎　明／大学病院における予防歯科を主体とした実務経験／臨床の経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・佐藤　美穂／海外での経験を生かした実践的な情報・知識の提供 ・高島　美和／栄養士としての経験を生かした実践的な情報・知識の提供

日程表(衛生学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	26	木	3	衛生学、社会歯科学概論	入江	講義室3A
2回	11	26	木	4	疫学①	入江	講義室3A
3回	11	26	木	5	疫学②	入江	講義室3A
4回	11	26	木	6	食中毒	入江	講義室3A
5回	12	3	木	3	感染症①	川下	講義室3A
6回	12	3	木	4	感染症②	川下	講義室3A
7回	12	3	木	5	社会と保健医療の仕組み	入江	講義室3A
8回	12	3	木	6	地域保健	入江	講義室3A
9回	12	10	木	3	母子保健	川下	講義室3A
10回	12	10	木	4	学校保健	川下	講義室3A
11回	12	10	木	5	障害者福祉	今給黎	講義室3A
12回	12	10	木	6	成人保健	入江	講義室3A
13回	12	17	木	3	産業保健	川下	講義室3A
14回	12	17	木	4	健康増進法と歯科口腔保健の推進に関する法律	入江	講義室3A
15回	12	17	木	5	政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計　1	今給黎	講義室3A
16回	12	17	木	6	政府統計の基幹統計調査と一般統計調査・人口統計　2	今給黎	講義室3A
17回	12	17	木	7	自習		講義室3A

日程表(衛生学及び同実習)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
18回	1	7	木	3	自習		講義室3A
19回	1	7	木	4	環境保健 1	今給黎	講義室3A
20回	1	7	木	5	環境保健 2	今給黎	講義室3A
21回	1	7	木	6	自習		講義室3A
22回	1	14	木	3	精神保健医療福祉	川下	講義室3A
23回	1	14	木	4	国際保健	佐藤(美)	講義室3A
24回	1	14	木	5	高齢者保健	今給黎	講義室3A
25回	1	14	木	6	栄養	学内栄養士 (高島)	講義室3A
26回	1	28	木	3	自習		講義室6B
27回	1	28	木	4	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	入江 川下 今給黎	実習室5A
28回	1	28	木	5	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	入江 川下 今給黎	実習室5A
29回	1	28	木	6	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)	入江 川下 今給黎	実習室5A
30回	1	28	木	7	自習		講義室6B

関連臨床医学（3 年次生）

（１）内科学総論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・192
（薬学部共修）
（２）外科学総論　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・195
（薬学部共修）
（３）内科学各論　内科学１・・・・・・・・・・・・・・・・・・198
（薬学部共修）　内科学３・・・・・・・・・・・・・・・・・・200
脳神経内科学・・・・・・・・・・・・・・・・202
血液学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・204
（４）外科学各論　外科学１・・・・・・・・・・・・・・・・・・206
外科学２・・・・・・・・・・・・・・・・・・208
（５）隣接医学Ⅰ　皮膚科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・210
（薬学部共修）　眼科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・212
耳鼻咽喉科学・・・・・・・・・・・・・・・214
整形外科学・・・・・・・・・・・・・・・・217
形成外科学・・・・・・・・・・・・・・・・219
（６）隣接医学Ⅱ　小児科学・・・・・・・・・・・・・・・・・・221
（薬学部共修）　産科婦人科学・・・・・・・・・・・・・・・・223
泌尿器科学・・・・・・・・・・・・・・・・225
精神神経科学・・・・・・・・・・・・・・・227
脳神経外科学・・・・・・・・・・・・・・・229
（７）隣接医学Ⅲ　人類遺伝学・・・・・・・・・・・・・・・・・231

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 木・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084501 DNGD33171992 内科学総論/ (Internal Medicine)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	石本 裕士、高園 貴弘、深堀 範、道津 洋介、岩田 麻有、三馬 聡、高橋 孝輔、 松島 加代子、橋口 慶一、福島 真典、白髭 知之、柿内 聡志		

授業の概要

歯科医・薬剤師として必要な内科学総論(呼吸器、消化器、腎臓分野、感染症学)

授業到達目標 【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

歯科医・薬剤師として最低限必要な内科疾患(呼吸器疾患、消化器疾患、腎臓疾患)に関する知識を習得する。 D-2-4 医科歯科連携

D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識

個別行動目標 SBOs: E-2-4 医科歯科連携

内科学および下記の各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。

1 呼吸器、 2 消化器、 3 腎・泌尿器

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

プリント、スライドを使った講義が主体である。

授業内容

1 回目 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患

2 回目 間質性肺疾患

3 回目 **呼吸器感染症**

4 回目 肺癌

5 回目 感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について

6 回目 感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について

7 回目 胆膵疾患

8 回目 ウイルス性肝疾患

9 回目 肝硬変と肝癌

10 回目 腎臓内科総論、腎臓の解剖と機能

11 回目 腎不全

12 回目 腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質性腎炎

13 回目 下部消化管疾患

14 回目 上部消化管疾患

15 回目 まとめ

教科書・教材・参考書	(参考書として記載しますが、基本的には不要です) 教科書 わかりやすい内科学(第 5 版) 井村裕夫編集 (文光堂) 参考書 内科学書(改訂第 9 版):全 6 冊+別巻(中山書店)
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて評価する。出題範囲は基本的に講義内容あるいは配布資料の範囲。 再試は1回行う。
受講要件(履修条件)	なし

備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・石本　裕士、髙園　貴弘、深堀　範、道津　洋介／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（呼吸器疾患）について教授する。 ・高橋　孝輔、三馬　聡、松島　加代子、橋口　慶一、福島　真典／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（消化器疾患）について教授する。 ・岩田　麻有／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（腎臓疾患）について教授する。 ・白髭　知之、柿内　聡志／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な内科疾患（感染症学）について教授する。

日程表(内科学総論)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	9	木	I	呼吸器病学 呼吸器内科総論・アレルギー性疾患	深堀 範	講義室3A
2回	4	16	木	I	呼吸器病学 間質性肺疾患	石本 裕士	講義室3A
3回	4	23	木	I	**呼吸器病学** **呼吸器感染症**	高園 貴弘	講義室3A
4回	4	30	木	I	呼吸器病学 肺癌	道津 洋介	講義室3A
5回	5	7	木	I	**感染症学** **感染症の現状、病態の基本、診断、治療方法について**	白髭知之	講義室3A
6回	5	14	木	I	**感染症学** **感染症の予防方法としての標準予防策、経路別予防策について**	柿内 聡志	講義室3A
7回	5	21	木	I	**消化器病学** **胆膵疾患**	高橋孝輔	講義室3A
8回	5	28	木	I	**消化器病学** **ウイルス性肝疾患**	三馬 聡	講義室3A
9回	6	4	木	I	**消化器病学** **肝硬変と肝癌**	福島 真典	講義室3A
10回	6	11	木	I	**腎臓病学** **腎臓内科総論、腎臓の解剖と機能**	岩田 麻有	講義室3A
11回	6	18	木	I	**腎臓病学** **腎不全**	岩田 麻有	講義室3A
12回	6	25	木	I	**腎臓病学** **腎炎、ネフローゼ症候群、尿細管間質性腎炎**	岩田 麻有	講義室3A
13回	7	2	木	I	**消化器病学** **下部消化管疾患**	橋口 慶一	講義室3A
14回	7	9	木	I	消化器病学 上部消化管疾患	松島 加代子	講義室3A
15回	7	16	木	I	まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 金・1	必修選択 必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084502 DNGD33181992 外科学総論/(Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	橋本泰匡、野中 隆、石井光寿、松本桂太郎、下山孝一郎、荒井淳一、大坪竜太、小畑智裕、小坂太一郎		

授業の概要

外科学総論としての外科診断学、腫瘍学、創傷治癒、免疫学、感染学、栄養学の系統的講義を通じて、外科患者の診断、治療に対する理解を深める。

授業到達目標

一般目標 GIO:

外科の歴史、損傷と創傷治療、炎症と感染、腫瘍、外科栄養、免疫、体液変動、老人外科、小児外科の各分野について、基本的知識を習得し、理解する。

個別行動目標 SBOs:

1. 外科学の概念を説明できる。
2. 外科治療の中心である手術などの侵襲に伴う病態への対応を説明できる。
3. 現代外科学の主な対象である外傷・腫瘍の外科および先端にある臓器移植、また、老人外科、小児外科に関する概要を説明できる。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

PC プレゼンテーションによる講義が中心となる。また理解を深めるため、必要に応じてプリントの配布も行うこともある。

授業内容

1 回目 外科と栄養:(1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養
血液凝固異常と輸血:血液製剤の種類と特徴
外科的侵襲と生体反応:(1)免疫系の反応 (2)血液凝固系の反応 (3)術後の生体反応と回復過程

2 回目 老人外科・小児外科の特徴:(1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理
(4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴

3 回目 腫瘍:(1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査
(5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学

4 回目 外科の歴史と外科医の立場:(1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見

5 回目 臓器移植・人工臓器:呼吸器系の移植と人工臓器

6 回目 外科と免疫:(1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染

7回目 損傷と創傷治療:(1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子
(5)創傷管理の実際

8 回目 炎症と感染:(1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症
(5)外科的特殊感染症 (6)治療

9 回目 体液と変動の輸液:(1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法

キーワード	外科、腫瘍学、免疫学、炎症、感染、栄養、創傷治癒
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布することあり。

成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。再試は1回行う。 出席率も考慮する。
受講要件(履修条件)	なし
備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において役に立つ外科的な基礎知識を習得することを目的とします。
実務経験のある教員による授業科目	・石井　光寿（第１回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・小坂　太一郎（第２回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・野中　隆　（第３回目）　／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・橋本　泰匡（第４回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・松本 桂太郎（第５回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・小畑　智裕（第６回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・荒井　淳一（第７回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・下山　孝一郎（第８回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。 ・大坪　竜太（第９回目）／長崎大学病院における診療業務／外科学総論としての外科に関する基本的知識を教授する。

日程表(外科学総論)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	金	1	外科と栄養 (1)外科における栄養管理の意義 (2)栄養アセスメント (3)経腸栄養 (4)経静脈栄養 血液凝固異常と輸血 (1)血液製剤の種類と特徴	石井光寿	講義室3A
2回	4	10	金	1	老人外科・小児外科の特徴 (1)小児外科の特徴 (2)新生児・未熟児の特徴 (3)術前・術後の栄養管理 (4)老人外科の特徴 (5)手術適応 (6)周術期管理の特徴	小坂太一郎	講義室3A
3回	4	17	金	1	腫瘍 (1)良性腫瘍と悪性腫瘍 (2)発癌メカニズム (3)悪性腫瘍の病態 (4)臨床診断と特殊検査 (5)悪性腫瘍の治療 (6)悪性腫瘍の疫学	野中隆	講義室3A
4回	4	24	金	1	外科の歴史と外科医の立場 問診と外科的診察法 (1)外科の歴史 (2)外科医と法 (3)専門医制度 (4)病歴 (5)理学的所見	橋本泰匡	講義室3A
5回	5	1	金	1	臓器移植・人工臓器 呼吸器系の移植と人工臓器	松本桂太郎	講義室3A
6回	5	8	金	1	外科と免疫 (1)免疫機構と調節 (2)腫瘍免疫 (3)移植免疫 (4)免疫不全と日和見感染	小畑智裕	講義室3A
7回	5	15	金	1	損傷と創傷治療 (1)機械的損傷 (2)非機械的損傷 (3)創傷の治癒過程 (4)創傷治癒を左右する因子 (5)創傷管理の実際	荒井淳一	講義室3A
8回	5	22	金	1	炎症と感染 (1)炎症の概念と病態生理 (2)臨床症状と所見 (3)外科的感染症の起因菌 (4)全身感染症と敗血症 (5)外科的特殊感染症 (6)治療 外科的侵襲と生体反応	下山孝一郎	講義室3A
9回	5	29	金	1	体液の変動と輸液 (1)正常体液分布 (2)侵襲と体液変動 (3)水・電解質異常 (4)酸塩基平衡障害 (5)輸液療法	大坪竜太	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時　日程表のとおり	必修選択　必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084511 DNGD33191992 内科学各論(内科学 1)/(Internal medicine,Spescial Lecture)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類　関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	岩本直樹、堀江一郎、森内昭江、古賀智裕		

授業の概要

内科学の基礎知識を理解することを目標とする。特に、以下のテーマに基づいて、歯科口腔症状所見との関連にも重点をおいて講義する。内科学について、代表的な疾患の理解や歯科口腔症状所見との関連に重点をおいて講義する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

内科学の基礎知識を理解する。将来、実際の臨床の場で役立つような知識・判断力を身に付けさせる。

個別行動目標 SBOs:

受講生がリウマチ性疾患、神経疾患、内分泌代謝疾患の概念を理解し、その病態を説明できるようにする。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4　医科歯科連携
D-6-1　医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4　医科歯科連携

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式にて行う。プリントの配布、スライド及び液晶プロジェクターを使用して講義する。

授業内容

1 回目　リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-1。

2 回目　内分泌疾患の基礎と臨床について、バセドウ病などの内分泌疾患の内科的知識を講義して、歯科領域の注意点などを理解させる。

3 回目　糖尿病の成因・治療について、糖尿病の内科的知識を講義して歯科領域の注意点などを理解させる。

4 回目　リウマチ性疾患の内科的基礎知識を講義し口腔内病変を理解させる-2。

キーワード	リウマチ性疾患、臨床神経学、糖尿病、内分泌疾患
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験(講義担当者が各々試験問題を作成)を実施する。出席率、追試験、再試験は学部規則の沿って厳格に行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	将来、実際の臨床の場で役立つような内科学の基礎知識が身につくことを心がけて講義します。
実務経験のある教員による授業科目	・古賀　智裕（第１回目）／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・堀江　一郎（第２回目）／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・森内　昭江（第３回目）／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・岩本　直樹（第４回目）／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。

日程表(内科学1)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	28	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-1	古賀智裕	講義室3A
2回	10	5	月	I	内分泌疾患 主な内分泌疾患の診断・治療について	堀江一郎	講義室3A
3回	10	19	月	I	糖尿病 糖尿病の成因・治療について	森内 昭江	講義室3A
4回	10	26	月	I	リウマチ性疾患 リウマチ性疾患-2	岩本直樹	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 月Ⅰ、月Ⅴ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084512 DNGD33191992 内科学各論(内科学 3)/(Internal medicine,Cardiovascular disease)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	佐藤大輔、本川哲史、荒川修司、江口正倫、池田聡司		

授業の概要

歯学部学生にあっては、循環器疾患を理解し、循環器疾患を有する患者に歯科治療を行うとどのような影響があるのか、歯科診療に際して注意すべき点など、実際の歯科診療に必要な知識を学習して欲しい。薬学部にあっては、循環器疾患を理解し、治療薬として使われる薬剤の作用機序を理解し薬剤に対する理解を深めて欲しい。

授業到達目標

一般目標 GIO:

循環器内科学の医療従事者としての一般的な知識を習得することが第一の目標となる。循環器疾患を有する患者への歯科治療や投薬治療を行う際に、歯科医師・薬剤師として知っておくべき知識、注意が必要な点、治療薬物の薬効について習得する。

個別行動目標 SBOs:

循環器、内科学、内科医療および加齢・老年病学の病態生理・疾患を理解し概説できる。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

基本的には板書およびパソコンにて講義するが、話り尽くせない分はプリントを活用する。

授業内容

1 回目 弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎

2 回目 虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞

3 回目 心電図・不整脈:期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、人工ペースメーカー、ICD

4 回目 心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心不全

5 回目 高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症

キーワード	
教科書・教材・参考書	参考書 病気がみえる vol.2 循環器 医療情報科学研究所 (編集)
成績評価の方法・基準等	筆記試験にて行う。内容は講義した内容で客観問題(五肢択一または複択形式)。 60 点以上を合格とする。再試験は 1 回行う。
受講要件(履修条件)	
実務経験のある教員による授業科目	・佐藤 大輔 (第 1 回目) /長崎大学病院における診療業務/循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・本川 哲史 (第 2 回目) /長崎大学病院における診療業務/循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・荒川 修司 (第 3 回目) /長崎大学病院における診療業務/循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・江口 正倫 (第 4 回目) /長崎大学病院における診療業務/循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・池田 聡司 (第 5 回目) /長崎大学病院における診療業務/循環器疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。

日程表(内科学3)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	16	月	I	弁膜疾患・先天性心疾患:僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、 大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、心房中隔欠損症、 心室中隔欠損症、動脈管開存症、ファロー四徴症、感染性心内膜炎	佐藤大輔	講義室3A
2回	11	30	月	V	虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞	本川哲史	講義室3A
3回	12	7	月	I	心電図・不整脈:期外収縮、頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、 人工ペースメーカー、ICD	荒川修司	講義室1C
4回	12	14	月	I	心臓の炎症性疾患・心筋症・心不全:心筋炎、肥大型心筋症、 拡張型心筋症、心不全	江口正倫	講義室1C
5回	12	21	月	V	高血圧・大動脈疾患・末梢動脈疾患:本態性高血圧症、肺高血圧症、 大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症	池田聡司	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時　日程表のとおり	必修選択　必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084515 DNGD33191992 内科学各論(脳神経内科学)/Internal medicine (Neurology and Strokology)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)　歯学部・薬学部		科目分類　関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	辻野　彰、宮崎禎一郎		

授業の概要

内科学の基礎知識を理解することを目標とする。特に、以下のテーマに基づいて、歯科口腔症状所見との関連にも重点をおいて講義する。内科学について、代表的な疾患の理解や歯科口腔症状所見との関連に重点をおいて講義する。

授業到達目標　【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

内科学の基礎知識を理解する。将来、実際の臨床の場で役立つような知識・判断力を身に付けさせる。

D-2-4　医科歯科連携

D-6-1医師と連携するために必要な医学的知識

E-2-4　医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:

受講生が神経疾患の概念を理解し、その病態を説明できるようにする。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式にて行う。プリントの配布、スライド及び液晶プロジェクターを使用して講義する。

授業内容

1 回目　臨床神経学概説1:脳血管障害で使用される抗凝固剤、抗血小板剤の知識を深く理解させる。

2 回目　臨床神経学概説2:歯科領域を中心に、脳神経の解剖・生理学をとうして、神経内科学の基礎知識を講義する。

キーワード	臨床神経学
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験(講義担当者が各々試験問題を作成)を実施する。出席率、追試験、再試験は学部規則の沿って厳格に行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	将来、実際の臨床の場で役立つような内科学の基礎知識が身につくことを心がけて講義します。
実務経験のある教員による授業科目	・辻野　彰（第１回目）／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。 ・宮崎　禎一郎（第２回目）／長崎大学病院における診療業務／内科疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点を理解させる。

日程表(脳神経内科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	30	金	V	神経疾患 臨床神経学概説1:脳血管障害について	辻野　彰	講義室3A
2回	11	6	金	V	神経疾患 臨床神経学概説2:歯科領域の神経解剖	宮崎禎一郎	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 月・I	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084513 DNGD33191992 内科学各論(血液学)/(Internal medicine, Hematology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	蓬莱真喜子		

授業の概要

1.血液の構成成分およびその機能、さらに骨髄における造血について理解する。
2.止血機構について理解する。
3.血液疾患の中心である、貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患について病態や治療を理解する。

授業到達目標 【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

1.歯科医(薬剤師)にとって診療上必要と考えられる血液学について理解する。 D-2-4 医科歯科連携
D-6-1医師と連携するために必要な医学的知識

2.血液の構成成分とその機能について説明できる。止血機構について説明できる。 E-2-4 医科歯科連携

3.代表的血液疾患の病態について理解する。

個別行動目標 SBOs:

血液内科学分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式にて行う。プリントを配布し、スライドを用いて講義する。

授業内容

1 回目 造血のしくみ(造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能)
血球の種類と機能、貧血性疾患
2 回目 造血器悪性腫瘍 (白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)
3 回目 止血の仕組み、出血性疾患

キーワード	造血幹細胞、貧血、白血病、悪性リンパ腫、止血・凝固異常、化学療法、造血幹細胞移植
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 血液・造血器疾患学(小澤敬也ほか、メジカルビュー社) 2. カラーテキスト血液病学(木崎 昌弘ほか、中外医学社) 3. 血液学(三輪史朗ほか、文光堂) 講義資料を LACS に掲載する。
成績評価の方法・基準等	筆記試験による定期試験で評価する。 再試験は、提出されたレポートの評価による(1 回行う)。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	正常血球の種類とその機能について確認しておくと、症状や病態に関する理解が深まる。
実務経験のある教員による授業科目	・蓬莱真喜子／長崎大学病院における診療業務／診療上必要な血液学及び血液疾患に関する基礎的な知識を教授し、歯科領域での注意点の理解を促す。

日程表(血液学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	21	月	I	造血のしくみ(造血幹細胞の自己複製能と各血球系への分化能) 血球の機能、貧血性疾患	蓬莱真喜子	講義室3A
2回	1	4	月	I	造血器悪性腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫) 病態・臨床的特徴・治療	蓬莱真喜子	講義室3A
3回	1	18	月	I	止血の仕組み 出血性疾患の病態、疾患	蓬莱真喜子	講義室3A
4回	1	25	月	I	内科学各論　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 月・4	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084521 DNGD33201992 外科学各論(外科学 1)/(Surgery detailed explanations, Surgical Oncology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等) 歯学部	科目分類 関連臨床医学		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	北村哲生、久冨一輝、下山孝一郎、小坂太一郎、宮崎拓郎、大坪竜太		

授業の概要

外科各論としての心蔵外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科について、その基本的な事項を学ぶ。

授業到達目標 【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GlO:

外科学の各分野の基本事項について理解すること D-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs: D-6-1医師と連携するために必要な医学的知識

1. 一般・消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、心臓血管外で扱う主な疾患に対する知識を説明できる。 E-2-4 医科歯科連携
2. 各疾患に対する診断方法、および外科的なアプローチの概要を説明できる。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

PC プレゼンテーションによる講義が中心となる。また理解を深めるため、必要に応じてプリントの配布も行うこともある。

授業内容

1 回目 心蔵外科:先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療
2 回目 血管外科:急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療
3 回目 呼吸器外科(1):縦隔・胸壁の外科
4 回目 呼吸器外科(2): 肺・胸膜の外科
5 回目 小児外科:先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療
6 回目 呼吸器外科(3):肺移植外科
7 回目 乳腺外科:乳癌の診断と治療

キーワード	食道外科、心蔵外科、血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(医学書院) 必要に応じてプリントを配布することあり。
成績評価の方法・基準等	筆記試験による評価を行う。 再試験は1回行う。 出席率も考慮する。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	臨床診療において知っておくべき外科的な疾患とその治療内容を習得することを目的とします。
実務経験のある教員による授業科目	・北村哲生、久冨一輝(第 1・2 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・下山孝一郎(第3・4回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・小坂太一郎(第5回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・宮崎拓郎(第 6 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・大坪 竜太(第 7 回目)／長崎大学病院における診療業務／外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。

日程表(外科学1)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	28	月	4	心臓外科 先天性心疾患・弁疾患・冠動脈疾患に対する外科治療	北村哲生	講義室3A
2回	10	5	月	4	血管外科 急性および慢性閉塞性動脈疾患と静脈疾患の外科治療	久冨一輝	講義室3A
3回	10	19	月	4	呼吸器外科 縦隔・胸壁の外科	下山孝一郎	講義室3A
4回	10	26	月	4	呼吸器外科 肺・胸膜の外科	下山孝一郎	講義室3A
5回	11	2	月	4	小児外科 先天性疾患ならびに救急治療を要する小児疾患の外科治療	小坂太一郎	講義室3A
6回	11	9	月	4	呼吸器外科 肺移植外科	宮崎拓郎	講義室3A
7回	11	16	月	4	乳腺外科 乳癌の診断と治療	大坪竜太	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 月・4	必修選択 必修	単位数 (1)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084522 DNGD33201992 外科学各論(外科学 2)/(Surgery detailed explanations, Gastrointestinal Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	今村一歩、木下綾華、小林慎一朗、村上俊介、山口峻、濱田隆志、、久芳さやか		

授業の概要

外科治療の対象となる代表的な消化器疾患について講義する。

授業到達目標

一般目標 GIO:

外科治療の対象となる代表的な消化器疾患を学習し、臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる一般的知識を習得する。臨床歯科医として診療行為を行ううえで必要となる代表的な消化器系外科的疾患について、基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深める。消化器悪性腫瘍、特に食道、胃、大腸などの管腔臓器、ならびに肝臓、胆道、膵臓、甲状腺などの実質臓器に発生する腫瘍の病態を理解し、その診断・治療過程を学ぶ。

個別行動目標 SBOs:

1)消化器系悪性腫瘍、特に胃癌、大腸癌、肝癌、胆道癌、膵癌の診断と治療について理解し、説明できる。

2)臨床的に頻度の高い疾患である胆石症、消化性潰瘍、良性食道疾患の診断と治療について理解し、説明できる。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各疾患についてプリント資料、スライド、および術式についてはビデオも用いながら総括的な講義を行う。

授業内容

1 回目 膵疾患
2 回目 胆嚢・胆道疾患
3 回目 食道疾患
4 回目 胃疾患
5 回目 大腸・小腸疾患
6 回目 肝疾患
7 回目 甲状腺疾患

キーワード	胆石症、胆道癌、膵炎、膵癌、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、肝移植、甲状腺
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準外科学(12 版、医学書院) 監修:北島政樹
成績評価の方法・基準等	講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。 再試験は1回行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へメッセージ)	特になし
実務経験のある教員による授業科目	・今村 一歩(第 1 回目) 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・木下 綾華(第 2 回目)/ 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・小林 慎一朗(第 3 回目)/ 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・村上 俊介(第 4 回目)/ 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・山口 峻(第 5 回目)/ 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・濱田 隆志(第 6 回目)/ 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる。 ・久芳 さやか(第 7 回目)/ 長崎大学病院における診療業務/外科疾患に関する基礎的な知識を教授し、その診断および治療法を理解させる

日程表(外科学2)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	30	月	4	膵疾患: 膵炎と膵癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	今村一歩	講義室3A
2回	12	7	月	4	胆嚢・胆道疾患: 胆石と胆道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	木下綾華	講義室6A
3回	12	14	月	4	食道疾患: 食道疾患、特に食道癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	小林慎一朗	講義室6A
4回	12	21	月	4	胃疾患: 胃疾患、特に胃癌の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	村上俊介	講義室3A
5回	1	4	月	4	大腸・小腸疾患: 大腸癌および小腸疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	山口　峻	講義室3A
6回	1	18	月	4	肝疾患: 肝癌や肝移植の適応となる疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	濱田隆志	講義室3A
7回	1	25	月	4	甲状腺疾患: 外科治療の対象となる甲状腺疾患の基本的な診断法と治療法に関する理解と知識を深めるよう講義を行う。	久芳さやか	講義室3A
8回	2	1	月	4	外科学各論　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 水・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084531 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(皮膚科学)/(Relational medicine Ⅰ, Dermatology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	竹中 基、鍬塚 大、小池雄太		

授業の概要

歯科医師として必要な皮膚科疾患の知識の習得。

授業到達目標　【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

皮膚疾患の本質を理解し、歯科医にとって重要な皮膚粘膜疾患についての知識を深めるために正常皮膚の機能を学習する。さらに発疹記載学、日常遭遇することの多い歯科領域に関連の深い皮膚粘膜疾患を中心に、病因、病態生理、臨床所見、治療法を理解する。

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:

1）正常皮膚の構造と機能を理解する。
2）皮膚粘膜疾患の皮疹、粘膜疹の記載方法を習得する。
3）歯科領域と関連の深い皮膚粘膜疾患について理解する。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドによる講義。

授業内容

1 回目　膠原病、腫瘍、水疱症と口腔症状
2 回目　歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー
3 回目　歯科金属アレルギーと皮膚疾患

キーワード	
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験 有
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・鍬塚 大 (第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。 ・竹中 基 (第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。 ・小池 雄太 (第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な皮膚科疾患について教授する。

日程表(皮膚科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	30	水	I	皮膚腫瘍 膠原病、腫瘍、水疱症と口腔症状	鍬塚　大	講義室3A
2回	10	7	水	I	アレルギー 歯科医師が知っておくべき薬物アレルギー	竹中　基	医学部 第3講義室
3回	10	14	水	I	皮膚病と口腔粘膜 歯科金属アレルギーと皮膚疾患	小池雄太	医学部 第3講義室

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時　木・Ⅰ	必修選択　必修	単位数　(2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084532 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(眼科学)/(Relational medicine　Ⅰ, Ophthalmology)		
対象年次　3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)　歯学部・薬学部		科目分類　関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / Ｅメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	井上大輔、上松聖典		

授業の概要

視覚に関係する器官の解剖と生理を解説し、眼科領域の代表的な疾患を紹介する。

授業到達目標　【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:
代表的な眼疾患について理解する。眼科救急疾患を理解する。　D-2-4　医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:
眼科学の概要を身につける。　D-6-1　医師と連携するために必要な医学的知識
医療従事者として知っておくべき眼科疾患を習得する。　E-2-4　医科歯科連携

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドによる講義。

授業内容

1 回目　眼球及び視覚伝達路の構造とその機能、前眼部疾患について修得する。
2 回目　眼の発生、網膜疾患について修得する。
3 回目　緑内障及びその他の代表的な眼疾患について修得する。

キーワード	眼、視覚、視路
教科書・教材・参考書	教科書　なし 参考書1. 病気がみえる vol.12 眼科　医療情報科学研究所 2. 標準眼科学　第 15 版　医学書院 3. 現代の眼科学　第 13 版　金原出版
成績評価の方法・基準等	レポート評価の6割以上をもって合格とする。出席率、追試験、再試験は学部規則に沿って厳格に行う。
受講要件(履修条件)	特になし
備考(学生へのメッセージ)	ぜひ興味をもって受講して頂きたいと思います。
実務経験のある教員による授業科目	井上大輔／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な眼科疾患について教授する。 上松聖典／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な眼科疾患について教授する。

日程表(眼科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	10	木	I	眼球及び視覚伝達路の構造とその機能、前眼部疾患について修得する。	上松聖典	講義室3A
2回	12	17	木	I	眼の発生、網膜疾患について修得する。	上松聖典	講義室3A
3回	1	7	木	I	緑内障及びその他の代表的な眼疾患について修得する。	井上大輔	講義室3A
4回	1	14	木	I	隣接医学Ⅰ　まとめ	教務委員長	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 水・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084533 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(耳鼻咽喉科学)/(Relational medicine Ⅰ, Otorhinolaryngology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	木原千春、小路永聡美、西 秀昭		

授業の概要

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の解剖および生理、疾患に対する理解を深め、将来の歯科医師・薬剤師になどの医療従事者として着任した際に役に立つ基礎としての医学知識を構築することを目標とする。

授業到達目標

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の解剖および生理、疾患に対する理解を深め、将来の歯科医師・薬剤師になどの医療従事者として着任した際に役に立つ基礎としての医学知識を構築することを目標とする。

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:

1. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の解剖についてひととおり説明することができる。
2. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の生理についてひととおり説明することができる。
3. 耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頚部の疾患について学習し、適切な場で耳鼻咽喉科医に対し適切な症例に関するコンサルテーションを行うことができる。
4. 耳鼻咽喉科の領域について広範囲であるということを認識することができる。
5. 耳鼻咽喉科の内科的側面および外科的側面について講義を通じて掴む事ができる。
6. 耳鼻咽喉科と歯科との連携について、講義を通じて考えることができる。
7. 耳鼻咽喉科と薬剤師との連携について、講義を通じて考えることが得きる。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

資料はプリントの配布。講義はスライド、ビデオなどを供覧し行う。

授業内容

1回目 鼻副鼻腔の構造と疾患
2回目 耳の構造と聞こえの仕組み
3回目 頭頸部腫瘍の診断と治療

キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 STEP 耳鼻咽喉科学(海馬書房)・新耳鼻咽喉科学(南山堂)
成績評価の方法・基準等	授業に対する積極的な取組状況30点、レポート70点

実務経験のある教員による授業科目	・木原千春　(第1回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。 ・小路永聡美(第2回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。 ・西　秀昭(第3回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科医師に最低限必要な耳・鼻・咽喉等の機能や構造について教授するとともに、代表的な疾患についてその診断と治療を教授する。

日程表(耳鼻咽喉科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	21	水	I	鼻、副鼻腔の構造と疾患	木原千春	講義室3A
2回	10	28	水	I	耳の構造と聞こえの仕組み	小路永聡美	講義室3A
3回	11	4	水	I	頭頸部腫瘍の診断と治療	西　秀昭	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 水Ⅰ、月Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084534 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(整形外科学)/(Relational medicine Ⅰ, Orthopedics)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	松林 昌平、白石 和輝、青木 龍克		

授業の概要

主要整形外科疾患の病態の把握。骨・関節の疾患の病態の把握。

授業到達目標

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:
運動器疾患の正確な診断と理解を深める。

D-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:
1）整形外科が扱う疾患を理解する。
2）それぞれの疾患の治療法を理解する。
3）未来の人口動態より自分たちの置かれている状況を予想する。

D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドを使用して行う。

授業内容

1 回目 下肢の主要な外傷と疾患の解説 (白石)
2 回目 運動器疾患の総論 (松林)
3 回目 上肢の主要な外傷と疾患の解説 (青木)
＊担当教員は変更の可能性あり

キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 標準整形外科学:医学書院
成績評価の方法・基準等	筆記試験 再試験は1回行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	LACS に掲載されている資料を勉強して下さい。
実務経験のある教員による授業科目	・白石 和輝(第1 回目)／長崎大学病院における診療業務／整形外科疾患(下肢)の病態や診断について教授する。 ・松林 昌平(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／整形外科疾患(総論)の病態や診断について教授する。 ・青木 龍克(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／整形外科疾患(上肢)の病態や診断について教授する。

日程表(整形外科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	9	月	I	下肢の障害 下肢の主要な外傷と疾患の解説	白石	講義室3A
2回	11	11	水	I	整形外科総論 運動器疾患の総論	松林	医学部 第1講義室
3回	11	18	水	I	上肢の障害 上肢の主要な外傷と疾患の解説	青木	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 水・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084535 DNGD33211992 隣接医学Ⅰ(形成外科学)/(Relational medicine Ⅰ, Plastic and Reconstructive Surgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	樫山 和也、岩尾 敦彦		

授業の概要

身体外表の異常を機能的・形態的に再建し、患者の社会復帰を促すという形成外科治療についての理解を深めさせる。第1回目では創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料について講義する。第2回目では形成外科概論、形態と機能との関わり組織移植の基礎と応用について講義を行う。

授業到達目標

一般目標 GIO:

形態異常のハンディキャップとしての特殊性をよく理解し、どのようなものが形態異常の原因となりうるのかを理解する。また、創傷治癒と再生医療の基礎と形成外科における臨床への応用、また、組織移植術に対する基礎的知識の理解とその応用、医療材料の特徴と問題点などについて深い知識の習得を目的とする。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:

1) 形成外科学の概念を理解し、各自の専門分野に繋げる。
2) 形成外科の対象疾患と治療法を理解する。

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

レジュメを LACS に掲載し、パワーポイントを用いた講義を行う。

授業内容

1 回目 創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料
2 回目 形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用

キーワード	
教科書・教材・参考書	標準形成外科学 第 7 版:平林慎一・鈴木茂彦・岡崎 睦 編集、医学書院 TEXT 形成外科学 第 3 版:波利井清紀 監修、 南山堂
成績評価の方法・基準等	出席率及びレポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	
実務経験のある教員による授業科目	・樫山 和也(第1回目)／長崎大学病院における診療業務／創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料について教授する。 ・岩尾 敦彦(第2回目)／長崎大学病院における診療業務／形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用について教授する。

日程表(形成外科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	2	水	I	創傷治癒と再生医療、皮膚形成術、医療材料	樫山	講義室3A
2回	12	9	水	I	形成外科概論、形態と機能との関わり、組織移植の基礎と応用	岩尾	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 月・Ⅳ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084541 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(小児科学)/(Relational medicine Ⅱ, Pediatrics)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	伊達木澄人(だてき すみと)、橋本邦生(はしもと くにお)		

授業の概要

小児は身体が単に小さいだけでなく、様々な生理的な特徴を持っています。その小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようになることを目標とします。

授業到達目標 【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:
小児の特殊性について理解できるようにします。また、小児の救急についての基本的な知識を身につけ、状態の把握とその対処ができるようになることを目標とします。こどもと接する機会は必ずあるのでこどもの特性は理解できるようになることを目標とします。

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:
小児の特徴がわかり、救急処置について理解する。
小児の成長のメカニズムと成長障害について理解できる。
小児によく診られる感染症、アレルギーなどの疾患について理解できる。

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

プリントと PC プロジェクターを用いて解説を行う。

授業内容

1 回目 小児の身体的特徴、成長と発達について理解を深める。
2 回目 子どもの救急対応について理解を深める。
3 回目 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、染色体異常症、骨系統疾患について学ぶ。

キーワード	小児の特徴、救急処置、成長、発達、アレルギー、感染症
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 標準小児科学(医学書院)
成績評価の方法・基準等	3回の講義について筆記試験もしくはレポートで評価する。 出席率、追試験、は学部規則に沿って行う。 再試験は1回のみ行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	小児を診るうえで重要な項目であるので復習をしっかりすることが望ましい。
実務経験のある教員による授業科目	・伊達木澄人 (第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／小児の身体的特徴、成長、発達、について教授する。 ・橋本邦生(第 2 回目、第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／小児の救急対応/小児疾患(感染症、アレルギー)について教授する。

日程表(小児科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	28	月	Ⅳ	こどもの特徴・成長発達 小児の身体的特徴、成長と発達について理解を深める。	伊達木澄人	講義室3A
2回	10	5	月	Ⅳ	こどもの疾患 こどもの疾患について理解を深める。とくによく診る感染症、アレルギー疾患	橋本邦生	講義室3A
3回	10	19	月	Ⅳ	こどもの救急 子どもの救急対応について理解を深める。	橋本邦生	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時　月・Ⅳ	必修選択　必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084542 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(産科婦人科学)/(Relational medicine Ⅱ, Obstetrics and Gynecology)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類　関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	川下さやか、西真輝、梶村慈、三浦生子		

授業の概要

産科婦人科学は、生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍学および女性医学の 4 領域に大別される。本科目では、それぞれの領域における「基本的知識」の学習に主眼をおく。

○婦人科腫瘍医学

女性性器の発生に関する基本的知識を修得し、各腫瘍における疫学、組織像について最近の話題を含めて学習する。

○周産期医学

妊娠・分娩のプロセスを理解し、その異常について学習する。

○生殖医学

受精と着床に関する基本的知識を修得し、不妊治療を含む生殖補助医療の最新の話題も含めて学習する。

○女性医学

女性のライフステージの中で起こりうる疾患を理解し、健康管理に必要な知識(予防医学)を学習する。

授業到達目標　【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:

生殖医学、周産期医学、婦人科腫瘍医学、および女性医学についての基本的知識を修得する。

D-2-4　医科歯科連携
D-6-1　医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4　医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:

1) 女性生殖器の解剖ならびに生理を理解する
2) 性周期、卵子の発育から妊娠の成立過程を理解する
3) 妊娠経過、正常分娩とその異常について理解する
4) 婦人科疾患、特に婦人科腫瘍について理解する
5) 女性のライフステージとヘルスケアについて理解する

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

講義形式で行う。スライドを中心に講義し、適宜プリントの配布等を行う。

授業内容

1 回目　婦人科腫瘍医学
女性性器の発生学とその異常(良性腫瘍、悪性腫瘍)

2 回目　周産期医学
妊娠から分娩までのプロセスとその異常

3 回目　生殖医学
受精、着床のプロセスとその異常

4 回目　女性医学
女性のライフステージとヘルスケア

キーワード	受精、着床、不妊症、妊娠、分娩、胎児、腫瘍、病理像、女性のヘルスケア
教科書・教材・参考書	特に指定しない。
成績評価の方法・基準等	筆記試験を実施する。 100 点満点で 60 点未満を不合格とする。 再試験は 1 回のみ行う。
受講要件(履修条件)	特にない。
備考(学生へのメッセージ)	生命の誕生からその終焉までを診る学問である。生殖や妊娠には倫理的問題が関わる場合も少なくない。新聞などのニュースでこれらの問題について触れ、そのことについて自分なりに考えることが重要である。
実務経験のある教員による授業科目	・川下さやか(第 1 回目)/長崎大学病院における診療業務/腫瘍医学に関する基本的知識を教授する。 ・西真輝(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／周産期医学に関する基本的知識を教授する。 ・梶村慈(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／生殖医学に関する基本的知識を教授する。 ・三浦生子(第 4 回目)／長崎大学病院における診療業務／女性医学に関する基本的知識を教授する。

日程表(産科婦人科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	26	月	Ⅳ	婦人科腫瘍学 女性性器の発生とその異常（良性腫瘍、悪性腫瘍）	川下さやか	講義室3A
2回	11	2	月	Ⅳ	生殖医学 受精、着床のプロセスとその異常	梶村慈	講義室3A
3回	11	9	月	Ⅳ	周産期医学 妊娠から分娩までのプロセスとその異常	西　真輝	講義室3A
4回	11	16	月	Ⅳ	女性医学 女性のライフステージとヘルスケア	三浦生子	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時 木・Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084543 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(泌尿器科学)/(Relational medicine Ⅱ, Urology)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	大庭康司郎、原田淳樹、中村裕一郎		

授業の概要及び位置づけ

腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。まず、1 回目は総論として腎・泌尿器の解剖と機能および症候と検査法について講義する。2回目は一般的な泌尿器科疾患として、頻度の高いものを講義する。3回目は泌尿器科で特に主要な疾患である泌尿器腫瘍の診断と治療について講義する。これらを通じて、泌尿器科診療の概要と実際を学び、最終的に泌尿器科学の重要性を理解し、説明できるようになることをめざす。

授業到達目標

一般目標 GIO:

腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解し、泌尿器科学の概要を把握する。

個別行動目標 SBOs:

1.腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる。
2.腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。
3.腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。
4.主要疾患の治療法を概説できる。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドとプリントを使った講義。

授業内容

1 回目 腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など)
・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。
2 回目 泌尿器腫瘍の診断および治療
・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる。
3 回目 泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法)
・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる。

キーワード	泌尿器科学、泌尿器科腫瘍、腎・尿路
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. 講義録 泌尿器科学(メジカルビュー社) 2. 標準泌尿器科学(医学書院)
成績評価の方法・基準等	レポートによる評価を行う。60 点以上を合格とする。 評価で不可の場合は再度のレポート提出または口頭試問とする。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	できるだけ歯学や薬学の領域でも役に立つ講義内容にします。
実務経験のある教員による授業科目	・原田 淳樹(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。 ・大庭 康司郎(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。 ・中村 裕一郎(第 3 回目)／長崎大学病院における診療業務／泌尿器疾患の病態、診断及び治療について教授する。

日程表(泌尿器科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	19	木	I	腫瘍以外の主な泌尿器科疾患(尿路感染症、尿路結石、排尿機能障害など) ・増加傾向にあるこれらの疾患の予防も含めたマネージメントについて説明できるようになる。	原田淳樹	講義室3A
2回	11	26	木	I	泌尿器腫瘍の診断および治療 ・特に重要である腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌については治療までのフローが説明できるようになる	大庭康司郎	講義室3A
3回	12	3	木	I	泌尿器科学総論(腎・尿路・男性生殖器の解剖と機能、おもな症候と検査法) ・泌尿器科領域で扱う臓器の構造と機能を説明できるようになる	中村裕一郎	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 水Ⅰ	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084544 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(精神神経科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neuropsychiatry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	熊﨑博一、浦島佳代子、清水日智		

授業の概要

プライマリケアでも重要で歯科領域において認められやすい精神と行動の障害に関する症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて学ぶ。(不安、うつ、統合失調症、認知症、小児・思春期における精神障害など)

授業到達目標

一般目標 GIO:
歯科領域にとって必要な精神科疾患の概要を紹介し、疾患及び罹患した患者への理解を深める。
個別行動目標 SBOs:
1) 精神現象の複雑さを知り、患者の発達段階や精神症状に応じた安全な対応を理解する。
2)プライマリケアにおける精神医学的症状の把握に必要な情報を知り、精神障害への理解を深め、偏見・差別の軽減に努める。

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

対応するディプロマポリシー

DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

スライドや VTR などを利用しながら講義を行うが、受講学生の授業への積極的参加を期待して討論を行う。

授業内容

1回目
「精神疾患概論:メンタルヘルス概論、ストレス・不安・抑うつなどの症候に関する概説を行う。統合失調症、うつ病、身体表現性障害、神経発達症などプライマリケアで認められる精神障害の症候、診断と治療について解説する。」
2 回目
「精神疾患とセルフケア困難:精神疾患の合併によって GAF(Global Assessment of Functioning:全体的機能評価)が低下しセルフケアが不十分、あるいは困難になることを理解し、歯科医師として求められる能力について学習する。」
3 回目
「小児と成人の違い、小児にみられる精神疾患:成人と小児の違い、発達段階における特徴、小児・思春期における精神障害を中心に、症候や診断、治療について解説する。」

キーワード	精神疾患 うつ病 セルフケア
教科書・教材・参考書	教科書 なし 参考書 1. ICD-10「精神・行動の障害」マニュアル(中根充文、岡崎祐士著、医学書院) 2. 標準精神医学(野村総一郎、樋口輝彦著、医学書院) 3. DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル (髙橋 三郎、大野 裕、医学書院)
成績評価の方法・基準等	出席とレポートにより評価する。 再試験:無
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	具体的な症例を挙げながら、精神科と歯科、薬科がどのように結びついてくるのか考察を深めていきます。
実務経験のある教員による授業科目	・熊﨑博一／長崎大学病院における診療実績／歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する ・浦島 佳代子／長崎大学病院における診療実績／歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する ・清水 日智／長崎大学病院における診療実績／歯科領域に必要な精神科疾患の概要を教授する

日程表(精神神経科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	12	16	水	I	精神疾患概論	熊崎	講義室3A
2回	1	6	水	I	精神疾患とセルフケア困難	浦島	講義室3A
3回	1	13	水	I	小児と成人の違い、小児にみられる精神疾患	清水	講義室3A

年度 2026 学期 4Q	曜日・校時 水・V	必修選択 必修	単位数 (2)
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084545 DNGD33221992 隣接医学Ⅱ(脳神経外科学)/(Relational medicine Ⅱ, Neurosurgery)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 3A	
対象学生(クラス等)	歯学部・薬学部	科目分類 関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉田光一、氏福健太		

授業の概要

歯科診療に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患に関して概説し、歯科、口腔外科領域に隣接する頭頸部の外傷、脳卒中、腫瘍、疼痛性疾患の病態、診断、治療法を学び、鑑別診断ができる能力を養う。

授業到達目標

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:
頭部外傷、脳卒中などの脳神経外科的救急疾患についての基本的知識を得る。

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:
1)頭頸部の腫瘍につき理解する。
2)三叉神経痛に対する脳外科治療について理解する。

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

主として PC プレゼンテーションにて行う。

授業内容

1 回目 頭部外傷、脳卒中など脳神経救急疾患について概説する。
2 回目 三叉神経痛に対する脳外科治療について概説する。

キーワード	
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	出席率、レポート等により行う。
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	急患等の対応のため、講義担当者が変更になることがある。
実務経験のある教員による授業科目	・吉田 光一(第 1 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科領域に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患について病態、診断、治療法を教授する。 ・氏福 健太(第 2 回目)／長崎大学病院における診療業務／歯科領域に関連が深いと考えられる脳神経外科疾患について病態、診断、治療法を教授する。

日程表(脳神経外科学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	25	水	V	頭部外傷 頭部外傷、脳卒中など脳神経外科救急疾患について概要する。	吉田光一	講義室3A
2回	12	2	水	V	三叉神経痛 三叉神経痛に対する脳神経外科治療について概説する。	氏福健太	講義室3A

年度 2026 学期 3Q	曜日・校時　時間割を参照	必修選択　必修	単位数 0.5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25084551 DNGD33231992 隣接医学Ⅲ(人類遺伝学)/(Relational medicine Ⅲ, Human Genetics)		
対象年次 3 年次	講義形態　講義形式	教室　講義室 3A	
対象学生(クラス等)　歯学部		科目分類　関連臨床医学	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉浦 孝一郎		

授業の概要

歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。
(分子)遺伝学は，メンデルにより導入された抽象的な概念としての遺伝因子(メンデルのいう要素)が導入され，その具体的物質的基盤である分子の正体(DNA など)が判明することにより爆発的に発展した。遺伝学は，ゲノム情報の違いや変化(多様性、変異、進化)，遺伝情報の伝え方(伝達、形式)，遺伝情報の働き方(現象)などを扱う。これらは生命現象の基本であるため，遺伝学の素養を身につけることは生物学やその応用としての医学や歯学を学ぶためには必須である。また，ゲノム情報は医療に利用される時代が到来しており，医師・歯科医師に必須の知識となっている。ゲノム，DNA，遺伝子の構造から遺伝の仕組み，遺伝形式，遺伝子変異と疾患，多因子疾患の特徴およびゲノム医学について学ぶ。

授業到達目標　【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】

一般目標 GIO:
歯科医師および生物系研究者に必要な遺伝学の基本的知識と概念の修得をめざす。

D-2-4 医科歯科連携
D-6-1 医師と連携するために必要な医学的知識
E-2-4 医科歯科連携

個別行動目標 SBOs:
1.遺伝子の概念やゲノムの概念について説明できる。
2.遺伝学がどのような学問であるのかについて説明できる。
3.遺伝学的疾患分類について説明できる。
4.遺伝子の構造と遺伝子発現システムについて説明できる。
5.遺伝の原理について説明できる。
6.遺伝子変異や多型についての概略やそれらを説明できる。
7.多因子疾患について概略を説明できる。
8.ミトコンドリア遺伝やエピジェネティクスについて説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP4:歯科口腔疾患を全身疾患と関連付けて診断できる臨床能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
教科書は指定せず，授業計画に沿った説明やプリント、スライドで授業を進める。

授業内容

1 回目　分子遺伝学の基礎，メンデル遺伝の基礎
2 回目　メンデル遺伝病
3 回目　染色体異常，ミトコンドリア病，エピジェネティックスとその異常
4 回目　遺伝性疾患の分子病理 1
5 回目　遺伝性疾患の分子病理 2
6 回目　集団遺伝学の基礎
7 回目　多因子疾患
8 回目　まとめ

キーワード	ゲノム，ミトコンドリア，遺伝形式，遺伝子変異，多因子疾患，多様性
教科書・教材・参考書	教科書の指定はない。但し，参考書として以下を推薦する。 遺伝医学(羊土社，渡邊 淳 (著))，遺伝医学への招待 (改訂第6版，南江堂)
成績評価の方法・基準等	筆記試験で評価する。点数が 60 点以上を合格とする。再試(1 回)あり。**なお。本試で 30%以下の得点は，再試対照としない。** **8 回の講義のうち，3 回欠席すれば自動的に失格とする。**
受講要件(履修条件)	
備考(学生へのメッセージ)	基本的知識は必要だが，その背景にある論理を理解してほしい。授業で説明した内容は，その都度復習しておくこと。高校生物未履修者は，該当分野を自習しておくこと。用語を覚えることだけでは，試験に合格することは難しいと考えられる。最も効率的な勉強法は，授業をよく聞いておくことである。 授業の進行具合に応じては，授業内容が変更されることもあるが，その都度指示する。
実務経験のある教員による授業科目	吉浦　孝一郎／病院での診療経験／診療経験を活かし，遺伝学に関する講義を実施する。

日程表(人類遺伝学)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	木	1	分子遺伝学の基礎，メンデル遺伝の基礎	吉浦	講義室3B
2回	10	8	木	1	メンデル遺伝病	吉浦	講義室1B
3回	10	15	木	1	染色体異常，ミトコンドリア病，エピジェネティックスとその異常	吉浦	講義室3A
4回	10	22	木	1	遺伝性疾患の分子病理1	吉浦	講義室3A
5回	10	29	木	1	遺伝性疾患の分子病理2	吉浦	講義室3A
6回	11	5	木	1	集団遺伝学の基礎	吉浦	講義室3A
7回	11	12	木	1	多因子疾患	吉浦	講義室1B
8回	11	25	水	1	隣接医学Ⅲ　まとめ	吉浦	講義室3A

研究科目（3 年次生、4 年次生、5 年次生、6 年次生）

※歯学研究コース履修者対象

基礎歯学研究概論　(3 年)・・・・・・・・・・・・ 313
基礎歯学研究　(3・4 年)・・・・・・・・・・・・315
臨床歯学研究概論　(4 年)・・・・・・・・・・・・ 317
歯学研究　(5・6 年)・・・・・・・・・・・・320

年度 2026 学期 1・2Q	曜日・校時 金・4～6 or 6～8	必修選択 選択	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104901 DNDR33441993 基礎歯学研究概論/(The Outline of Basic Dentistry)		
対象年次 3 年次	講義形態 講義形式	教室 講義室 別途掲示	
対象学生(クラス等) 歯学研究コース		科目分類 研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-77613/9:00～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、永野健一		

授業の概要

各研究室における研究内容の紹介と配属後の実習内容について紹介し、今後の研究活動の動機づけとする。
基礎歯学研究における配属先研究室を選択する。

授業到達目標 【令和4年度 歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
一般目標 GIO:
本大学院の基礎歯学分野の研究内容について理解する。 RE:科学的探究
個別行動目標 SBOs: C-2 探究と解決能力
本大学院の基礎歯学分野の研究内容を説明できる。

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)

各基礎系分野担当教員のオムニバス形式で講義を行う。

授業内容

1 回目 歯学研究コース概要、研究倫理に関する講義(吉村教務委員長)
2 回目 顎顔面解剖学:歯科人類学の基礎と応用
3 回目 硬組織発生再生学:骨の幹細胞の運命追跡:骨の成長、再生、発がんに関わるユニークな幹細胞の研究について
4 回目 口腔病理学:病理学と病理診断について
5 回目 口腔病原微生物学:歯周病細菌の病原因子(プロテアーゼなど)について
6 回目 歯科薬理学:エンドソーム・リソソームの機能と病態および歯科への応用について
7 回目 生体材料学:歯科用生体材料の物性(機械的性質や物理的性質、化学的性質)について
8 回目 分子腫瘍生物学:遺伝子改変マウスを用いた腫瘍発症メカニズムの解析について
9 回目 フロンティア口腔科学:免疫応答と口腔疾患について
10 回目 加齢口腔生理学:体内時計の神経生理メカニズムに関する研究について

キーワード	
教科書・教材・参考書	なし
成績評価の方法・基準等	レポートにより評価する。 レポートは、各回の授業終了後１週間以内に学務係に提出するものとする。 また、授業への貢献度も評価の対象とする。
受講要件(履修条件)	全体を通じて総授業数の 2/3 以上の出席が求められる。
備考 (学生へのメッセージ)	各担当教員に遠慮なく質問してください。
実務経験のある教員による授業科目	

日程表(基礎歯学研究概論)

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	木	3	(歯学研究コース概要・研究倫理について) 歯学研究コース履修に関する説明と質疑応答を行い、研究倫理に関する講義を行います。	吉村 教務委員長	講義室6B
2回	4	10	金	4～6	(硬組織発生再生学) 骨の成長や再生、発がんに関わるユニークな骨の幹細胞について、最新の研究内容を紹介し、今後の実習内容について説明します。	松下	A棟3階
3回	4	17	金	4～6	(顎顔面解剖学) 歯科人類学の基礎と応用、およびその成果の一部について紹介すると同時に、今後の実習内容について紹介する。	小山田	会議室2A
4回	4	24	金	4～6	(口腔病理学) 口腔疾患の組織学的診断と基礎研究、及び口腔病理学でのコースの概要を説明します。	永野	講義室3A
5回	5	1	金	4～6	(口腔病原微生物学) 歯周病細菌の病原性に関するこれまでの当教室の研究内容を紹介し、コースワークでの今後の実験研究内容について紹介します。	内藤	C棟5F口腔病原微生物学分野セミナー室
6回	5	22	金	6～8	(歯科薬理学) リソソームの機能とその疾患について、これまでの薬理学分野の研究内容の紹介、および今後の実習内容について紹介します。	筑波	A棟2階 第1セミナー室
7回	5	29	金	6～8	(生体材料学) 歯科用生体材料の各種物性と臨床適応について、これまでの生体材料学分野の研究内容の紹介、および今後の実験研究について紹介します。	渡邊	講義室3A
8回	6	5	金	6～8	(分子腫瘍生物学) 分子腫瘍学に関する最新の知見を紹介し、今後の実習内容について説明します。	伊藤	A棟7階
9回	6	19	金	4～6	(フロンティア口腔科学) 感染症やアレルギー疾患など免疫が関わる疾患について当分野の研究成果を紹介し、今後の実習内容について説明します。	門脇	A棟2階 第1セミナー室
10回	6	26	金	4～6	(加齢口腔生理学) サーカディアンリズムを制御する神経回路に関する研究を紹介し、今後の実験研究内容について説明します。	中村	講義室3A

年度 2026 学期 通年	曜日・校時 3 年次/金・6～8 、 4 年次/月・7～8	必修選択　選択	単位数 5
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25104902 DNDR33451993 基礎歯学研究/(Basic Dental Reseach)		
対象年次 3 年次、4 年次	講義形態　実験形式	教室　各基礎系研究室	
対象学生(クラス等)　歯学研究コース		科目分類　研究科目	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 歯学部教務委員長/gaku_den@ml.nagasaki-u.ac.jp/歯学部学務係/095-819-7613/9:00～17:00			
担当教員 (オムニバス科目等)	小山田常一、松下祐樹、中村渉、内藤真理子、筑波隆幸、渡邊郁哉、伊藤公成、門脇知子、 佐藤啓子、小野寺貴恵、		

授業の概要
配属先の基礎系研究室で研究を行う。積極的に活用して，歯学の最先端の研究活動に参加する機会とすること。
指導の一貫で，海外大学研究施設におけるフィールドワークや講義の聴講を実施することがある。

授業到達目標
一般目標 GIO:
配属先の基礎歯学分野の研究内容について理解し、研究に参加する。
個別行動目標 SBOs:
配属先の基礎系研究室で歯学研究活動を行うことができる。

【平成 28 年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
A-8-1)

【令和4年度歯学教育モデル・コア・カリキュラム】
RE:科学的探究
C-2　探究と解決能力

対応するディプロマポリシー
DP5:歯科口腔医療の現場における問題発見・解決能力を身につけ、リサーチマインドを修得している。
DP6:多様化する歯科口腔医療のニーズに即応し、先端的医療を実践するために、生涯に亘り自己主導型学習を継続できる。
DP11:未来の医療を切り拓くための先端的研究に興味を持ち、歯科口腔医学の発展に貢献できる能力を身につけている。

授業方法(学習指導法)
各基礎系分野担当教員の指導のもと、実験等を行う。

授業内容
○ 3年次と4年次で実施日が以下のとおり異なるので留意すること。
3年次:前後期の金曜日 6～8 校時(基礎歯学研究概論受講後に開始)
4年次:前後期の月曜日 7～8 校時
※実験など内容によっては回数や時間数が変更になる場合もある。
○ 各コース内容に関しては次項の授業内容を参照のこと。学生との話し合いで多少の変更もありえる。

(コース)
1.顎顔面解剖学研究:形質人類学における歯の形態学的アプローチについて学習する。
2.硬組織発生再生学:発生工学・幹細胞生物学・分子生物学的手法を用い、骨の発生、再生、がんに関する研究を行う。
3.加齢口腔生理学研究:体内時計の神経回路と生理機能に関する実験研究。
4.口腔病理学研究:病理標本の作製実習、臨床症例の病理組織学的検討、疾患の分子生物学的解析を行う。
5.口腔病原微生物学研究:細菌を用いた遺伝生化学的実験研究などを行う予定
6.歯科薬理学研究:実験動物、細胞培養、遺伝子工学実験、生化学実験などを行う予定
7.生体材料学研究:歯科用生体材料の各種物性評価試験を行う予定
8.分子腫瘍生物学研究:遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。
9.フロンティア口腔科学研究:細胞生物学・分子生物学的手法、遺伝子改変動物を用いて、免疫・炎症に関する研究を行う予定

教科書・教材・参考書	各コース教員の指定する教材
成績評価の方法・基準等	主に発表内容，レポート等。詳しくは各コース担当教員に尋ねること。
受講要件(履修条件)	・学校推薦型選抜者以外で歯学研究コースの履修を希望する者は、2 年次後期の所定の期日までに学部長に履修希望届を提出し、許可を受けなければならない。 ・履修希望届の提出があった者に対して教務委員会が選抜のうえ学部長に推薦し、学部長が許可する。 ・基礎歯学研究概論を受講後に希望する研究室を学務係に申告すること。 研究室によっては人数制限が掛かる場合も有ります。 ・全体を通じて総授業数の 3/4 以上の出席が求められる。

コース表

No.	コース	授業内容	日程	担当者
1	顎顔面解剖学研究	形質人類学における人骨資料や生体資料からのデータ採取、解析、結果の解釈などについて学習する。 定員は0名の予定	3年次/金6～8 4年次/月7～8	小山田
2	硬組織発生再生学研究	骨の幹細胞に着目し、遺伝子改変マウス、幹細胞培養系、分子生物学的解析法を用いて、骨格の形成、再生機構やがんの発生メカニズムの同定に関する研究を行う。 定員は1～2名の予定		松下 森石
3	加齢口腔生理学研究	体内時計の神経回路に関する実験研究を行う。 定員は2名の予定		中村
4	口腔病理学研究	分子細胞学的な研究にも、臨床での病理組織診断にも不可欠な形態学的研究手法を学ぶ。パラフィン標本の作製、標本の観察、細胞生物学的実験を行う。 定員は0名の予定		片瀬 永野
5	口腔病原微生物学研究	微生物、特に細菌を用いた遺伝生化学的実験研究を教員の指導のもとに行う。 定員は1～2名の予定		内藤
6	歯科薬理学研究	教員の指導のもと、動物の取り扱い方、培養細胞法、遺伝子工学実験、生化学的実験について学ぶ。 定員は2～3名の予定		筑波 山口
7	生体材料学研究	教員の指導のもと、各種物性試験機器の取り扱い方、物性試験方法について学ぶ。 定員は2名の予定		渡邊 バラネザハド
8	分子腫瘍生物学研究	教員の指導のもと、遺伝子改変マウスを用いて、分子腫瘍学に関する基礎的な解析を行う。 定員は1～2名の予定		伊藤 大谷 上野
9	フロンティア口腔科学研究	教員の指導のもと、培養細胞や遺伝子改変動物を用いて細胞生物学的・分子生物学的実験を学ぶ。 定員は2名の予定		門脇 佐藤 小野寺

※4年次について、10/19(月)及び10/26(月)は「総合歯科学Ⅰ」を受講すること。